



機動戦士ガンダム ギレンの野望

ジオンの系譜

一年戦争戦略研究

人類がその増えすぎた人口を宇宙に移民しはじめて
すでに数十年がたった ——。

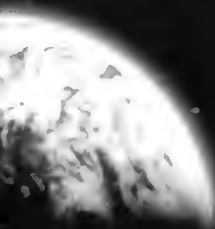
スペースコロニーは人類の第二の故郷となり、

人々はそこで子を産み、

そして死んでいった。

そして、地球連邦の植民地的支配からの独立を考えはじめた。





「サイド3」。この地球から最も離れた場所に建設されたスペースコロニーは、ジオン公国を名乗り、U.C.0079年1月3日、地球連邦に対し宣戦を布告した。戦火は瞬く間に地球圏へと広がり、わずか数週間で全人口の半数が戦乱の犠牲となった。

ジオン軍は電撃作戦により、戦争初期の主導権を獲得した。しかし、徹底交戦を決意した連邦軍の反撃により、戦線は硬直する。戦争の早期決着を狙ったジオン軍にとって、戦争の長期化は予想外のことであった。そして、連邦軍は戦線の膠着に乗り、新兵器を開発し、戦局の打開を図ることになる。

後に「一年戦争」と呼ばれる戦いは、人類、そして母なる地球にも大きな傷跡を残した。そして戦争中に生まれた様々な軋轢はコロニーと地球に住む人々の溝を決定的なものとした。しかし、戦争中に生み出された数々の技術は研究が重ねられ、人類の生活になくてはならないものとなっていったことも事実である。

戦争の「功罪」。何をもって罪とし、何をもって功とするのか。それは後世の人々が決めることである。客観的な判断こそ、この愚かな行為の是非を問えるものではないだろうか？



機動戦士ガンダム～ギレンの野望～

ジオンの系譜

一年戦争戦略研究

C O N T E N T S

目次

第一章

一年戦争史…P5

一年戦争編…P6

一年戦争後&If…P24

第二章

地域別ガイド…P37

地球…P40

宇宙…P54

第三章

メカニックファイル…P65

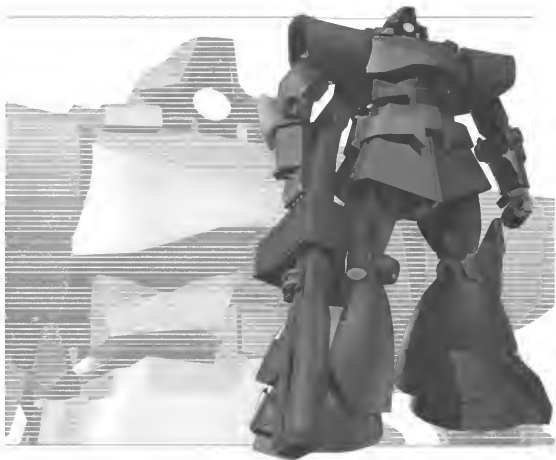
第四章

キャラクターファイル…P121

用語集…P141

第	1	章
---	---	---

	一	年	戰	争	史	
--	---	---	---	---	---	--



GIHREN'S GREED
BLOOD OF ZEON

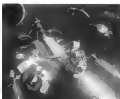
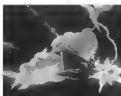


一年戦争勃発【一週間戦争】

ジオン独立戦争「一年戦争」の開戦

U.C.0079年1月3日、サイド3のジオン公国は、地球連邦政府からの独立を求めて宣戦を布告した。ジオン軍は宣戦布告とほぼ同時にサイド1、2、4へ奇襲攻撃を仕掛け、これらのサイドを壊滅させた。この攻撃で、いくつものスペースコロニーが被害を受けた。なお、この戦場でジオン軍がコロニーに対してNBC兵器(核・生物・化学兵器)を使用したことが確認されている。

▶ジオン軍の奇襲攻撃に対して、反撃の態勢が整っていなかった連邦軍は敗北した。



◀ジオン軍は秘密裏に開発を進めていたMSを実戦に投入し、連邦軍の兵器に対して圧倒的な戦果を挙げた。

宇宙世紀始まって以来の蛮行

3つのサイドを壊滅させたジオン軍は、さらなる暴挙に出る。コロニーを質量兵器に見立て、連邦軍本部ジャブローに向けて落下させたのだ。連邦軍の迎撃によってコロニーは軌道を外れたが、その一部はオーストラリアに到着、大陸の一部を消失させ、地表に大規模な気象変動を引き起こした。この戦闘は1月10日に終了し、のちに「一週間戦争」と呼ばれることとなった。



◀落下したコロニーは大規模な気象変動を引き起こし、その被害は大陸を覆った。

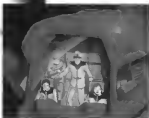
ルウム戦役

サイド5壊滅、被害は25億人

ジャブローへのコロニー落としに失敗したジオン軍は、1月15日、サイド5「ルウム」へドズル・ザビ率いる艦隊を派遣。名將レビル将軍が率いる連邦軍の大艦隊と戦闘になる。この戦いはジオン軍の勝利に終わり、レビル将軍は捕虜となった。



◀ジオン軍はここでもコロニー落としを敢行。しかし、連邦軍の抵抗によって失敗する。



▶レビル将軍は大破した旗艦「アナンケ」から脱出する際、ジオンの「黒い三連星」によって捕らえられた。

新兵器「モビルスーツ(MS)」

ジオン軍が数で勝る連邦軍に勝利できた理由に、巨大人型兵器「モビルスーツ(MS)」の存在がある。レーダーや電波誘導を無力化する効果を持つ「ミノフスキー粒子」が発見された現在、連邦軍の有する兵器は有視界戦闘を強いられ、機動性に優れるMSの格闘戦で一方的に敗北していった。ミノフスキー粒子の研究とMSの開発を積極的に進めていたジオン軍に、先見の明があったと言わざるを得ない。



▲作業用として開発されたMSは、宇宙空間での作業も可能。

南極条約調印【レビル將軍の帰還】

開戦に踏み切ったギレンの真意

1月31日、ジオン公国は休戦を連邦政府に持ちかけ、双方の代表は条約締結のため南極に会議の席を設ける。しかしこの条約は、連邦政府に対するジオン公国の降伏勧告であった。ジオン公国の暴挙は、条約を連邦政府に受諾させるための苦肉の策だったともいえる。

双方の対立は長期化の構図へ

しかし、条約調印が成されようとしたそのとき、ジオン軍の捕虜となっていたレビル將軍が帰還を果たす。連邦軍諜報部の救出作戦が成功したのである。

彼は休む間もなく演説台に立ち、ジオン公国の貧窮ぶりを説き徹底抗戦を訴えた。このレビルの言葉に意気揚がる連邦政府は、一方的な条約の内容を変更し軍事条約にとどめることに成功する。

レビル將軍の帰還という予期しない事態によって、ギレン・ザビの描いたシナリオは変更を余儀なくされ、ジオン軍としては回避すべきであった長期戦へと戦局は移っていった。



▲連邦政府代表とジオン公国代表の表層は、お話しであった。



▲レビル將軍の帰還は、窮地に陥っていた連邦政府にとってまさしく「地獄に仏」であった。



▲サイト3へとさらけ出されたレビル將軍はジオン公国の実情を知り、ジオンに兵なしと賭けた。

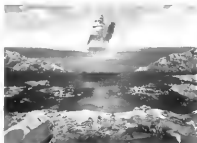


▶ギレン・ザビにとり、はままでに寒風は水であり、さすがに平熱ではいらなかったという。

南極条約とは

さきの「一週間戦争」でジオン軍が使用して連邦軍を圧倒したNBC兵器及び大質量兵器の制限、中立地域の設定、捕虜の人権保護が「南極条約」の主な内容である。

▶ジオン軍の「コロニー」等とは地理的な大規模なシナリオを与え、連邦政府の他惑星をあり、散弾ムートを作り出した。



第一次降下作戦【ジオン公国軍、オデッサ攻略】

長期戦を視野に入れた電撃作戦

戦争の早期終結という目論見が外れたジオン軍は、2月7日、かねてより準備を進めていた地球降下作戦を実施した。戦争の長期化は、資源生産能力の乏しいジオンにとっては厳しい事態であり、連邦軍の宇宙戦力を叩いた現時点ならば、地球への降下も容易であるとギレンは判断したのである。

連邦軍はジオン軍を迎撃することができず、地球侵攻を許すのであった。



オデッサ鉱山を占拠

ジオン軍の第一目標は連邦軍の鉱山基地オデッサ。資源生産の確保が目的であった。

3月1日、ジオン軍第一次降下部隊はオデッサに侵攻、占拠に成功する。



▲▶総帥ギレン自ら兵たちを鼓舞し、士気を高めた。この降下作戦がしるかに重要であったかがうかがえる。

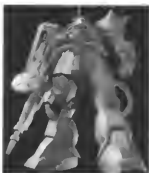
▲ミノフスキー粒子を駆使したジオン軍の地球侵攻作戦は、連邦軍に降下ポイントすら察知させなかった。



第二次降下作戦【ジオン公国軍、北米大陸攻略】

ジオン軍、北米を制圧

北米大陸西海岸のカリフォルニア・ベースは、連邦有数の兵器生産基地である。同基地の制圧を目的とした第二次降下作戦が、3月11日に発動された。総指揮官はザビ家の四男ガルマ・ザビ。地球方面軍司令を務める人物である。



◀◀北米制圧の総司令官はガルマ・ザビ大佐。有能な指揮官だが、親の七光で司令の座に無いとしたさやかれていた。



北米制圧の陰にあるジオンの策略

3月13日、ジオン軍第二次降下部隊はカリフォルニア・ベースの制圧に成功、地上における兵器生産のめどを立てた。これは同時に、南米ジャブローに対する牽制としても重要な意味を持つことになる。

同基地を拠点として、ジオン軍は北米大陸を勢力下に置いた。特にニューヨークは、ジオン軍に友好的であったといわれている。



▲ある程度の自治を認められたとはいえ、ジオン軍の支配下に置かれた住民たちは不安な日々を過ごした。

第三次降下作戦 【ジオン公国軍、アフリカ攻略】

局地戦が展開された激戦地アフリカ

3月18日、ジオン軍は三たび降下部隊を地上に派遣する。地球侵攻作戦の一環である、アフリカ大陸を目標とした部隊展開であった。

アフリカ大陸は、オデッサほどではないにしろ地下資源が豊富な土地である。ジオン軍としてはこれを見逃すはずはなく、キリマンジャロに基地を建設して橋頭堡として活用した。

▶もともと宇宙での運用を考慮されて開発されたザクは、重力下での活動に不向きだったが、戦場が地上にまで及ぶにたが、陸戦型のザクといった派生機が生み出されていった。



▶砂漠の多いアフリカ大陸では、ザク デザートタイプのような局地戦用のMSが活躍した。地球での戦いを念頭に置いたジオン軍の兵器開発が、実を結んだといえるだろう。



▶局地戦に秀でたため、アフリカのあちこちで、多量にその威力を發揮し、大きな戦果を挙げた。

ジオン、潜水艦隊設立

カリフォルニア・ベースの制圧は、ジオン軍にひとつの恩恵をもたらした。それが潜水艦の建造技術である。潜水艦部隊を設立したジオン軍は、制海権を手に入れた。



▶潜水艦部隊の設立にはキシリア・ザビの能力があった。彼女が、戦争における謀略活動を重要視していたことの表れである。



◀カリフォルニア・ベースに現された連邦軍の潜水艦を元に開発されたのが、このユーコン級潜水艦である。護衛破壊や秘密任務に活躍した。

ジオン、マッドアングラー隊設立

ジオン軍は海からの秘密活動、破壊工作を行う特殊部隊「マッド・アングラー隊」を設立する。これには、ジオン軍きっての謀略家、キシリア・ザビの働きが力があったと言われている。



▶マッド・アングラー隊の隊長には、ガルマ戦死の責任を取って罷免させられていたシャ・アズナブルが任命された。



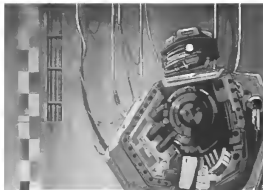
▶マッド・アングラー隊には開発されたばかりの水陸両用型MSが多く配備された。キシリアがこの部隊に力を入れていたのだろう。

地球連邦軍、V作戦発動【MS開発を開始】

連邦軍、反抗作戦を開始

一方、ジオン軍の地球侵攻を許した連邦軍としても、現状を打破するための対策を講じていないわけではなかった。ジオン軍の新兵器であるMSに対抗するため、連邦軍も新たなステップに進む。レビル將軍は、連邦軍がMSの開発でジオンに大きく遅れを取っている現在、この差を縮めることが勝利への近道だと考えたのである。

彼が推進した作戦が「V作戦」。連邦軍によるMS開発プランであった。



▲連邦軍はジオン軍に対抗するため、ザクの研究施設を襲撃した。

MSを持たぬイバラの道

「V作戦」が実現しなかったとすれば、連邦軍の苦戦は免れない。事実、戦車や航空機といった旧式の兵器ではMSに対抗することができず、連邦軍の戦線は後退を余儀なくされていた。いずれはMSの重要性に気付くだろうが、その時にはもはや遅いかもしれないのだ。

戦力が再編できれば、物量で勝る連邦軍だけに巻き返しの可能性もある。しかし、ジオン軍がその時間を与えないだろう。



◀戦線後退しレビルは大変に窮乏したとはいえ、軍部で大きな発想力を持つてはいなかった。



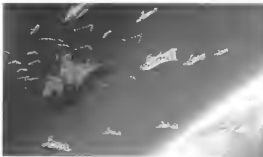
▶窮乏した連邦軍の高官たちには、MSの重要性を認識することができなかった。

地球連邦軍、ピンソン計画発動【宇宙艦隊再編】

MS戦を想定した艦隊編成

「V作戦」の発動と時を同じくして「ピンソン計画」が発案、実行された。一週間戦争とルウム戦役で大損害を受けた連邦軍宇宙艦隊の再編と、MS戦に対応した戦艦の改修を目的とした計画である。

大艦巨砲主義が根強く残っていた連邦軍では、この計画は「V作戦」よりもスムーズに実行に移され、艦隊の再編が行われていった。



▲完成した宇宙艦隊の再編は、連邦軍にとって最悪だった。

地球連邦軍、V作戦終了【RXシリーズ、ロールアウト】

RXシリーズ、テスト開始

連邦軍は、「V作戦」を開始したわずか3ヶ月後の7月、MS運用の要となる強襲揚陸艦「ホワイトベース」の建造を終了、以降8月までに次々と試作MSをロールアウトしていく。これだけの短期間で新兵器の開発に成功したのは、レビル将軍の意向に沿って「V作戦」が最優先されたことが大きい。

開発された試作MSは、サイド7でのテスト後、ホワイトベースによる回収が行われる予定である。



▲RXシリーズの完成によって、連邦はジオンに対抗する手段を手に入れる。

連邦軍の威信をかけたMS

連邦軍開発部は、ジオンの主力MSザクを解析してデータ収集を行ったうえで、ザクを超えるMSの開発を目指した。そのため、コア・ブロック・システムや携行用ビーム兵器といった最新技術が盛り込まれた、高性能MSが完成する結果となる。

RXシリーズのMSは、3種類が開発された。長距離砲撃をメインとした「ガンタンク」、中距離支援と射撃戦を想定した「ガンキャノン」、そして対MS戦闘をコンセプトとして開発された「ガンダム」。この3種類のMSの完成をもって、V作戦は終了した。



◀MSとはかけ離れた外観をもつガンタンクは、戦場の延長上にある試験的なMSである。

▶ガンキャノンは、両側に装備されたキャノン砲が特徴のMS。支援に重点が置かれた設計。



◀V作戦の最終目標はジオン・レイ技術の奪取。ガンダムのパイロットとなつたアムロ・レイの計画である。



▲汎用性に優れたガンダムは、3種のRXシリーズ中もっともバランスの取れたMSであった。

地球連邦軍、RXシリーズ回収計画【ホワイトベース派遣】

ホワイトベース出港

「V作戦」を終了させた連邦軍は、RXシリーズ回収のためにホワイトベースをサイド7に派遣する。サイド7はルナツーの防衛圏内に位置するうえに建設途中のため、極秘裏に作戦を進めるには最適の場所であった。また、試験データをMSの量産化に生かそうという狙いもあった。



◀ホワイトベースは設計の時点からMS運用を考慮に入れており、これまでの連邦軍の艦船とは一線を画している。

「V作戦」を警戒するジオン

ジオン軍は諜報部の活動によって、連邦軍の「V作戦」を察知していたが、その実態を把握してはいなかった。もし「V作戦」が成功したならば、国力に勝る連邦軍はMSを戦線に大量に投入するだろう。この時点でのギレン・ザビ最大の関心事は、「V作戦」の動向にあったのだ。

▶RXシリーズ回収計画の現場責任者としてホワイトベースの艦長に就任したバオ・ロウ・カシアス。レビル将軍の信頼も厚い。



ジオン公国、V作戦察知【サイド7調査】

ホワイトベース捕捉される

ジオン軍の「赤い彗星」、シャア・アズナブル少佐指揮下のムサイは、連邦軍のゲリラ部隊掃討任務の帰還途中に連邦軍の新型戦艦を捕捉した。シャアはその戦艦が「V作戦」に関係していると推察。その航路から目的地がサイド7であることを突き止めた。そして、MS3機を調査のためサイド7に潜入させた。9月18日、戦史に残る戦いが幕を開ける。



▲シャア・アズナブルは、ルウム戦役において華々しい戦果を挙げ、両面に「赤い彗星」という異名を轟かせた。



▲シャアの信任厚いムサイ艦長。



▲MS隊の隊長格である。



▲シャアに雄飛向上心に燃える。



▲令辭に状況を判断する男。

サイド7遭遇戦【史上初のMS戦闘】

ジオン軍、サイド7を急襲

偵察任務を受けたデニム、ジーン、スレンダーたちMSパイロットはサイド7に潜入、スレンダーを残してデニムとジーンはコロニー内部へとザクで侵入する。

そこで彼らは移送中の連邦製MSを発見し、攻撃を開始。連邦軍の駐留部隊が応戦するが、戦闘車両がその主力だったこともあり迎撃に失敗、MSのほとんどは破壊されてしまう。この戦闘で、ホワイトベース艦長、バオロ・カシアスが負傷した。



▲ガンダムの装甲はザクのマシンガンを受けつけず、攻撃を仕掛けたジーンを戦慄させる。さらにはザクの動力パイプを引きちぎるほどのパワーを見せつけた。

史上初のMS戦闘発生

しかし、RXシリーズはからくも全滅を免れ、ホワイトベースとともにルナツーを目指す。

なぜRXシリーズは全滅を免れたのか？ そこには、アムロ・レイをはじめとする民間人の活躍があった。彼は起動状態にあったガンダムに乗り込み、ジオン軍のザクを2体撃破。さらに出港後もジオン軍の攻撃を退けている。連邦軍のMSの威力を目の当たりにしたシャアは、「V作戦」に脅威を感じたのである。



▲ジオン軍の急襲を生き延びたRXシリーズはわずか数機で、そのほとんどが破壊された。



▶バオロ・カシアスはジオン軍の攻撃で負傷し、後任に士官候補生のブライト・ノアを薦める。

ホワイトベース、ルナツーに到着【ジャブローへ】

ジャブローへの単独行

シャアの追撃を振り切りルナツーに到着したホワイトベースであったが、バオロ・カシアスはすでに戦死し、素人集団となってしまっていた。

しかし、ルナツー司令ワッケインは、ホワイトベース単独でのジャブロー行きという軍上層部からの命令を彼らに伝える。民間人に新造艦を任せたことは、連邦軍の厳しい状態を如実に物語っていたといえる。



▲サイド7からやっとのことで脱出してきたホワイトベースの臨時クルーたちは、軍上層部の無情な決定に怒りをおぼえて士気に食ってかわかる。

ホワイトベース隊、降下中に敵MSと戦闘 [北米へ降下]

ジオン軍勢力下に降下

ルナツーを出港したホワイトベース隊は、大気圏突入直前にシャア率いるMS部隊と交戦、これを撃退したが、予定のコースからは大きく外れ、敵勢力下の北米へと降下してしまっただ。シャア少佐もまた北米へと降下、現地でガルマ・ザビ大佐と協力体制をとる可能性が高いとみられる。

なお、ホワイトベース隊は未だに難民を抱え、厳しい状況にあった。



▲ホワイトベースはシャローへのコースを外れ、ジオン軍の勢力圏内へ。

ガルマ・ザビ大佐、ホワイトベース隊と交戦、戦死

ガルマ・ザビ、木馬を捕捉

不安は的中した。北米を進むホワイトベース隊は、ガルマの差し向けた追撃部隊と交戦。大きな被害もなく撃退することに成功したが、現在位置と進行方向をジオン軍に知られてしまった。

サイド7以来、苦しい戦いを続けてきたホワイトベース隊だが、連邦軍の補給部隊との接触に成功、初めての補給を受けることに成功する。



▲アムロ・レイはその才能を開花させ、MSでの空中戦を演じてみせた。

ニューヨーク市街戦

10月4日、ジオン軍最終阻止ライン目前まで進んだホワイトベース隊に対し、ガルマは自ら攻撃部隊を率いて出撃、絨毯爆撃を敢行する。この後、ガンダムを発見したガルマ隊はこれを追撃するが、背後からホワイトベース隊の攻撃を受け、壊滅的な被害を受けている。また、この戦闘でガルマ・ザビの戦死が確認された。



◀地球方軍司令を務めたガルマ・ザビだったが、その気負いすぎが自らの寿命を縮めたのかもしれない。

▶ガルマと悪州にあったニューヨーク市長の娘も、ガルマの仇を討とうとする。



ジオン公国、ガルマ・ザビの国葬を全世界中継

ジオン、徹底交戦の構え

ガルマの戦死から2日後の10月6日、彼の国葬がサイド3にて行われた。この葬儀にはザビ家はもとより、ジオン公国の高官たちも集まり、葬儀の様子は全世界に中継された。ギレン・ザビは演説で「我々はひとりの英雄を失った。これは敗北を意味するのか？ 否、始まりである」と説き、徹底抗戦を示唆する。連邦軍関係者からは、「戦意高揚を狙った葬儀であることは明白である」というコメントがなされている。



▲ガルマ・ザビの国葬は盛大に行われ、さながらショーのようであったという。高い方を金えれば、この葬儀はギレンのブコバガンダであったともいえるのだ。

葬儀に見られるザビ家の関係

ガルマ・ザビの葬儀の影響が、いちばん強く表れたのはザビ家ではないかという意見もある。一説には、デギン公王はガルマの密葬を希望したが、ギレンが戦意高揚を狙った国葬にしたという。これが事実なら、デギン公王としての立場上、葬儀には出席したが、その胸中は複雑であったに違いない。かねてから、政治的な主張の違いが噂されていた両者だけに、この葬儀の影響は計り知れないほど大きなものとなるだろう。



◀国葬の場で人気を博したガルマの国葬には、多くのジオン国民とジオン軍人が参加し死を悼んだ。



▶連邦軍の秘密巨艦にも国葬の映像は流され、連邦軍高官たちは苦しい表情でそれを見たという。

ランバ・ラル、木馬追撃の任務に就く

青い巨星、地上に

ザビ家三男ドズル・ザビは、弟ガルマの仇討ちのために、腹心のランバ・ラル隊に木馬追撃を命じ、地球へと降下させた。



▲ランバ・ラル隊はドズル少尉の精鋭部隊で、多くの戦功を挙げた。ランバの機体は、多くの戦功を挙げた。

フラナガン機関設立

進化した人類である「ニュータイプ」。キシリア・ザビ少将は、ニュータイプの軍事利用のための研究を主目的とした「フラナガン機関」を設立を提案、実行に移した。同機関における研究内容は不明だが、今後の動向に注目したい。

◀フラナガン機関は、ニュータイプを主目的として設立された。



ランバ・ラル隊、ホワイトベースと交戦

ランバ・ラル隊、木馬を捕捉

地球に降下したランバ・ラル隊はホワイトベースの追撃を行った。また、ランバ・ラル隊には新型MSグフが配備されている。ザク以上の性能を誇るこのMSはホワイトベースにとって脅威となるはずだった。しかし、ホワイトベース隊との戦闘でMSを失ったランバ・ラル隊は白兵戦を敢行、ホワイトベース内で戦闘が発生した。なお、この戦闘で隊長であるランバ・ラルの戦死が確認された。



▶ランバ・ラルが乗るグフをはじめとするMS隊は、地球に降下して奇襲を行い、ホワイトベース隊のMSを圧倒した。

◀「青い巨眼」ランバ・ラルは、ガンダムとの交戦によってグフを失うが、白兵戦でホワイトベース隊に挑む。



ランバ・ラル隊残党、ホワイトベースに捨て身の攻撃

ランバ・ラル隊、全滅

ランバ・ラルを失った同部隊はクラウレ・ハモンの指揮のもと、残存兵力を動員しホワイトベース隊に最後の攻撃を仕掛けた。ホワイトベース隊も先のランバ・ラル隊との交戦の直後ということもあり、苦しい戦いとなった。結局、ホワイトベース隊はランバ・ラル隊の捨て身の攻撃をなんとかしのぎ、敵を全滅させたが、ホワイトベース隊の人的被害も大きく、リュウ・ホセイが死亡している。



▶リュウ・ホセイは先の白兵戦で負傷していたが、復讐をおしてコア・ファイターで出撃。ハモンの特攻を体当たりで防ぐ。

◀クラウレ・ハモンは本筋にはなかったが、その人望からランバ・ラル隊残党の指揮を任された。



ジオン、オデッサ作戦察知

連邦軍のオデッサ包囲網完成

連邦軍の反攻作戦実施が濃厚となってきた。その情報を事前に察知したジオン軍はマ・クベ司令を筆頭に対抗策を考案している。



▶マ・クベ司令は優秀な戦略家で、連邦軍の侵襲に対して万全な対応を見せた。

地球連邦軍、MS“ジム”量産開始

RXシリーズから得られたデータをもとに、連邦軍がMSの量産に乗り出した。MS開発では大きく遅れを取っているだけに、迅速な対応が望まれる。



▶連邦軍の国力はジオン軍のそれをはるかにしのぎ、V作戦開始からわずか2ヶ月でRX-78の量産体制を整えた。

地球連邦軍、オデッサに侵撃【オデッサ・デイル】

連邦軍、一大反攻作戦開始

11月7日、地球連邦軍は中央アジアにあるジオン軍の鉱山基地オデッサの奪取を目的とした「オデッサ作戦」を実行に移した。この作戦に連邦軍は兵力のほとんどを動員し、テスト段階にある量産型MSも試験的に実戦投入された。一方、ジオン軍もマ・クベ司令のもと迎撃態勢を整えている。



▲シムの投入は、連邦軍がこの作戦を牽制している証拠といえる。

黒い三連星、木馬と交戦

この戦いにホワイトベース隊は陽動部隊として参加している。それに対しジオン軍は「黒い三連星」を差し向け、撃破を狙った。が、2度の交戦により逆に撃破されてしまう。



◀この戦いでマチルダ アジヤンが、ホワイトベースを守り戦死している。

マ・クベ、南極条約を破る

戦いは3日間に渡った。しかし、物量で勝る連邦軍に形勢は傾きつつあり、これを見たマ・クベは連邦軍に対し撤退を勧告、受け入れない場合は核の使用も辞さないと言った。レビルの拒絶の返答を聞くや、核を発射。連邦軍MSの働きで核の爆発は免れたが、南極条約に抵触する行為に世論は強く反発した。



▶オデッサ陥落により、地上のジオン軍は苦境に立たされる。

◀オデッサの攻略に成功し、側近と手を交わすレビル将軍。



ホワイトベース隊、マッド・アングラー隊と交戦

ベルファスト基地、襲撃

オデッサ作戦のあと、ホワイトベース隊は修理と補給のため、北アイルランドのベルファスト基地に向かっている。この情報を察知したジオン軍は、マッド・アングラー隊を同基地近海に展開した。部隊はベルファスト上陸作戦を実行するが失敗。また、出航後のホワイトベースへの攻撃にも失敗、部隊は全滅した。なお、この時期にホワイトベースにジオン軍のスパイが潜入したといわれている。



▶MAグラブロは水中での機動性に優れ、ガンダムを水中戦で苦しめた。実戦投入が確認されたのはこの1機のみである。

◀フラナガン ブーンは、水中用MAグラブロで出撃。ガンダムと交戦するが、撃破され戦死する。



ジオン公国軍、ジャブロー降下作戦を実施

ジオン軍、ジャブロー基地を攻撃

南米ジャブローの、深いジャングルに連邦軍本拠地がある。古くからこの地にあることは知られていたが、正確な場所が特定できず、ジオン軍も定期的な爆撃でお茶を濁してきた。しかし、ベルファスト基地を出航したホワイトベース隊を追跡することにより、基地の所在地を突きとめることに成功。ジオン軍はここにジャブロー攻略戦を開始した。

▶ベルファストを出発したホワイトベースは、ジオン軍の攻撃を受けながらもついにジャブローに到着した。



◀ホワイトベース隊を追跡していたマッド・アングラー隊のMSソックは、カムフラージュされたハッチを発見する。

起死回生を狙った総力戦

北米カリフォルニア・ベースの戦力の大半を使用したこの作戦は、オデッサで敗北したジオン軍にとって確実に勝利したいものであった。爆撃、MS部隊の降下、破壊工作などが繰り返され行われたが、連邦軍の圧倒的な物量の前に敗退、作戦は失敗した。この敗北でジオン軍は地上での勢力のほとんどを失い、宇宙へと撤退を余儀なくされた。



◀ジャブロー基地の破壊工作は、カリフォルニア・ベースは、かつての大規模な破壊工作に似ている。

アブサラス開発計画

アブサラス計画は、ジオン軍技術学校ギニア・サハリンが中心となって行っていた。計画はギニア少将指揮のもとに進められ、アブサラスIIで得たデータをもとに完成形であるアブサラスIIIが開発された。同機は中央アジアにおいて連邦軍の機械化大隊と交戦し、大破したといわれている。



▶拠点攻撃を目的とした量産MA。中央の巨大な口は、大型爆発メカが特徴である。



▶この女性がアイナ・サハリンではないかといわれている。

アスタロス開発計画

アスタロスは生物工学が生んだ偶然の産物である。植物寄生体であるアスタロスは、宿主の養分を吸収するという特性を持つ。不用意に使用すれば、地球環境を破壊してしまう代物である。この悪魔の兵器がオーストラリアのジオン軍研究所で製造されたという情報がある。オデッサ以後、戦局を覆す決定的な手札のないジオン軍が、これを使用しないという確証はない。



◀ホワイトティンコ部隊隊長、マスター・P・レイヤー。



▶「荒野の迅雷」、ウィッシュ・ドナニュー。

ホワイトベース、ジャブローを出航

四部隊とのうわさも

ジャブロー戦の前後に、ホワイトベース隊にとって重要な決定が下された。クルーに軍籍が与えられたことと、ティアンム指揮下の第13独立部隊に任命されたことである。しかし、そうは喜んではいけない。彼らの主任務は陽動作戦、つまりは四部隊なのである。



▶ホワイトベース隊が軍上層部から低評価とされた理由に、ニュータイプと偽られるクルーたちの存在があった。

◀ジャブローでの戦後、修理が終わると、ホワイトベースは休戦間もなく宇宙での陽動作戦へと向かった。



EXAM開発計画

「EXAM」とは、ジオン公国のフラナガン機関の研究者であるクルスト・モーゼス博士が開発したシステムである。ニュータイプの能力を、コンピューターのシステムとして移植することを目的としていた。テスト中の事故でテストパイロットであるマリオン・ウェルチが意識不明となったが、実験は成功、EXAMは完成した。しかし、クルスト博士が連邦に亡命し、ジオン内でのEXAM研究は中断した。この後、EXAM研究は連邦軍で行われることとなった。クルスト博士の亡命の原因は不明だが、一説にはマリオンの事故のためではないかといわれている。



◀マリオンの犠牲を以て開発したEXAMをニュータイプ・シミュレーションで検証する。



◀EXAMを巡る戦いは宇宙にも及び、BD-3とBD-2の死闘の末に終止符が打たれた。

ルビコン計画を発動

新型ガンダム開発計画を察知したジオン軍は、その奪取のために特殊部隊サイクロプス隊を連邦軍北極基地に派遣した。基地防衛隊の反撃により、作戦は失敗。同隊は宇宙へと送られてしまった。しかし、偶然からサイド6リボーコロニーに新型ガンダムがあることを知ったジオン軍は、再度サイクロプス隊を派遣、奪取もしくは破壊を目的とした「ルビコン計画」を発動する。同計画でサイクロプス隊は壊滅したが、サイクロプス隊残党のザク改との戦いで新型ガンダムも破壊された。なお、本計画では核兵器の使用も予定されていたという。



◀本機はニュータイプと適合するアムロ・レイのために開発されたMSといわれる。



◀連邦軍のテストパイロットとジオン兵が衝突したことがきっかけで、この計画が発動された。

地球連邦軍、北米大陸、アフリカ大陸を攻略

ジオン残存戦力を掃討

オデッサの陥落とジャブロー降下作戦の失敗によって、ジオン軍の地上戦力は瓦解した。連邦軍はこの機に乗じて、北米、アフリカ大陸の掃討作戦を実施。12月15日のことである。連邦軍は、アフリカ大陸に地上戦力の大半を投入してすみやかに大勢を決した。しかし、それはジオン軍残党の地下への潜伏をまねき、のちにその存在に悩まされることになる。



▲圧倒的な連邦軍の地盤作戦に対し、ジオン軍は局地戦用MSなどでゲリラ戦を試みるが敗北。その一部は地下に潜伏した。

ソーラ・システム開発計画

ジオン本国、サイド3への侵攻を目指す連邦軍にとって、その周辺宙域に配置された宇宙要塞ソロモンとア・バオア・クーは、まさに目の上のこぶだった。その攻略のために、連邦軍は対要塞戦用兵器「ソーラ・システム」の開発に着手する。太陽光を何万枚ものミラーで反射、収束させて焦点を高熱で破壊するこの兵器は、ふたつの宇宙要塞を攻略するための切り札ともいえる存在だった。事実、このソーラ・システムはソロモン攻略戦で使用され、同要塞の防衛機能の大半を壊滅させるほどの威力を見せたのである。



◀◀ソーラ システムは400万枚の反射ミラーからなるいって単純な兵器である。後年「闇の闘争戦」において、バスク・オムが再生産されたものを使用した。

ベズン計画

「ベズン計画」では最新技術を投入した高性能MSが設計されていたが、実戦投入を見るまでもなく終戦を迎える。残ったデータは次の時代のMSへ引き継がれる。



◀ザビンのために開発されたMSのコンセプトは、ガルバ・バリエーションのようには高性能機で、開発されたMSは多くは実験機であつた。

MS統合整備計画

ジオン軍は操縦系の統一と高性能化を目指して「統合整備計画」を実施する。この計画によって生み出されたMSは、一年戦争の終盤で実戦投入されている。



◀既存のMSを元にして過酷な環境の整備と高性能化を目指した結果、ゼロ改を中心とする多くの機体が生まれた。

地球連邦軍、ソロモン攻略【星一号作戦】

「星一号作戦」の第一段階へ

地上での大勢を決し、いよいよジオン本国への侵攻作戦「星一号作戦」を発動した連邦軍。

この作戦の第一目標となったのは、ドズル・ザビが指揮する宇宙要塞ソロモンであった。パワーバランスが連邦軍に大きく傾いたとはいえ、ジオン軍はいまだに大規模な宇宙艦隊を保有している。その重要拠点であるソロモンの攻略に、連邦軍はソーラ・システムを投入する必勝の態勢で臨んだ。



▲ドズル・ザビは妻子を密かに送別し、決死の覚悟でソロモン攻防戦に臨んだ。生きて再び妻子に会うことは叶わず、ソロモンの地にビッグ・ザムとともに沈んだ。

猛将ドズル・ザビの壮絶な死

12月24日に始まった「ソロモン攻防戦」は、一年戦争中屈指の激戦であった。しかし、連邦軍の必勝の策といえるソーラ・システムの照射によって、形勢は一気に連邦軍に傾く。本国からの増援もなく、窮地に立たされたドズル・ザビは、ソロモンの放棄を決定し、自らは新型MAビッグ・ザムで出撃する。この攻撃によって連邦艦隊は大打撃を被るが、第13独立部隊の活躍によってビッグ・ザムは撃破され、ドズルは戦死した。



▼ディアンム提督の指令一下、ソーラ・システムの焦点調整が行われ、ソロモンに砲撃が集中される。



▼ソーラ・システムの照射によって、強固なソロモンの外殻はしとも簡単に破壊された。

ゲルググ量産化

一年戦争が終戦を迎えるころ、シオン軍は新型MSゲルググの量産化に成功する。ビーム兵器を携行可能な高性能MSだったが、大勢に影響を与えるにはいかなかった。

▶連邦軍のカンダムに匹敵する性能を持つゲルググだが、その時期の量産から大勢に影響は与えられなかった。



ソーラ・レイ開発

劣勢に立たされたジオン軍は、逆転勝利の切り札としてひとつの新兵器を完成させた。密閉型コロニー自体を巨大なレーザー砲として改造した「ソーラ・レイ」である。

▶ジオン軍の逆転の切り札として開発されたソーラ・レイは、密閉型のコロニー自体を改造し、巨大なレーザー砲として完成させた。



第13独立戦隊交戦報告

マ・クベ再び

ソロモン攻防戦を終えた第13独立部隊は、テキサスコロニーにおいてジオン軍の新型MSと交戦、これを撃破した。ホワイトベースの活躍に苦汁をなめ続けたマ・クベの復讐劇は成就せず、テキサスコロニーにおいて彼は戦死した。



▲▲最新型のMSであるヤマトは、ガンダムを苦しめる。テキサスコロニーで待ち伏せるマ・クベの戦法も有効ではあったが、あと一歩及ばなかった。



ガンダムを超えたアムロ

ニュータイプ、シャリア・ブルは、MAブラウ・プロに搭乗して第13独立部隊を攻撃。からくもこれを撃退するが、アムロの反応速度に対応しきれず、ガンダムはオーバーヒートする。その後、ルナツーでマグネット・コーティング処理を受ける。



▲▲シャリア・ブルは木留りのニュータイプ。ブラウ・プロを自在に操り、アムロを圧倒した。彼のニュータイプ能力の高さを物語っている。

「ソロモンの亡霊」の正体

ソロモンに駐留する連邦軍艦艇が、正体不明の敵から攻撃を受けた。それを調査した第13独立部隊は、ジオン軍MAエルメスと交戦。この戦闘で、アムロ・レイは敵パイロットのララ・スンと感応しあうも、彼女を殺してしまう。



▲アムロとシャアの宿命はララ・スンに託する。人の未来を示せたかもしれない少女だった。



▲エルメスのヒート攻撃は常人には捉えられず、「亡霊」と噂された。

地球連邦軍、ア・バオア・クー攻略へ

ジオン軍最終防衛線

ソロモン攻防戦の勝利ののち、艦隊を再編した連邦軍は、ジオン軍の最後の砦といえるア・バオア・クー攻略作戦を発動する。この戦いには、温存されていたレビル將軍指揮下の艦隊が満を持して参戦する。この戦いの正否により、戦争の行方が決まるといえる。



▶艦艇が狭く第13独立部隊は、ア・バオア・クー攻略戦への参戦を前にひとときの休息をとっていた。

▶戦争も大詰めに向かい、連邦軍はソロモンに艦隊を集結させ、ア・バオア・クー攻略の準備を整える。



ア・バオア・クー攻防戦【一年戦争終結へ】

総帥ギレン・ザビの暴走

連邦軍のア・バオア・クー侵攻を目前にしてギレンの暴走を危険視したデギン・ザビ公王は、連邦軍との和平交渉に赴く。一方、レビル艦隊はこの終戦協定の提案に合意し、自らの艦隊でデギンを迎えた。この事態を受け、ギレン・ザビはソーラ・レイの照射に踏み切る。照準はゲル・ドルバ、レビル艦隊とグレート・デギンがいる宙域であった。



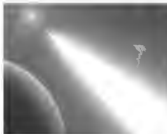
▶ギレン・ザビは艦隊をもって、ア・バオア・クーに襲来する連邦軍の大艦隊を迎え撃つ。

◀連軍に号令をかけるレビル将軍。彼は最後にも、わかる慰問を、知る由もなかった。



一年戦争最大規模の乱戦

ソーラ・レイの照射はデギン公の乗るグレート・デギンもろともレビル艦隊を消滅させた。しかし、レビル艦隊を失ってなお、数でジオン軍に勝る連邦軍は、残存戦力を再編して攻撃を開始。戦闘は両軍入り乱れた乱戦へと、突入していく。



◀ギレンが放ったソーラ・レイの光は、その悲劇を感じとったアムロを怒らせさせた。

ホワイトベース隊脱出

この戦いに参戦した第13独立部隊は、要塞内部に突入後、善戦むなしくホワイトベースを撃破される。その後白兵戦に移ったクルーたちは、奇跡的に全員が脱出に成功した。この脱出劇にニュータイプ力を感じる者もいた。

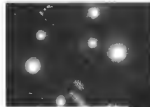
▶双方の残存兵力を投入したこの戦いは、次第に混沌化していく。



ギレンとキシリアの死

この激戦の中、ギレン・ザビとキシリア・ザビは相次いで命を落とす。ギレンはキシリアに、キシリアはシャアに討たれたのである。ある意味、ジオン公国を私物化した一族にふさわしい最期といえる。

指揮官を失ったジオン軍は瓦解をはじめ、戦闘の大勢は決した。一部のジオン部隊は逃れたものの、連邦軍は要塞の制圧に成功。これが、ジオン公国独立宣言に端を発する「一年戦争」の終結であった。



▶この戦いにはたして勝者は存在するのか、それに答えられる者はたれもない。

◀ともに指揮官を失った連邦、ジオンは収拾のつかない不毛な戦いを繰り返す。



地球連邦軍、ガンダム開発計画発動

次期主力MS開発を開始

U.C.0081、10月20日、連邦軍はジョン・コーウェン中将指揮のもと「ガンダム開発計画」をスタートさせる。これは、一年戦争で驚異的な戦果を挙げたガンダムの再設計を図るというものであった。

この事実、ガンダムという存在に頼ろうとする、連邦軍の思考の表れとも取れる。



▲新型ガンダムはRX-78の思想を受け継ぎ、高い汎用性を求めて開発が進んだ。



◀新型ガンダムの開発はアナハイム・エレクトロニクスが行い、コーウェン中将の管理下に置かれていた。



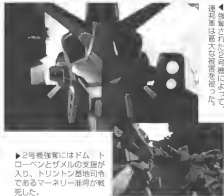
ガンダム試作2号機強奪【アルビオン隊追撃】

連邦軍の情弱な現状

U.C.0083、10月13日、新型ガンダム試作1号機と2号機は、重力下テストのため連邦軍トリントン基地に搬入される。それは同時に、2号機に核弾頭を装備させるためでもあった。しかし、核を装備した2号機はジオンを名乗るパイロットに強奪され、連邦軍の必死の追撃をかわして逃走する。

戦場は宇宙へ

ジオン残党によるガンダム強奪を受け、連邦軍は部隊を編成して2号機追撃任務に当たさせた。アルビオン隊は2号機を追う途中、アフリカ大陸・キンバライド鉱山基地でジオン軍残党と交戦する。しかし、あと一歩というところで、2号機を搭載したHLVの打ち上げを許し、同機を逃してしまふ。



◀強奪された2号機によって、連邦軍は甚大な被害を被った。

▶2号機強奪にはドム・トローベンとザメルが支援が入り、トリントン基地司令であるマーネリー准将が戦死した。

▶2号機追撃の任務には、ガンダムを輸送したアルビオンが駆き、艦長のエイバー・シナプスが追撃隊の指揮官となった。



◀ガンダム試作1号機のパイロットには、ナイメーヘン士官学校卒業生のコウ・ウラキ小尉が任命された。



ニュータイプ研究所設立

連邦軍のニュータイプ研究施設として、ムラサメ研究所やオーガスタ研究所が知られている。だが、その内情は強化人間を作り出すための実験施設であったといわれている。



▶▲ムラサメ研究所においては、被験体は番号で呼ばれた。またこれらの研究所ではニュータイプ専用機体の設計も行っていた。



デラーズ・フリート蜂起【デラーズの反乱】

ギレンの遺志を継ぐ者

エギーユ・デラーズ。一年戦争では親衛隊隊長として、総帥ギレン・ザビの影響をもっとも強く受けた人物といえる。彼は一年戦争終結後、残存艦隊を率いて暗礁宙域に潜伏。虎視眈々と反撃の機会をうかがっていた。

U.C.0083、1月。デラーズは「ガンダム開発計画」の情報を入手。ジオン再興のため、ガンダム試作2号機の奪取を実行に移す。

デラーズの反乱勃発

10月31日、ガンダム2号機を奪取したアナベル・ガトーは、本拠地「茨の園」へと帰還を果たす。デラーズは報告を受け取ると、地球圏全体に宣戦布告放送。これが後に言う「デラーズ宣言」である。デラーズの演説は、敗戦から苦汁をなめ続けてきたジオン兵の士気を上げたといわれる。

一方、2号機強奪を許した連邦軍は、苦い心境でこの放送を見たに違いない。核の使用は南極条約で禁止されており、2号機存在自体、条約に抵触している。その弱みを突かれたからである。この現実、戦後の増長が著しい連邦軍の実態が明らかにされている。



「強大な戦力しか持たないデラーズは、この戦況を大きく変えられた。自分自身を救うため」



「一年戦争時、海兵隊として名の知られたシーマ艦隊もデラーズ・フリートに参加。宇宙に上がったアルビオン艦を攻撃し、大きな被害を与えた。」



▶ア・バオア・クーでの迅速な撤退行動で、戦力の消耗を回避したデラーズの艦隊だが、連邦軍に対抗するには兵力の絶対数が足りなかった。

「ソロモンの悪夢」再来

アナベル・ガトーは、卓越した技量と盲目的なまでの忠誠心の持ち主として知られる。その技量は、「ソロモンの悪夢」と呼ばれ、連邦軍兵士に恐れられるほどであった。



▲アナベル・ガトー自身が連邦軍に所属して、ガンダム2号機を強奪。今後最悪の交戦があるとするれば、連邦軍はより困難なものとなる。

ジオンの精神が宿るMA

デラーズは、アクシズのジオン残党と協力関係にあった。その経緯から入手したのがノイエ・ジールである。アクシズ先遣艦隊は、このMAをガトーに渡したといわれる。



▲「フィールド」や有線アームなど、アクシズの高い技術力が反映されたMA。

ガンダム試作2号機、コンペイ島襲撃【星の屑作戦】

ガンダム2号機観艦式を襲撃

11月10日、連邦軍上層部はデラーズ・フリートの蜂起を半ば無視した形で、観艦式を決行した。しかし、デラーズ・フリートは警戒網をくぐり抜け、コンペイトウの観艦艦隊に核弾頭を発射、全艦艇の3分の2に被害を及ぼす。なお、2号機は急行した1号機と交戦、両機とも大破した。

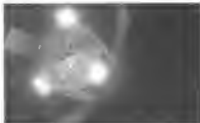


▼2号機の放った核はコンペイトウ上空で爆発、連邦艦隊の大半に被害を与えた。

「星の屑作戦」の真実

観艦式襲撃とほぼ同時に、別動隊のシーマ艦隊が月へのコロニー落としを実行。連邦軍はコンペイトウの艦隊を再編して迎撃に向かわせる。だが、シーマと月都市との密約によってコロニーは軌道を地球へと変え、連邦艦隊は追撃に失敗する。

コロニー落としこそがデラーズの描いた「星の屑作戦」だった。しかし、シーマの裏切りが彼の策を打ち砕く。デラーズはシーマの凶弾に命を落とし、コロニーはソーラ・システムⅡにより、半壊するが、重力に引かれ地球に落下。北米の穀倉地帯を直撃した。



◀デラーズのコロニー落としの計画は、二段構えの秘密なものであった。最後までその最終目標を秘しななかった手帳は、真実としかいえない。



▶アルビオン隊はデラーズの計画をいち早く察知し、ラビアンローズでテスト中だったガンダム試作3号機を入手。独自の行動で「星の屑作戦」阻止を試みた。

▶アクシズ先遣艦隊の指揮官ユーリ・ハスラーは、作戦後デラーズ・フリートの残存兵力の包囲に尽力し、アクシズへと戻った。



観艦式の実施

今回の観艦式は一年戦争による中止以来、実に4年ぶりの一大イベントであった。しかし、戦略核弾頭を保有する敵を相手にしての行為は、軍上層部の現状把握の甘さをうかがわせる。



◀▼観艦艦隊司令官グリーン・ワイアットは、シーマ艦隊との裏切り引きを誤算するも失敗。旗艦バーミンガムと共にソロモンの海に消えた。



シーマ艦隊の裏切り

シーマ艦隊の裏切りは、純粹に彼らの利益のためだったと推察できる。海兵隊として汚い仕事もこなしてきた彼らにとって、自分のために相手を利用することは、当然のことだったのだろう。

▶女傑として知られるシーマ・ガラハワは、艦隊指揮およびMSの操縦に關しての評価も高い。そのためか、部下にも慕われていたようだ。



ティターンズ発足【ジャミトフ・ハイマンの台頭】

地球至上主義の具現化

デラズ紛争は地球圏に不穏な空気をもたらした。

アースノイドとスペースノイドの対立は激化し、連邦軍内部にジオン残党狩りを名目とした地球圏治安維持部隊「ティターンズ」が発足した。その指導者はジャミトフ・ハイマン大佐。デラズ紛争の折り、頭角を現した人物である。また、同部隊にはバスク・オム大佐も所属している。連邦軍の中でも、急進的な部隊であり、その動向が気になるところだ。



◀◀ティターンズは独自のMSジム・クッエルを生産する。その背景には、ジャミトフの政治手腕の巧みさやうかがい知ることができる。



▶かつてアルビオン艦に所属し、『星の降る戦』阻止に貢献したモンシア・アデル、ペイトのように優秀なパイロットをスカウト、または育成することで、ティターンズは戦闘部隊としての勢力も拡大していった。

地球連邦の腐敗【エウゴ発足】

連邦軍、内部分裂へ

ティターンズは、ジオン残党のみならず、スペースノイド全体に対する締めつけを行った。これは、連邦軍が潜在的に地球至上主義に染まっていることの証明でもある。

弾圧に反発する者たちは、連邦軍准将ブレックス・フォーラを代表として反地球連邦組織エウゴ（A.E.U.G.）を結成、勢力を強めていく。



▲結成当初のエウゴは、クワトロ・ハジーナ、アボリー、ロベルトといった優れたパイロットを抱えていながら、積極的な行動は取らなかった。ティターンズに対抗しうる力を蓄えるためと考えられる。



▶クワトロはエウゴにガンダムⅡ（ガンマ）をもたらす。この新素材はMSの装甲材として活用され、リック・ディアスのような高性能MSを生み出した。

30パンチ事件

U.C.0085、7月31日。サイド1の30パンチコロニーでは、反地球連邦政府のデモが行われていた。ティターンズはデモ鎮圧のためにコロニー内部に毒ガスを注入し、関係のない住民までも虐殺した。もちろん、毒ガスの使用は南極条約で禁止されている行為である。しかし、連邦内部で最大の勢力となったティターンズは、この事実を隠匿した。これを知ったエウゴの活動は活発化していく。



◀ティターンズの強引な政策はスペースノイドの反発を招き、武力制圧の口実を作った。これこそがジャミトフの狙いであった可能性が高い。

◀30パンチへの毒ガス注入を指揮したのは、戦闘指揮官バスク・オムであるといわれる。ティターンズの中でも特に過激な思想が強いと噂される人物だ。

ティターンズの反乱

ジャミトフの真の狙い

先の30パンチ事件は、ティターンズの強烈な意思表示と受け取ることができる。つまり、地球圏の覇権は自分たちが握っているのだという考えの表れに見えるのだ。

ジャミトフは、地球圏の安定を掲げながらもその実、混乱を呼び起こして人口を減らそうとしているのでは、という見方をするものもある。確かに、そう考えればつじつまが合う部分が見られるが…。

地球圏最大勢力へ

ティターンズは30パンチ事件をきっかけに、本格的な活動を開始している。新型MSの開発、パイロットの育成、連邦議会への働きかけと、食欲にその勢力を伸ばそうとしているのだ。

すでにティターンズは連邦軍内部の一部隊ではなく、連邦政府と肩を並べるほどの勢力となっている。いずれは連邦軍自体のティターンズ化も進み、「連邦軍=ティターンズ」という構図ができあがる可能性も高いだろう。

「ティターンズは二階級上」と発言したティターンズ士官もいたという。そのエリート意識が暴走しないことを祈るばかりだ。



◀シャア・バジラン・バジランは地球の覇権を握りたいのだ。人口減少をもちこんでいざという時に有利な状況を作りたいのだ。



◀ティターンズの選民思想は士官の間に深く浸透しており、長期的な連邦軍士官とは衝突さえ起こった。これも教育の賜物といえるのだろうか。



▶ティターンズは、連邦軍に配備されているMSよりも高性能のMSを独自ルートで入手している。さたべき軍事行動への布石と考えられる。

野心あふれる若きエリート

ジェリド・メサ中尉は地球生まれのパイロットで、訓練では優秀な成績をおさめた。将来有望な人材として活躍が期待されるが、そのエリート意識の強さは並外れている。



▲新型ガンタムのテストパイロットを任されるほど技量は高かったが、戦いの中でさまざまなものを失い、自身もその命を失う。

連邦軍とは一線を画すMS

マラサイはアナハイム・エレクトロニクス製MSである。ティターンズがこのMSを手にしたことにより、エウゴとの戦力バランスは大きく変わろうとしている。



▲旧ジオンの人間が抱いていたため、シルエットはジオン製MSのようである。

エウーゴ蜂起【ティターンズとの対立】

エウーゴ、本格的に始動

エウーゴにしてみれば、ティターンズの起こした30万バンチ事件は、自分たちを挑発するかのような行為と思えたであろう。

この事件以後エウーゴは、ティターンズの横暴とスペースノイド切り捨てを阻止すべく、ブレックス・フォーラ准将を中心として、軍事行動を展開。ティターンズとの衝突は不可避であるというのが、大方の意見である。

エウーゴ出資者の思惑は

エウーゴがティターンズに対抗しうる戦力を短期間で揃えられた背景には、アナハイム・エレクトロニクスを中心とした軍需産業の出資がある。しかし、ティターンズにマラサイが供与された事実を考えると、そこに利権争いの構図が見えてくる。

しかし、エウーゴの主張自体は決して偏ったものではなく、ブレックスの言葉にも偽りは感じられない。その証拠に、彼のもとには次代を担う人物たちが集まっている。

地球圏はティターンズとエウーゴの二極化の道を進み、混迷の一途をたどっている。状況がどう転ぶかは、予想が難しい。



「ブレックス・フォーラの思惑は、戦況悪化を促すことにある。つまり、自らの利益のために知恵を絞っている。」



「ブレックスは、連邦議会で再三に渡って地球至上主義の危険性を訴えた。しかし、日和見主義の政府高官には聞き入れられなかったという。」

「ティターンズとの戦いの中で、カミーユ・ビタンは強化人間フォウ・ムラサメと出会う。しかしそれは、悲しい結末を迎えることになる。」



次代を担うニュータイプ

カミーユ・ビタンは、ブライトに「アムロ・レイの再来」と評され、ニュータイプとしての片鱗を見せている。いずれはエウーゴの中心人物となると、評価されている。



「カミーユがエウーゴのパイロットになったのはまったくの偶然であった。しかし、彼は戦いの中でニュータイプのあるべき姿へと成長していく。」

最新技術の粋を集めたMS

アナハイム社はエウーゴ指揮のもと、新型MSの開発を進めた。その成果が、このZガンダムである。エウーゴの象徴として激戦をくり抜け、大きな戦果を挙げた。



「アナハイム社が開発したこのZガンダムは、この時代を代表するMSである。」

エウゴ、サイド7“グリーン・ノア” 潜入 [ガンダムMk-II 強奪]

新たな戦乱の呼び水となるか？

ティターンズはサイド7グリーンノアにおいて、新型ガンダムの起動テストを実施。この時、コロニー内を偵察していたエウゴと半戦闘状態となる。しかし、バランスを崩した新型ガンダムが市街地に落下、パイロットが離れたスキをつかれ、機体はエウゴに奪取された。



◀RX-78ガンダムの後継機として開発された。

ティターンズへの反発強まる

ティターンズは民間人カミーユ・ビダンがガンダム強奪に関与したとして、彼の両親の身柄を拘束した。ガンダムと引き替えに身柄の引き渡しを行うという見方もあるが、こうした強引なやり方は今後も非難の対象となるだろう。



▲(左) ガンダムMk-II 奪取に協力したカミーユ・ビダン。このままエウゴに参加した。(右) エウゴのパイロットであるクワトロ大尉。

▶3機の試作機がエウゴの手に渡り、1機を残してあとは予備機となる。ムーバブルフレームはZ計画機種のさっけになった。



Z計画の実施

新型可変MSの開発始まる

エウゴはこれまで中断していた次期主力MS開発計画を再開した。これはガンダムMk-IIから得られた新技術やエウゴから提出されたデータによるところが大きい。成功すれば、全く新しいMSが戦場に現れるだろう。



◀Z計画初期に開発された「百式」。可変機構はなく、対ビームコーティングが施されていた。クワトロ大尉の乗機となる。



▶Z計画によって生み出された「Zガンダム」。最も完成された可変MSとされる。単独での大気圏突入が可能であった。

新素材“ガンダリウムγ(ガンマ)”

RX-78ガンダムに使用されていた「ガンダリウム合金」を改良した新素材。これまでのガンダリウム合金に欠けていた柔軟性と量産性を兼ね備え、MSの装甲として理想的な合金とされた。クワトロ・バジナがエウゴにもたらしたといわれる。

この合金の使用は、第二世代MSの定義のひとつとなり、以降のMS開発においての定番の素材となった。



▲「リック ディアス」はガンダリウム ガンマを使用して製作された史上初のMSである。「ガンマ ガンダム」と名付けられる予定であった。



▲百式と同時期に開発された量産MS「ネモ」。グリース戦争を逃し、エウゴの主戦力として活躍した。バランスの取れた機体である。

アクシズ・地球圏に帰還

地球圏へ飛来したジオンの亡霊

UC.0087、10月12日、地球圏は思わぬ来客を迎えることとなる。ジオン軍残党の最大勢力であるアクシズが地球圏に帰還したのだ。帰還の意図はまだ明らかではないが、ザビ家の跡継ぎであるミネバ・ザビを擁しているだけに、エゥーゴと連邦政府の対応も慎重だ。

エゥーゴ、ティターンズとともにアクシズとの協力を早期のうちに取り付けたいところだろう。



▲アクシズの船団にミネバ、今後の戦局が大きく動く

気になるアクシズの動き

アクシズの帰還後、ティターンズとエゥーゴは相次いで使節団を送っている。両者ともアクシズの協力を受け、硬直した戦局を開闊するのが狙いである。しかし、ミネバ・ザビの後見人でアクシズの摂政であるハマーン・カーンは一筋縄ではいかないようだ。

彼女はどちらにも積極的に協力せず、両者の疲弊を待っているようにも見える。しかし、ゼダンの門破壊とそれに続くグリプス2占拠により、戦局は一気に終結へと動くだろう。

三つ巴の戦いのあと、地球圏に覇を唱えるのはどの勢力なのだろうか？



▲ミネバはただの傍聴であり、実権はハマーン・カーンが握っているのは周知の事実だ。しかし、彼女はあくまで摂政の立場を取りつづけている。

▶アクシズ内にはハマーンの信奉者も多い。マッシュムー セロ（写真左）もそのひとり。また後ろのMS、ガザCは史上初の可変MSである。



謀略の女帝、ハマーン・カーン

アクシズの摂政を務めるハマーン・カーン。20歳とは思えないカリスマ性と外交手腕を持つ彼女にも、過去に政敵を葬ってきたという黒い面が付きまといっている。



▲シャア アズナブルとの仲が噂されていたハマーン。政治的な立場の違いからシャアはアクシズを離れたといわれている。

アクシズ、独自のMS開発に成功

アクシズのMSは一般兵用のガザCが知られているが、ハマーン・カーンの乗機であるキューベレイはニュータイプ用のMSとされ、その性能と容姿は、アクシズの象徴ともいわれる。



▲ハマーンのために開発されたMS。ニュータイプ用のMSはこれが初めてである。

パプテマス・シロッコ、木星から帰還【ティターンズ乗っ取り】

ジャミトフの死の真相

ジャミトフ・ハイマンは、アクシズでの会見中ハマーンによって暗殺された。脱出に成功したパプテマス・シロッコが、ティターンズ全軍にそう伝え、彼は指揮権を自らの手中にした。シロッコ主導のティターンズの誕生である。

しかし、彼の手際があまりに見事だったことから、ジャミトフ暗殺の犯人はシロッコその人ではないかとも噂されている。

シロッコの目指すものは

パプテマス・シロッコは、木星エネルギー輸送船「ジュピトリス」の船長である。U.C.0087、4月29日、ジュピトリスが地球圏に帰還すると、シロッコはティターンズに参加、数々の作戦で功績を挙げ今の地位を手中にした。

ティターンズの指導者となったシロッコは女性主導を唱え、みずから礎として理想を実現させると標榜した。しかし、ジャミトフを暗殺したのがシロッコだとすると、彼は自分の野心のために現状を利用しているのだと推察できる。

エウゴ、アクシズとの三つ巴の戦いの中で、シロッコの動向が注目されている。



◀シロッコはジャミトフの死を機に、ティターンズを乗っ取り、その権を握った。シロッコは、木星から地球圏に帰還した。



◀シロッコはティターンズの人員、設備をほとんど受け継いだ。また、シロッコの手によるMSも所有している。



▶シロッコの才能はMS開発の分野にも及び、メッサーラのような高性能MSをジュピトリス内で製作して、有望なパイロットに与えていたという。

木星帰りのニュータイプ

シロッコはパイロットとしても優れている。彼がニュータイプであるという説もあり、その信憑性は高い。いずれにせよ、天才と呼ぶにふさわしい才能をもっている。



▲シロッコのパイロットとしての側面は超一流で、クワトロやカミーユといったエウゴのエースたちをも圧倒したといわれている。

独自のセンスが生んだ名機

ジ・Oは、シロッコが自分のために設計、開発したMSである。彼にはMS開発者としての側面もあり、その才能も飛び抜けていたのだ。ほかにも彼の設計したMSは存在する。



▲ジ・Oはシロッコが開発した4機目のMS。新技術、パイオンセンサーを導入している。

キャスバル・ダイクン、ネオ・ジオンを結成

ジオンの遺志を継ぐもの

ジオン共和国の祖ジオン・ズム・ダイクンは、理想の半ばで死を遂げる。デギン・ソド・ザビによる暗殺ともいわれているが、真相は闇の中である。

その息子キャスバル・レム・ダイクンがスペースノイドの独立を求めて決起したのは、ジオン・ダイクンの血を引く自分が何をすべきかを、戦いの中で見つけ出したからではないだろうか。

人を革新へと導くのか

キャスバルがネオ・ジオンを興した理由のひとつに、ジオン公国すなわちギレン・ザビの横暴があった。父ジオン・ズム・ダイクンが提唱した「コントリズム」を、「優性人類生存説」という選民思想にすりかえて人心を操作するギレン・ザビ。彼を放置しては、人類に未来はないと考えたのではないだろうか。

キャスバルはスペースノイドの真の独立を目指して戦いを始めた。それがニュータイプの未来を示すものなのかどうかは判断できない。しかし、宇宙世紀の人があるべき姿を模索し、一石を投じたことは間違いない事実である。



▲志士は命を落として父の遺志を継ぐため、キャスバルは父の遺志を継ぐと誓う。



▲ジオン・ダイクンはスペースノイド独立の父である。彼の思想が同じ思想をもって立ち上がるといふことは、重要な意味をもっているのだ。

▶ララァ スンやシャリア フルといったニュータイプが彼のもとに参加した。ニュータイプの未来をキャスバルに託そうとしたのだろうか。



スペースノイドの希望

かつてシャア・アズナブルとして名を馳せたキャスバルである。パイロットとして一流なのは間違いない。しかし、指導者となった彼が、戦場に赴く機会はあるのだろうか？



▲かつては「赤い彗星」として名の知れたキャスバルだが、指導者となった今、危険を冒してまで戦場に赴くことはないのかもしれない。

「赤い彗星」再来か

ネオ・ジオン開発部はキャスバル専用ガンダム開発に着手。これには、象徴としてのガンダムと、キャスバルのカリスマを同時に利用しようとする思惑があると推察できる。



▲赤いガンダムがスペースノイドの独立の象徴として戦場を駆け回る日は訪れるのか。

キシリア・ザビ、正統ジオン結成

兄妹の戦い

ギレン・ザビとキシリア・ザビの対立は、ジオン公国では知らぬ者はなかったと言われている。キシリア・ザビ少将は月面都市、グラナダにおいて「正統ジオン」の設立を宣言、ジオン公国に対して宣戦を布告した。デギン公やガルマの死がその原因と思われるが、やはりギレンとの確執が大きな要因であろう。彼女の離反は起こるべくして起こったものなのだ。

豊富な人材、優秀な機材

彼女はその宣言でギレン・ザビを「篡奪者」と呼び、デギン公の死も彼が引き起こしたものだとした。これが事実ならば、公国内でギレンに対する反乱が起きてもおかしくはない。

またキシリアのもとにはマ・クベや黒い三連星、シャア・アズナブルなど、ジオン軍でも屈指のエースパイロットが集っている。さらに彼女がフラナガン機関を設立したことから、同機関出身のニュータイプもいる可能性が高い。また、グラナダという地の利もあり、サイド3への侵攻も比較的容易である。一年戦争はザビ家同士の争いへと姿を変えていった。



▲「正統ジオン」を宣言するギレンを激しく非難する。彼女に代わって戦



▲戦死したデギン公、ガルマ大佐の遺影を前に演説を行う。こうすることで自らがより「正統」であることを印象づけようとした。

▶彼女の離反には策略家であり、オデッサで戦ったマ・クベ大佐の存在が大きいとされる。今後、政治面での活躍を期待したいところだ。



ニュータイプ部隊も擁する兵力

正統ジオンが他の軍隊と一線を画しているのはニュータイプ部隊の存在であろう。ジョン・ダイクンの考えを引き継ぎ、発展させた思想はフラナガン機関を設立するに至った。



▲ウラァ・スンはフラナガン機関出身のニュータイプとして最も有名である。ソロモン戦の終了時から参戦し、「ソロモンの亡霊」と呼ばれた。

強力なMS群を配備

最新のMSが配備されている点でも、正統ジオンは他を圧倒している。MS生産工場が集中している月面に本拠地があるので、今後も新型MSが配備される可能性は高い。



▲無敵誘導兵器である「ヒット」を初めて搭載したMA。エルメス、ウラァ・スン専用。

ガルマ・ザビ、新生ジオン結成

「坊や」の意地、その真意は？

ジオン軍地球方面軍司令ガルマ・ザビ。その地位すら「親の七光」と言われていた彼だが、北米ニューヨーク市を本拠地として、「新生ジオン」を宣言、その演説を全世界に放送した。

「長引く戦争、消えていく人命。これらを憂い、新生ジオンを設立した」と彼は語る。これが、本心から出た言葉であれば、戦後、彼は英雄として迎えられよう。



▲「坊や」の意地、その真意は？ 新たなシナリオ戦術としての真意

ザビ家の正統となるか

新生ジオンの設立を聞いてガルマのもとへ駆けつけた人物のひとり、ドスル・ザビだ。かねてより、ガルマに指揮官としての才能を見だしていたといわれる彼だけに、ガルマの決意は実子の誕生と同じくらい、嬉しいニュースだったに違いない。またドスルと時を同じくして彼の部下であるシン・マツナガやランバ・ラルなどのメンバーが顔を揃えている。

反対に顔をしかめるものもある。資源のほとんどを地球からの輸送に頼っていたジオン、そして南米ジャブローに本拠地を持つ連邦軍だ。両軍から見るとやっかいな勢力となるに違いない。



▲情勢を聞き、感涙を流すドスル。彼は「兄として、軍人として待ちわびていた瞬間だった」と、後に述懐している。地上にはイセリナの変もあった。

▶「白髪」ことシン・マツナガや「黒い巨星」ランバ・ラルの参加は、兵力不足が心配される新生ジオンにとっては願ってもしないことであろう。



兵の薄さは血で補う

猛将として知られるドスルの参加は、兵の少ないガルマにとっては嬉しいニュースだ。ガルマの参謀としての活躍が期待される。ガルマならば、彼を使いこなすであろう。



▲兵士からの信望も厚く、指揮官として一歩と評されるドスル・ザビ。彼の存在はガルマ・ザビにとって支えとなるだろう。

ザビ家の正統をアヒール

兵力不足の新生ジオンだが、まずは武力による制圧より、ジオンの持つ負のイメージの払拭が課題である。ザビ家専用ビッグ・ザムはイメージアップとなるのだろうか。



▲この機体の使い方によって、新生ジオンの評価が変わると思われる。

戦いのあとに残るもの…

After the One Year War

U.C.0080、1月1日。戦争は終わった。

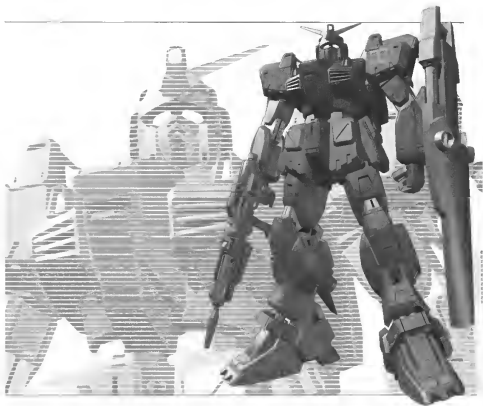
月面都市グラナダにおける終戦条約の調印をもって、ジオン公国は消滅した。しかし、ア・バオア・クー陥落寸前に大量のジオン艦艇が戦線を離脱したといわれている。そして、地球連邦はジオン残党狩りを名目にスペースノイドへの弾圧を強めていった。

U.C.0083、ジオン残党最大の武力蜂起といわれるデラーズ紛争。U.C.0087のティターンズとエゥーゴ、アクシズの三つ巴の戦いとなったグリプス戦役。U.C.0088、ザビ家の再興を宣言し、ネオ・ジオンを名乗ったアクシズの引き起こした第一次ネオ・ジオン戦争。U.C.0093、シャア・アズナブルによる第二次ネオ・ジオン戦争。これら全ての戦乱の原因は一年戦争にあった。地球に住むものと宇宙に住むもの、彼らの対立が戦乱の引き金であったとしたら？ どうすれば人はわかり合えるのだろうか？ 人々は不安げな表情で空を仰いだ。まだ戦争が続いているかのように……。



第	2	章
---	---	---

地	域	別	ガ	イ	ド
---	---	---	---	---	---



GIHREN'S GREED
BLOOD OF ZEON



地球

コロニー落としにより、地球環境は深刻なダメージを受けた。
それに続く地球侵攻作戦により、ほとんどの大陸がジオンに制圧されている。



北アメリカ

NORTH AMERICA

P.40

キヤプフォルニア カナダ西部
 ニューヨーク カナダ東部
 ハワイ グリーンランド
 アメリカ中央部 北大西洋
 アラスカ



ユーラシア

EURASIA

P.46

北京 カムチャツカ
 ロシア東部 中国
 ロシア中央部 日本近海
 ロシア西部



インドシナ

INDOCHINA

P.52

マドラス インド洋
 インド インドシナ
 インドネシア



南アメリカ

SOUTH AMERICA

P.42

ジャブロー 南米南部
 メキシコ 南大西洋
 南米北部



ヨーロッパ

EUROPE

P.48

オデノサ ヨーロッパ西部
 ベルファスト スカンディナビア
 ヨーロッパ北部 カザフスタン
 ヨーロッパ南部



アフリカ

AFRICA

P.44

キリマンジャロ アフリカ西部
 アラビア アフリカ南部
 アフリカ東部



オーストラリア

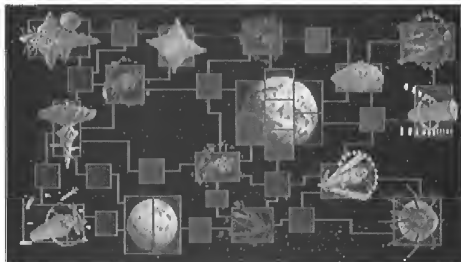
AUSTRALIA

P.50

トリントン
 オーストラリア東部
 オーストラリア西部
 南太平洋

宇宙

各コロニーに加え、月面都市など、戦略上重要なポイントがそろっている。
開戦当初はほとんどがジオンの支配下にある。



特別エリア SPECIAL AREA

P.54

サイド3
グラナダ
ア・バオア・クー
ソロモン
ルナツー
茨の園
ラビアンローズ
グリプスⅡ
アクシズ



その他のエリア OTHER AREA

P.61

フィン・ブラウン
宇宙1
宇宙2
宇宙3
宇宙4
宇宙5
宇宙6
宇宙7
宇宙8
宇宙9
宇宙10
宇宙11
宇宙12
宇宙13



降下ポイント LANDING POINT

P.64

アメリカ上空
アフリカ上空
インド上空
オーストラリア上空
オデッサ上空
ジャブロー上空
北京上空



コロニー COLONY

P.58

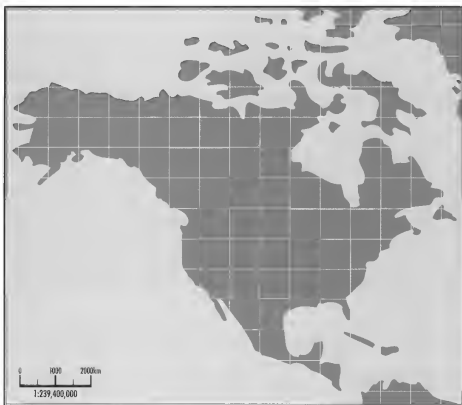
サイド1
サイド2
サイド4
サイド5
サイド7
サイド6



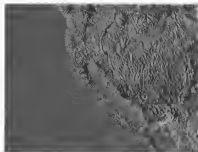
北アメリカ

NORTH AMERICA

ジャブローに次ぐ連邦軍の拠点である、カリフォルニア、ニューヨークの2大都市を有している。

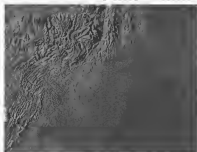


カリフォルニア



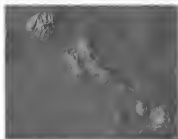
北米最大の軍事基地であるカリフォルニア・ベースを擁する。一年戦争初期の地球降下作戦で、シオンに制圧されている。ジャブロー攻略作戦ではこの基地のほとんどの戦力が投入された。

ニューヨーク



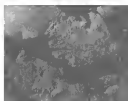
地球では数少ない親ジオン派の都市である。東海岸における重要拠点のひとつであり、ガルマ・ザビもここに拠点を置いていた。ホワイトベース隊もここを通過している。

ハワイ



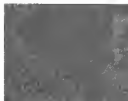
北太平洋における重要拠点。連邦、ジオン両軍の海上戦力の多くがここを拠点としていたと思われる。ホワイトベース隊がランバ・ラル隊と初めて交戦した場所でもある。

カナダ西部



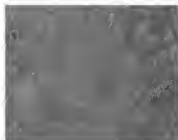
アメリカ大陸中、もっとも複雑な地形をしており、小規模な基地が点在している。アラスカ同様、ここカナダも天然資源の宝庫である。

カナダ東部



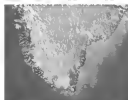
中央部にある大きな湾の周辺に基地が建設されている。五大湖にある工業地帯や北大西洋への入り口として、輸送部隊の拠点となっていたのではないだろうか。

アメリカ中央部



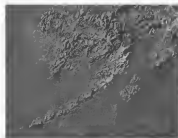
見渡す限りの大平原が広がっている。北東部には、五大湖を中心としたアメリカでも有数の工業地帯がある。ここの生産力を活かし、兵器の開発や量産を行っていた可能性が高い。

グリーンランド



海岸地帯を除いて、ほとんどの陸地が氷に覆われている。こうした地域では寒冷地用にセキティングされた機体が配備されていた。

アラスカ



天然資源の豊富なアラスカは連邦、ジオン両軍にとって重要な資源確保の場であった。しかし、険しい山脈地帯を、航空部隊なしに越えるのは難しいだろう。

北大西洋



北米からアフリカ、ヨーロッパへの通商路として利用されている。ジオン軍はこうした地域に潜水艦部隊を配備し、通商破壊を行っていた。



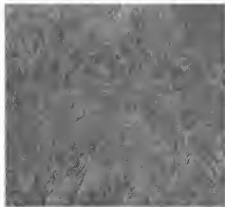
南アメリカ

SOUTH AMERICA

連邦軍の拠点であるジャブローを擁しているため、連邦、ジオン両軍にとって重要な地域であった。山脈や密林が混在する、多彩な自然が特徴である。



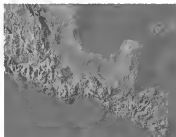
ジャブロー



連邦軍の総司令部が置かれている。そのため、ジオン軍のコロニー落としの標的となった。またジオン軍は、基地の正確な位置をつきとめた0079年11月にジャブロー攻略戦を実施したが失敗に終わっている。

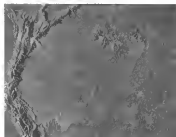
0087年のエウゴ侵攻時にティターンズが核兵器を使用、これにより同基地は消滅した。

メキシコ



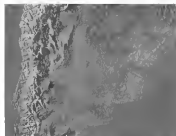
北米と南米をつなぐ陸の橋。平地が狭く、ほとんどが山地となっているため、航空部隊なしの通過は難しい。また大西洋と太平洋をつなぐパナマ運河も、ここに位置しており、陸路、海路ともに交通の要所である。

南米北部



太平洋岸にはアンデス山脈、内陸にはアマゾンの熱帯雨林が広がっている。ジャブローから近いためにジャングルの中に連邦軍の基地が点在している。ジャブロー攻略戦では激戦が行われた。

南米南部



太平洋岸の山脈地帯と内陸部の草原地帯が特徴的な地域である。南米北部と同様、ジャブローと隣接しているが、ジオン軍の拠点は北米に集中していたため、大きな戦闘はなかったようだ。

南大西洋



南米とアフリカをつなぐ海上路。この地域の制海権を確保していればアフリカから直援、兵員や物資の輸送が可能となるので、ジャブロー攻略戦の成否が変わっていたかもしれない。



アフリカ

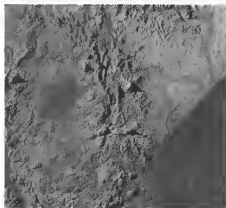
AFRICA

一年戦争中は資源採掘の場であり、そして戦後は多数のジオン残党が潜伏した地域である。またグリプス戦役中期には連邦軍の拠点が置かれた。



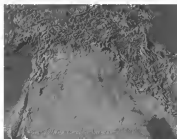
0 1000 2000km
1:239,400,000

キリマンジャロ



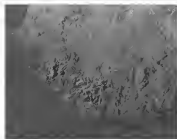
アフリカ大陸最大のジオン軍の拠点である。アフリカ掃討作戦の目的地もここだったといわれている。キリマンジャロ基地をめぐる攻防戦は、アフリカ大陸における最大規模の戦闘とされ、同基地の陥落をもってアフリカでのジオン勢力は沈黙した。

アラビア



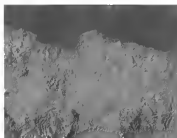
地中海と紅海をつなぐスエズ運河は、宇宙世紀に入っても交通の要所とされていた。またアフリカ、アジア、ヨーロッパの3地域に隣接しているため、拠点としての利用価値も高い。

アフリカ西部



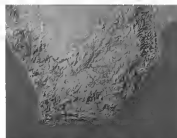
北には砂漠地帯、南には山地という両極端な地形が特徴のアフリカ西部。ジャブローを出発した掃討部隊はまずここを攻略、その後キリマンジャロなどの地域へ侵攻した。

アフリカ東部



キリマンジャロ基地の北部に位置しているため、同基地攻略の足がかりとされた。地域全般に渡って砂漠が広がっている。地上、航空部隊の両方を使った作戦が、展開されたことだろう。

アフリカ南部



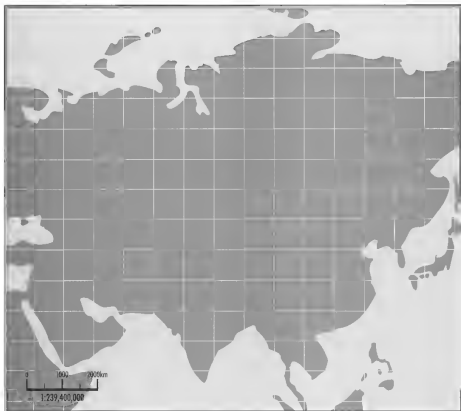
一年戦争後、ジオン残党が潜伏していたキンバライド鉱山基地はこの地域にある。同基地はデラーズ紛争時にガンダム2号機を宇宙へと送り届け、その役目を終えた。



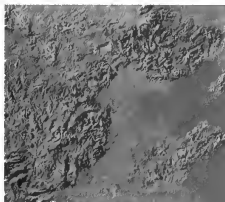
ユーラシア

EURASIA

中国からロシア、日本までを含む広範な地域である。一年戦争時には北京にジオン軍が侵攻、ユーラシア大陸における本拠地を築いた。

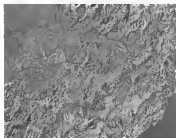


北京



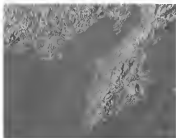
ユーラシア地域におけるジオンの最重要拠点。湾の最深部に位置しているため、攻めにくく守りやすい。また背後には山脈がそびえており、陸上部隊による侵攻は困難を極めた。

ロシア東部



一帯に広大な山脈地帯が広がっている。ある程度の資源採掘が見込めたせいか、ほぼ等間隔に基地が設置されている。この基地を利用して、効率よく侵攻していきたい。

カムチャツカ



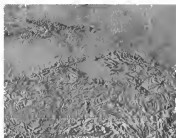
資源は乏しいが、アラスカから侵略を受ける可能性があるため、多くの基地が建設されている。半島と大陸の間に細長い湾があり、潜水艦部隊の存在もあると思われる。

ロシア中央部



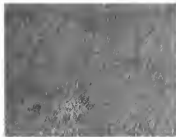
東部とは違って変わって一面の平原となっている。しかし、いくつもの河川が入り組んでいるため、航空部隊の支援がなければ、渡河や物資の補給に手間取るだろう。

中国



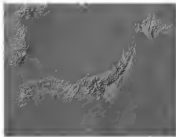
北方は平原地帯、南方は峻険な山地となっている。十分な航空戦力がなければ、イント方面からの侵攻は難しいだろう。できれば北側の平原地帯から侵攻したいところである。

ロシア西部



中心部にある基地を中心に、その円周上に拠点が建設されている。河川ではなく湖沼がいくつかあるだけとなっている。ユーラシアからヨーロッパへの数少ない進入路のひとつである。

日本近海



中国やインドシナ方面への足がかりとなるため、戦略的価値は高いとされる。主要都市が太平洋岸に位置しているため、同方向から侵攻すれば、攻略しやすいといえる。



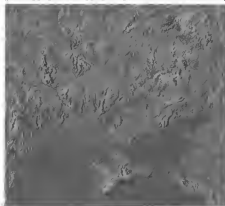
ヨーロッパ

EUROPE

一年戦争のターニングポイントとなったオデッサをはじめ、ベルファストなどの重要拠点がある。またユーラシアやアフリカなどへの橋頭堡となる地域でもある。

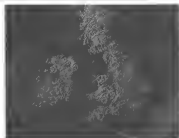


オデッサ



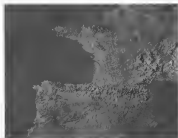
オデッサには特殊な鉱物を産出する鉱山があり、その資源の重要性は、地球降下作戦においてジオン軍がいち早く奪取に乗り出したことから、知ることができ。連邦軍によりU.C.0079、11月7日に開始されたオデッサ作戦は、この鉱山の奪回を目的としていた。この作戦は、一年戦争のターニングポイントとなった戦いである。

ベルファスト



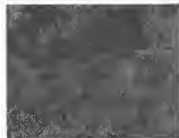
北アイルランドに位置するこの基地は、ジオン軍に占領されなかった数少ない拠点のひとつである。一年戦争を通して、ヨーロッパにおける最重要基地として使用された。

ヨーロッパ西部



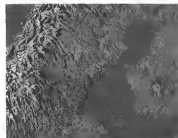
イベリア半島を南北に分断している山脈があるので、思ったより侵攻しにくい。しかし、ベルファストの最も近くに位置しているだけに、ジオン、連邦両軍による激しい争奪戦が繰り返された。

ヨーロッパ北部



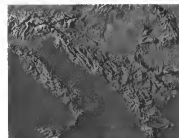
沿岸部と内陸部にいくつかの拠点が建設されている。内陸は平地が広がっているが、湾部は複雑に入り組んでおり、海上部隊よりも航空部隊による空輸が、効果が高いだろう。

スカンジナビア



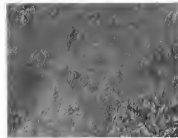
山地からフィヨルドに落ち込むような地形と森林のため、戦力の投入が難しい。ロシアやオデッサへの侵攻ルートとなっていたが、ジオン、連邦両軍ともに重要視していなかったようだ。

ヨーロッパ南部



イタリア半島をはじめ、沿岸部分はすべて山地に面している。アフリカ大陸への橋頭堡ともなるが、オデッサ作戦に全戦力を投入していた連邦軍は、駐留部隊をおいたのみであった。

カザフスタン



オデッサやアラビア、ヨーロッパなど重要な地域と隣接している。ふたつの湖に囲まれた平原にいくつもの基地が建設されている。それだけ、重要な地域といえるだろう。



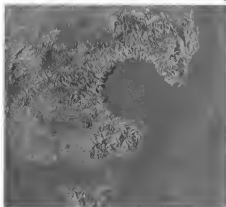
オーストラリア

AUSTRALIA

オーストラリアはブリティッシュ作戦によるコロニーの落着地である。かつてシドニーがあった地点は直径数十キロの巨大な湾となっている。

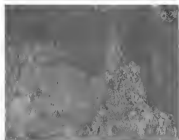


トリントン



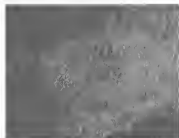
ほとんどがジオン軍の占領下にあったオーストラリアにおいて、連邦軍最後の砦となった基地である。オデッサ作戦に勝利した連邦軍は各大陸を奪回するために、ここトリントン基地にも大部隊を派遣している。また、U.C.0083、新型ガンダム2機が運び込まれたが、そのうち1機がジオン残党に奪取されている。

オーストラリア東部



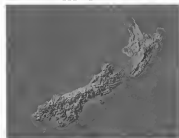
平坦な荒地が広がっている。北に大きく開いた湾が特徴的である。オーストラリアはアフリカ同様、地下資源に恵まれているため、採掘した鉱物を宇宙に運ぶための施設が作られていた。

オーストラリア西部

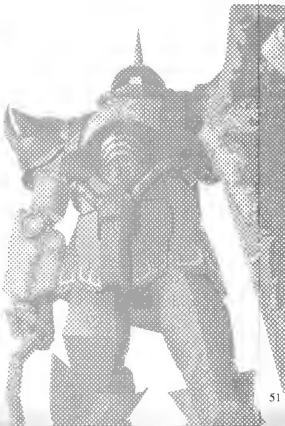


東部と比べると比較的、緑の多い地域である。いくつかの河川があるが、内陸は乾燥地帯である。キシリア直属の生物兵器研究施設が、ここオーストラリアにあったという情報もある。

南太平洋



南北ニューギランド島を中心として、いくつかの基地が建設されている。しかし、島はほとんどが山地となっている。南米からの中継地点として利用されたようだ。





インドシナ

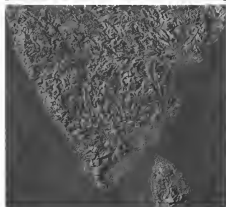
INDOCHINA

東西を結ぶ海上路として、その価値が認められていた。この地域での制海権を取れるかどうか、重要なポイントとなることは間違いない。



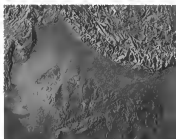
0 1000 2000 km
1:239,400,000

マドラス



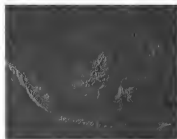
インド洋に突き出したこの地域は、アジアからアフリカ侵攻への重要なポイントである。一年戦争中、インドを含む東南アジアは連邦、ジオン両軍の力が拮抗していた。このバランスが傾いたのは、オデッサ作戦以降であるといわれる。

インド



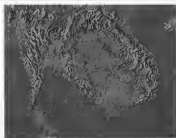
ヒマラヤ山脈を望むこの地域には、シオンの秘密基地があるといわれていた。その真偽は定かではないが連邦軍が攻略作戦を実施したことから、あながち嘘ともいえないだろう。

インドネシア



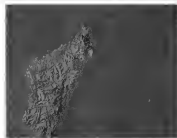
マドラスに近いこの地域は、インドやオーストラリアの玄関口ということもあり、激戦地となっていた。またオデッサ作戦終了後、多数のジオン兵が逃げ込んだともいわれている。

インドシナ



大小数百の島々が点在するこの地域は、オーストラリアとアジアを結ぶ交通の要所である。輸送、交通の要所として制海、制空権の獲得のため激しい戦闘が行われた。

インド洋

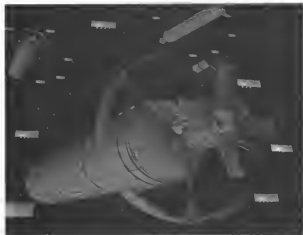


アフリカ、インド、オーストラリアという3つの大陸の中間に位置している交通の要所である。そのため、一年戦争中はその所有権をめぐり、何度も戦いが行われた。



サイド3

SIDE3



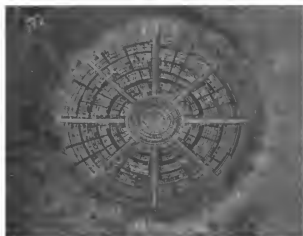
ジオン公国の本拠地

月の裏側、ラグランジュ2に設置されたムンゾと呼ばれるコロニー群、それがサイド3である。ここは地球からもっとも離れた場所にあることから、地球連邦政府からの独立を求める声が強かった。それがジオン共和国の樹立を呼び、その後を継いだジオン公国によって「一年戦争」が引き起こされた歴史は、誰もが知るところである。



グラナダ

GRANADA



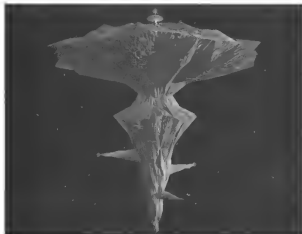
ジオンの片翼を担う拠点

グラナダは月の裏側に位置するジオン公国の軍事基地であり、キシリア・ザビがその全権を有していたといわれる。一年戦争開戦直後のジオン軍の優勢には、このグラナダ基地の存在が大きかったことは間違いない。また、フォン・ブラウンなどの月都市に近いことから、政治的な意味合いも強かったことが推察できる。



ア・バオア・クー

A·BAOA·QU



ジオンの最終防衛線

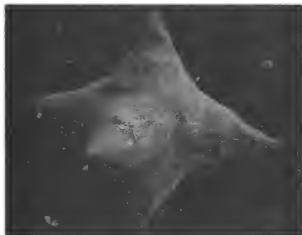
ラダランジュ2に設置されたジオン公国の宇宙要塞で、サイド3を守る最後の砦ともいえるのがここア・バオア・クーである。ここでの攻防戦においてギレン、キンリヤの両指導者を失い、ジオン公国は一年戦争に敗北を喫する。

一年戦争後、この要塞は連邦軍によって「ゼダンの門」と名前を変えて改修された。



ソロモン

SOLOMON



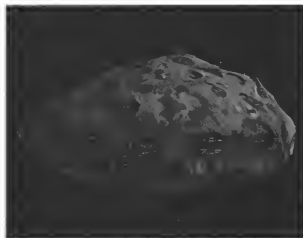
一年戦争最大の激戦地

ジオン軍はサイド1を破壊したのち、その宙域に運び込んだ小惑星を宇宙要塞へと改造した。それがソロモンである。ドズル・ザビが指揮する宇宙攻撃軍の拠点であったが、「ソロモン攻略戦」における連邦軍の攻撃により陥落。そののち「コンベイトウ」と名を変えて連邦軍の管轄となったが、デラーズ紛争で核攻撃を受けた。



ルナツー

LUNA2



連邦軍唯一の宇宙拠点

スペースコロニーの建設に必要な鉱物資源を採掘するために、ラグランジュ3へと運び込まれた巨大な岩塊。それがルナツーである。連邦軍はこれを要塞として利用し、宇宙艦隊の拠点とした。一年戦争において連邦軍が攻勢に転じるまでは、宇宙におけるただひとつの戦略拠点として、重要な役割を担った。



茨の園

THE GARDEN OF THORN



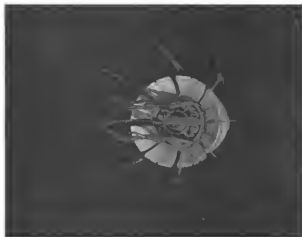
デラース離伏の地

「茨の園」とは、ラグランジュ1に広がる暗礁宙域に建造された宇宙拠点である。一年戦争の敗北をうけて戦線を離脱したエギーユ・デラーズ麾下の艦隊は、この天然の要塞に逃げ込んで3年の間、離伏の時を過ごした。また、月に近く、ここを中心にして月都市とデラース・フリートの襲取り引きが活発に行われたともいわれている。



ラビアンローズ

LA VIAN ROSE



【アナハイムが誇るドック艦】

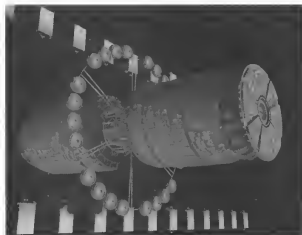
ラビアンローズはアナハイム・エレクトロニクスが所有するドック艦であり、アナハイムが開発したMSなどの宇宙空間におけるテストに使用されていた。

デラース紛争の折には、ここでテストが行われていたガンダム試作3号機をアルビオン隊が奪取して、コロニー落とし阻止に利用したという情報もある。



グリプスII

GRYPS II



【ティターンズの切り札】

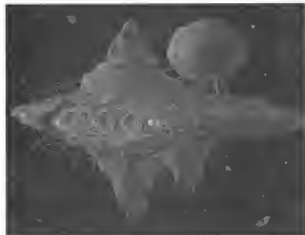
グリプスIIは、ティターンズが戦略拠点とするためにサイド7宙域に移動したコロニーであり、ティターンズの兵器開発工廠が置かれていたともいわれる。

また、のちにこのコロニーはコロニーレーザーに改造され、これを巡るティターンズ、エゥーゴ、アクシズの三つ巴の戦いが繰り広げられた激戦地ともなった。



アクシズ

AXIS



【ジオンの亡霊が棲む要塞】

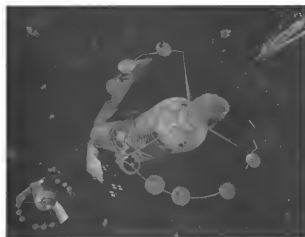
ジオン公国が資源採掘のために火星と木星の間にある小惑星を改造した基地がアクシズである。一年戦争後、ジオン残党の一部はここに逃げ込み、再起を期した。

この小惑星基地は大規模な工業設備を有し、独自の兵器を開発する力を持っていた。これは、アクシズに潜伏するジオン残党が力をつける大きな助けとなったといえる。



サイド1

SIDE1



【度重なる暴挙の被害者】

サイド1はザーンとも呼ばれるラグランジュ5に設置されたコロニー群で、もっとも不適なサイドであるともいえる。

一週間の戦争ではジオン軍の奇襲攻撃の目標となり、全滅にも近い被害を受ける。このサイドの受難はそれだけに留まらず、再建途中のU.C.0085、7月31日、30パンチ事件という大惨事に見舞われ、住民のほとんどが死亡した。



サイド2

SIDE2



【災厄に見舞われたサイド】

ラグランシェ4のサイド2、ハンチは、一週間の戦争で奇襲を受けたコロニー群のひとつであると同時に、ティターンズの度重なる攻撃に晒されたサイドでもある。ティターンズは3回に渡ってこのサイドに攻撃を仕掛け、18、21、25パンチが被害を受けている。しかも、その攻撃には毒ガスを用いられたとも伝えられている。



サイド4

SIDE4



【戦いの傷跡いまだ癒えず】

ムーアとも呼ばれるサイド4は、一週間の戦争のジオン軍の奇襲攻撃によって徹底的に破壊され、そこに住む人々は全滅した。

一年戦争後の地球連邦政府による「コロニー再建計画」でも、このサイドの再建は先送りにされ、ラグランジェ5のサイド4宙域には核攻撃によって破壊されたコロニーの残骸が漂っている。



サイド5

SIDE5



【大艦隊戦の戦場・ルウム】

ラグランジュポイント1に位置するサイド5は、このサイドの別名を取った史上最大の艦隊戦「ルウム戦役」の戦場となったことで知られる。レビル將軍率いる連邦軍の奮戦によって、コロニー落としは阻止されたものの、戦いに勝利したジオン軍によってサイド5は全滅し、25億もの人命が失われた。



サイド7

SIDE7



【ホワイトベースの出発点】

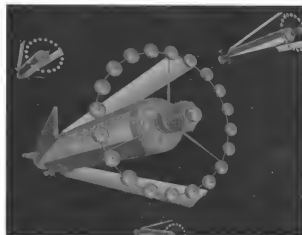
連邦軍の「V作戦」は、一年戦争の大きな転機といえる。その出発点が、ラグランシュ3に位置するこのサイド7、ノアである。ここで史上初のMS戦闘が行われ、ホワイトベース隊が単独行を開始したことが戦史に残されている。

また、ティターンズの新型ガンダム開発が行われていたのもこのサイドであった。



サイド6

SIDE6



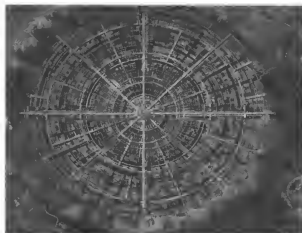
薄氷の上に立つ中立

ラグランシュ4に位置するサイド6、リーアは、一年戦争では中立の姿勢を取った。しかし、戦時においてその立場は危うく、街域内で連邦軍とジオン軍艦隊との交戦も確認されている。また、連邦軍は中立という建前を隠れ蓑にして、ここで新型ガンダムの調整を試みるが、ジオン特殊部隊の妨害を受けたことが記録に残っている。



フォン・ブラウン

VON BRAUN



狡猾なルナリアンの巢窟

スペースノイドとアースノイドの対立という図式が成り立つ宇宙世紀の戦争において、月都市は一貫して中立の姿勢を貫いてきた。その代表的な都市がフォン・ブラウンである。しかし、その姿勢の裏で利益のための打算を働かせていたことが、デラース紛争やグリプス戦役でのルナリアンの暗躍に表れているといえるだろう。

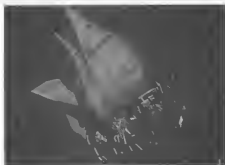


その他の宙域

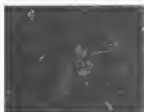
OTHER SPACE

ジオン残党、潜伏の可能性も

破壊されたコロニーや艦艇の残骸が無数に浮遊する宙域は、MSにとっては格好の戦場であった。デラーズ紛争では、デラーズ艦隊はこのような暗黒宙域に潜伏して連邦軍の監視の目を欺いた。また、「星の屑作戦」では、デラーズ・フリートの部隊が残骸に隠れて連邦軍の警戒網を突破し、観艦式を襲撃したともいわれる。



宇宙1



ルナツーとサイド4の中間地点。破壊されたコロニーの残骸が漂っている。ジオンのルナツー攻略の最短ルートとなるため、連邦軍にとっては危険であった。

宇宙2



サイド6とルナツーをつなぐ通商路として利用されていたようだ。しかし、サイド6は中立地帯のため、この宙域では連邦、ジオン両軍共に戦艦行動は行わなかった。

宇宙3



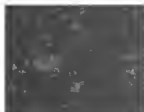
サイド2、サイド5、オーストラリア上空、サイド6。これら4つの地域の間に横たわる隙間に包まれた宙域。隕石やコロニーの残骸がなく、守るものも取めるものも困難である。

宇宙4



サイド2と6、南コロニーの通商路として使用されている。中立コロニーに近いが、領空侵犯を恐れてか、ジオン、連邦両軍ともに使用を避けていたようだ。

宇宙5



オデッサ上空に漂っている。連邦軍はこの地点を守りきれなかったがために、ジオンのオデッサ侵襲を許した。またサイド1とサイド5の中間にある。

宇宙6



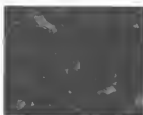
サイド2とサイド5の中間である。ルムの戦役で破壊されたコロニーの残骸が漂っている。両軍共に戦略的には大して重要な地域とは思っていない。

宇宙7



ア・バオ・クーとサイド5をつなぐ。一年戦争当初、ア・バオ・クーを出発したジオン艦隊はここを通過してサイド5、ルウムへと向かった。

宇宙8



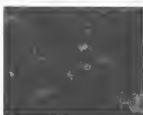
サイド3と月面のフォン・ブラウンとを結ぶ通路。フォン・ブラウンは中立都市のため、進駐、ジオン降参とも、この地点での戦いは避けられていた。

宇宙9



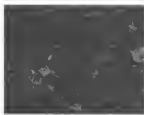
ソロモンとア・バオ・クーの間に横たわる荒廃の宇宙。この区間はかなりの拠点間の距離があるため、物資の補給が難しく、補給線の確保が第一に考えられた。

宇宙10



宙域の中心部にはコロニーのものとと思われる残骸が散乱している。ア・バオ・クーの最終防衛ラインのひとつである。ソロモンを陥落させた連邦軍はここを通過した。

宇宙11



ア・バオ・クーとグラナダの間にある。グラナダに基地を置いていたキシリア・ザビとの戦いで使用された。グラナダは表だって連邦軍を降参してはいない。

宇宙12



サイド3の最終防衛ラインともいえる地点。その経路にサイド3に近い宙域にはジオンの機動部隊が警戒していた。ジオンが降参しなければ、ここでも激戦が行われてであろう。

宇宙13



グラナダからサイド3への通路。ジオンのガルシア将軍はグラナダへ降参協定の締結に強い関与でここを通過した。この通路は平時はあまり使用されなかったといわれる。



降下ポイント

LANDING POINTS

地球侵略への道

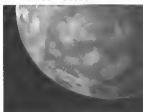
地球上空の降下ポイントでも戦火は絶えることがなかった。一年戦争、デラーズ紛争におけるコロニー落としを巡る攻防戦や、ジオン軍の地球降下作戦、エゥーゴによるジャブロー降下作戦など、衛星軌道上での交戦記録は多い。また、大気圏突入時に交戦に入りながら、無事降下に成功したMSも存在したという。

アメリカ上空



ルナツーの背後にある。北米攻陥作戦時には大量のHLMがここから北アメリカの各地帯に向かって降下した。

アフリカ上空



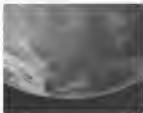
アフリカの制圧を目的とした第3次降下作戦において、ジオン艦隊はこの宙域に集結。降下部隊の援護をした。

インド上空



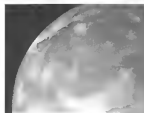
降下にはヒマラヤの高峰をかいま見ることができる。アジア方面におけるジオン降下部隊はこのポイントと北京上空から地球に侵襲した。

オーストラリア上空



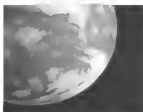
落下したコロニーのため、その痕跡を受けたオーストラリア大陸。その痕跡ははるか上空からでもはっきりと見える。

オデッサ上空



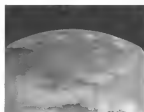
オデッサでは一年戦争中、地球上で最も激しい戦闘が行われた。ジオン降下部隊はオデッサ鉱山の奪取を狙い、艦撃作戦を展開した。

ジャブロー上空



連邦軍本拠地ジャブロー上空。ジオンは第2次ブリティッシュ作戦でこのポイントからのコロニー落としを計画した。

北京上空



極東における最大都市のひとつ北京。北京上空の占拠は大陸への足掛かりを得たのも当然であるといえる。

第	3	章
---	---	---

メ	カ	ニ	ッ	ク	フ	ア	イ	ル
---	---	---	---	---	---	---	---	---



GIHREN'S GREED
BLOOD OF ZEON



ガンダム系

連邦最強のMSシリーズ RX-78からMk-まで
常に戦火の中心で活躍した名機



RX-78-1

プロトタイプ
ガンダム



RX-79 (G)

先行量産型
ガンダム



RX-79 (G) Ez-8

ガンダムEz-8

69ページ GPシリーズ系へ

77ページ サイコガンダム系へ



RX-78-2

ガンダム



RX-78XX

ガンダム
ヒクシー



RGM-79 (G)

先行量産型
シム

68ページ ジム系へ

69ページ ブルーディスティニー系へ

68ページ ジム系へ



RAG-79

アクアシム



RX-78/C.A

キャスバル専用
ガンダム

マクネットコーティング
技術研究開発



RX-78-3

G-3ガンダム



RAG-79-G1

水中型
ガンダム



RX-78T

Tガンダム

NT研究機関設立



RX-78NT-1

ガンダムNT-1



FA-78-1

フルアーマー
ガンダム



RX-178-XO

ガンダムMk-II
試作0号機



RX-78NT-1-FA

ガンダム
NT-1-FA



FA-78-2

ヘビーガンダム

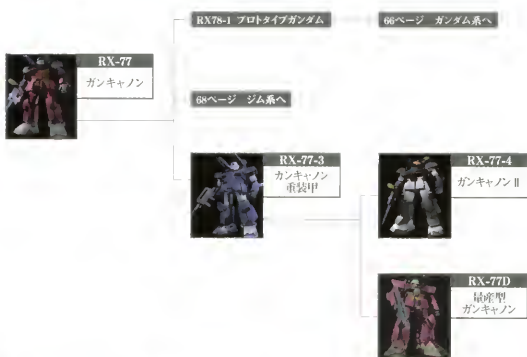


RX-178

ガンダムMk-II

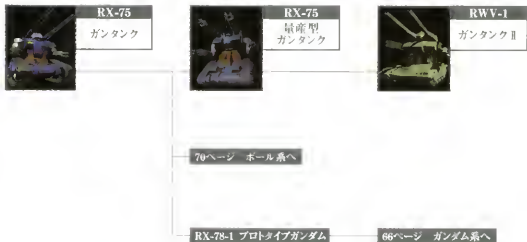
ガンキャノン系

重装甲の砲戦型MS 以後、大口径砲を固定装備した
支援用MSの雛形となっていく



ガンタンク系

装軌式の長距離戦用MS群
後に大型車両として見直された



ジム系

平均的な性能の連邦軍主力MS
一年戦争後数十年、この型が最前線で使用された

RX-78-2 ガンダム

RX-79(G) 先行量産型ガンダム



RGM-79(G)
先行量産型
ジム



RGM-79
ジム

RX-77-2 ガンキャノン



RGC-80
ジム・キャノン



RGM-79G
ジム・コマンド
地上型



RAG-79
アクア・ジム



RGC-83
ジム・キャノン II



RGM-79C
ジム改



RGM-79L
ジム・
ライトアーマー



RGM-79GS
ジム・コマンド
宇宙用



RGM-79
ハワード・ジム



RGM-79D
ジム
寒冷地仕様



RGM-79R
ジム II



RGM-79N
ジム・カスタム



RGM-79SC
ジム・
スナイパーカスタム

RMS-099 リック・ディアス



MSA-003
ネモ



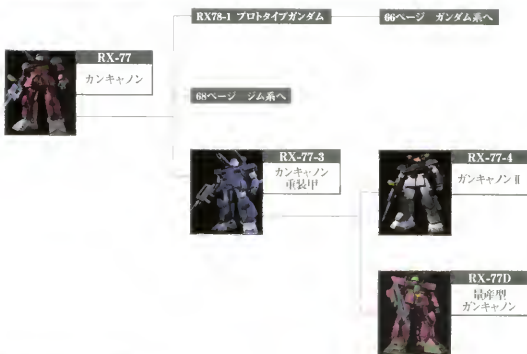
RGM-79Q
ジム・クエサル



RGM-79SP
ジム・
スナイパー II

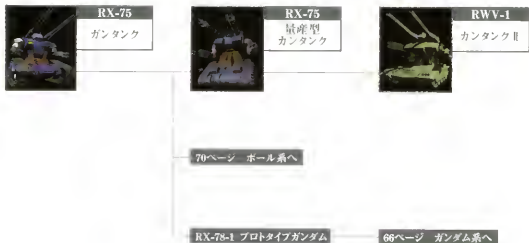
ガンキャノン系

重装甲の砲戦型MS。以後、大口径砲を固定装備した支援用MSの雛形となっていく。



ガンタンク系

装軌式の長距離戦用MS群
後に大型車両として見直された



ジム系

平均的な性能の連邦軍主力MS

・年戦争後数十年、この型が最前線で使用された

RX-78-2 ガンダム

RX-79(G) 先行量産型ガンダム



RGM-79(G)
先行量産型
ジム



RGM-79
ジム

RX-77-2 ガンキャノン



RGC-80
ジム・キャノン



RGM-79G
ジム・コマンド
地上型



RAG-79
アクア・ジム



RGC-83
ジム・キャノンII



RGM-79C
ジム改



RGM-79L
ジム・
ライトアーマー



RGM-79GS
ジム・コマンド
宇宙用



RGM-79
ハワード・ジム



RGM-79D
ジム
寒冷地仕様



RGM-79R
ジムII



RGM-79N
ジム・カスタム



RGM-79SC
ジム・
スナイパーカスタム

RMS-099 リック・ディアス



MSA-003
ネモ



RGM-79Q
ジム・クウエル



RGM-79SP
ジム・
スナイパーII

ザク系

史上初のMS系統 後発のMSすべての基本形である



統合整備計画

マゼラアタック

72ページ グラフ集へ

76ページ
デラーズ・フリースト巻へ

76ページ ペズン計画系へ

カンタリウム⁷の入手

75ページ サイコミュレーション型系へ

72ページ ドム系へ

グフ系

ザクを発展させた陸戦用機 H型はホバー走行の
概念を生み出した記念碑的MS



ドム系

ホバーを標準装備した局地戦用
重MS 後に宇宙用も開発された



イフリート系

グフとドムの中間機
EXAM型もある



ゲルググ系

レオン初の
ビーム・ライフル搭載型量産機76ページ
ベズン計画系へYMS-14
ゲルググ
初期生産型MS-14C
ゲルググ
キャノンMS-14JG
ゲルググJ

ゲルググ量産化計画

MS-14A
ゲルググ
量産型MS-14B
高機動型
ゲルググ

統合整備計画

MS-14F
ゲルググMMS-14FS
ゲルググM
指揮官用MS-14J
リケルグ

ケンプファー系へ

ギャン系

量産機競争に敗れた
旧兵戦用MSシリーズMS-15
ギャン76ページ
ベズン計画系へ

ギャン量産化計画

MS-15A
ギャン量産型MS-15B
高機動型
ギャン

ケンプファー系へ

ケンプファー系

MA的 성격の強襲型MS
大弾兵器を多数装備MS-14B
高機動型ゲルググMS-15B
高機動型ギャンMS-15C
ギャンキャノンMS-18E
ケンプファー

水陸両用系

水中戦用MS群 水圧を考慮してか、特異な形状の機体が多い

MS-06M サク・マリンタイプ

統合整備計画

MSM-03C

ハイコノク



MSM-03

ゴック



MSM-10

ゴック



MSM-04N

アックガイ



MSM-04

アックアイ

シャブロー攻略用
MS開発計画

MSM-04G

シュアッグ



MSM-07

ズゴック

76ページ
ベズン計画系へ

EMS-05

アング

シャブロー攻略用
MS開発計画

MSM-08

ゾゴック



MSM-07S

ズゴック
指揮官用

統合整備計画



MSM-07E

ズゴックE

アプサラス系

技術将校キースが開発した拠点攻略用MA
Ⅱ型試作機を経て完成型のⅢが完成アプサラス
計画

アプサラス



アプサラスⅡ



アプサラスⅢ

モビルアーマー系

MSとは別系統の非人型局地戦用機動兵器
人型のナデ 高い機動性、火力を持つ



サイコミュ搭載型系

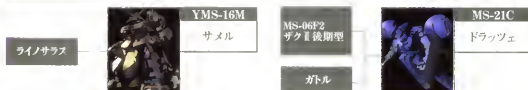
1. 搭載型サイコミュ専用機
2. 攻撃兵器システムの特徴



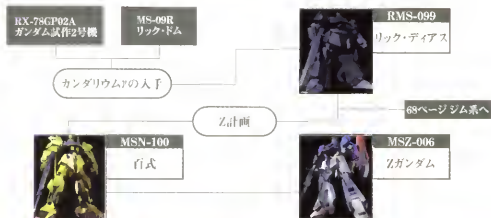
ンオン公国最後のMS開発計画 万能機、
砲戦用など多彩なMSが開発されている



・戦争後、オン残党が独断に製造したMS
サクなどの部品が流用されている



コナミが運用したアナ・イム製MS
全機体が新技術を投入した新世代MSである



可変MS系

変形機構によりMSとMAの両形態に
使い分ける機体・強化人間用の機体が多い



NRX-044

アッシュマー

オーカスタ研究所設立



ORX-005

ギャフラン



NRX-055

バウンド・ドッグ

PMX系

コロコロが木星資源船内で
独自に設計したMSシリーズ



PMX-000

メッサラ



PMX-003

ノ・0



RX-110

ガブスレイ



RX-139

ハンフラビ

サイコガンダム系

ムラサメ研究所製
巨大可変MA

RX-78-1
プロトタイプ
ガンダム

MSN-02
ジオング

ムラサメ研究所設立



MRX-009

サイコガンダム

アクシズ系

アクシズ製のMS群 可変機、サビに搭載など
高い技術力が発揮されている

MAN-08
エルメス

MSN-02
ジオング完成型

MAN-03
ブラウ・プロ

AMX-003

ガザC

カンタリウム7の入手



AMX-004

キュベレイ



AMX-002

ノイエ・シール



AMA-002S

ノイエ・シール II

ガンダム系

地球連邦軍のMS開発計画である「V作戦」において製造された機体。シオン軍のザクと並び、自戦争を代表する機体とされている。

高出力のシャネレーターを搭載することで、MSとして初めてビーム兵器の使用を可能としている。さらに単独での大気圏突入能力を有し、汎用MSとしてはほぼ完成された機体である。後にガンダム Mk II からイターナスによって開発されている。

RX-78-2

ガンダム (ビーム・ライフル)



機動戦士ガンダム

アムロが搭乗した連邦軍主力MS。シオン軍のザクを参考にして製作された。陸上、水中、大気圏、宇宙空間での使用が可能という優れた機体。ビーム兵器を主力武器とする点でも、シオン製MSをはるかに凌駕する。

RX-78-1

プロトタイプガンダム



MSV

アムロが搭乗したRX-78より前に開発されたガンダム「V作戦」の中心となった機体。ブラックモ体のカラーリングで、後の「V」機体とは対照的。武装はノーマルガンダムと同じくビームライフルを扱う。

RX-78-2

ガンダム (ハイパー・バズーカ)



機動戦士ガンダム

ビーム・ライフルに代えて、ハイパーバズーカを装備したガンダム。ハイパーバズーカは火力の高い武器ではあるが、重量がありガンダムの運動性能が落ちる。他の装備はノーマルの状態と変わりがない。

RX-78-3

G-3ガンダム



機動戦士ガンダム (小説版)

小説でアムロが搭乗していた連邦軍の最新鋭MS。モスク・ハン博士が開発したマグネトコーティングの技術で、ガンダムの運動性能をさらに強化した。武装はRX-78と同じく、ビーム・ライフルを使う。

RAG-79-G1

水中型ガンダム



M-NISV

アクア・ジムの性能をアップさせ、水中戦用に改造した。頭部にデュアルアイを使用しているためガンダムの部類に入る。ハーパンガンなど、水中戦を想定した武装を備え、青色で機体カラーリングしてある。

RX-78XX

ガンダム・ビクシー

機動戦士ガンダム
CLOSS DIMENSION 0079

機密に開発されたガンダムタイプのMS。活動範囲は地卜りだったが、運動性能に優れた機体だった。主力武器は白兵戦用のビクシー。全3機が製作され、2号機はアムロ用に配備される予定だった。

FA-78-1

フルアーマーガンダム



MSV

大戦末期に計画されたガンダムの武装を強化したバージョン。ガンダムに比べて実弾兵器の武装に優れている。しかしアクア・ジムの開発が大幅に遅れたことにより、計画は中断、実戦に投入されなかった。

FA-78-2

ヘビーガンダム

MS-X



フルアーマーガンダムと同じく、RX 78増加ウエボシシステム計画によってガンダムの武装を増加したタイプ。こちらはビーム兵器が主力となっている。ゴグルタイプのカメラアイが外見的特徴である。

バストライナー

MS-X



「RX 78増加ウエボシシステム計画」によって生産されたMS用移動砲座。MSが操る移動式の砲塔であり、戦車と同じように使用される。ちょうどジオン軍のザクが操るスクウェアと同じタイプの兵器である。

RX-79(G)

陸戦型ガンダム(マシンガン)

機動戦士ガンダム
第08MS小隊

3体のガンダムを製作する途上で、審査から外れたパーツを元にして作られた連邦初の機械化大隊・コジマ隊の主力MSとなる。陸上用バックパックの装備により、空からの奇襲攻撃も可能。

RX-79(G)

陸戦型ガンダム(ロケットランチャー)

機動戦士ガンダム
第08MS小隊

先行量産型ガンダムがロケットランチャーを装備したタイプ。ロケットランチャーはジャングル戦用に開発されたため機体が短い。ビームサーベルも装備しているのので、あらゆる戦局に柔軟な対応ができる。

RX-79(G)

陸戦型ガンダム(ロングライフル)

機動戦士ガンダム
第08MS小隊

先行量産型ガンダムがロングライフルを装備したタイプ。主に前衛をバックアップする機体が装備している。ロングライフルは数種の弾頭を装備できる。これは他のガンダムには見られない装備だ。

RX-79(G)Ez-8

ガンダムEz8

機動戦士ガンダム
第08MS小隊

大破した先行量産型ガンダムを改造して作られた機体。胸の部分にはザクのシールドを使用し、ハルコン砲も取り付けられている。頭のV字アンテナもない急造のガンダムであるが、耐久力と運動性能に優れている。

RX-78NT-1

ガンダムNT-1

機動戦士ガンダム0080
ポケットの中の戦争

アムロのために開発されたニュータイプ専用のガンダム。マグネートコーティングの技術を導入している。しかし、ジオン軍との戦闘で小破、実際にアムロが搭乗することとはなかった。

RX-78NT-1-FA

ガンダムNT-1-FA

機動戦士ガンダム0080
ポケットの中の戦争

アレックスの機密を保持するために全身をチョバムアーマーで覆ったタイプ。重装備による運動力低下を防ぐため、追加装甲にはスラスタを取り付けてある。ただし、ガトリング砲は使用できない。

RX-78-T

ガンダム・ティターンズ



ギレンの野望

ゲームのオリジナル機体
ティターンズが所有するガン
ダムMk-IIと同じようにボディ
が青と黒で塗装されている。基
本的な性能と装備
は連邦軍のガンダムと大差
なく、ビームサーベルとビー
ム・ライフルを使用する

RX-178-X0

ガンダムMk-II (試作号機)



ジオンの系譜

ティターンズが極秘に
開発したガンダムMk-II
の試作機。ゲームでのオ
リジナル機体だ。これも
青と黒のティターンズカ
ラーで塗装されている
通常のガンダムMk-IIと
は外見と装備が異なる

RX-178

ガンダムMk-II (ビーム・ライフル)



機動戦士Zガンダム

ティターンズが独自に開発
した試作機。3機を試作し、
カミーユを始めとした多くの
パイロットが搭乗した。ガン
ダムと同様にビームサー
ベルやビーム・ライフルを扱
うグリアス戦役以降も使用
された。

RX-178

ガンダムMk-II (ハイパー・バズーカ)



機動戦士Zガンダム

ガンダムMk-IIの主力
武器をビーム・ライフルか
らハイパーバズーカに変
更したタイプ。ハイパー
バズーカは腰にもセッ
トすることが可能。さらに
弾薬は用金によって拡散
弾にすることもできた

RX-178+FXA-05D

Mk-II・Gディフェンサー



機動戦士Zガンダム

Zと同時期にグラナダで
開発されたGディフェンサー
と、ガンダムMk-IIが合体す
るとスーパーガンダムにな
る。強烈なロングビームラ
イフルによる攻撃で、MSを支
援。カフが搭乗したが、ヤ
ザンに撃墜された

RX-178

ガンダムMk-II (ビーム・ライフル)・ティターンズ



機動戦士Zガンダム

公式では一年戦争後初
めて開発されたガンダム
戦力としてではなく、スペ
ースノイドへの回撃として作
られたという説もある。白
を基調としたカラーリングは
エウゴに奪取されてから
のもの。

RX-178

ガンダムMk-II (ハイパー・バズーカ)・ティターンズ



機動戦士Zガンダム

武装に関してはRX-78
を踏襲したものとな
っている。ティターンズ機で
も2種類の弾頭が選択
できたようである。しかし、
この装備を使用する前
に開発された3機すべてが
エウゴの手に渡った

RX-178+FXA-05D

Mk-II・ディフェンサー・ティターンズ



ジオンの系譜

グリアス戦争における
MSの爆発的な進化の前
にはMk-IIもすでに過去の
ものになるうとしていた。し
かし、Gディフェンサーとの
合体により、航続距離の延
長、火力の増加がなされる
こととなった。

RX-78/C.A

ガンダム(キャスバル専用機)



ギレンの野望

連邦軍のガンダムを赤く塗装したゲームオリジナルの機体。いわゆるニュータイプであるシャア・キャスバル専用機。基本的な装備はガンダムと変わらないが、性能が格段に向上していると言われる。

RX-77

ガンキャノン(キャノン砲)



機動戦士ガンダム

中距離支援型MS。ガンダムと同じくコア・ブロックを内蔵。両肩に240mmキャノンを装備し、ビームライフルも装備可能。ガンダムを凌ぐ兵器と重厚な装甲が特徴。その用途から格闘兵器は装備されていない。

RX-77.3

ガンキャノン重装型



MSV

ガンキャノンの装甲と装備をパワーアップさせたタイプ。両肩にはビーム兵器を装備し、より強力な攻撃が可能になった。大型のバックパックの推力より、短距離のジャンプならば可能となっている。

RX-77D

ガンキャノン量産型



機動戦士ガンダム0080
ポケットの中の戦争

ガンキャノンの簡易量産機。試作機が1体スカーレット隊に配備されたが、ケンパラーによって破壊された。低コスト化を実現するために、ビーム兵器をマシンガンなどの実弾兵器に変更してある。

GUNCANNON SERIES

ガンキャノン系

V作戦」に開発されたRXシリーズのひとつ。中距離支援型のMS。運動性や機動力ではガンダムに劣るが、防御力に秀でている。開発当初は携帯兵器を装備する予定はなかったが、ジェネレーターに余裕があったことから急遽、ビームライフルが装備されることとなった。支援機として優秀な成果を取めた本機は、少数だが量産され、一年戦争終結後もいくつかの派生機を生み出している。

RX-77

ガンキャノンスプレミサイルランチャー



機動戦士ガンダム

ガンキャノンは両肩の240mmキャノンを、スプレミサイルランチャーへ変更することが可能。しかしこの接近戦型のオプションウエポンは実戦では使用されなかった。他の装備は通常時と変わらない。

RX-77.4

ガンキャノンⅡ



MSV

ガンキャノン重装型にさらに改良を加えたタイプ。運動性能など能力全般が向上している。ビームキャノンが1基に減っているが、左肩に照準が付けられ、射撃の精度が増した。宇宙での戦闘にも対応している。

GUNTANK SERIES

ガンタンク系

長距離支援用MSとして開発されたMS「V作戦」で開発された機体の中で最も初期に開発されている。そのため、歩行システムの開発が間に合わずキャタピラを使用している。MSというより戦車に近いフォルムを持つのはこのためである。他のRXシリーズ同様、コア・プロシスシステムを採用しており、操縦系の統一を図っている。量産機である「量産型ガンタンク」と発展機である「ガンタンクII」が開発された。

RX-75

ガンタンク



機動戦士ガンダム

初期に開発された長距離支援用のMS。キャタピラを使った旧式の駆動形態ではあるが、宇宙でも活動することが可能。両肩に180mmキャノン、両輪にボムミサイルを装備している。

RX-75

量産型ガンタンク

機動戦士ガンダム
第08MS小队

ホワイトベース隊に配備されたガンタンクを改良し、自動給弾装置を装備した量産性に優れ、ガンキャノンと同様に、遠距離での砲撃戦で味方を支援する120mmキャノンとガンランチャーを装備している。

RWV-1

ガンタンクII



MSV

ガンタンクをベースにして作られた量産型の機体MSというより移動砲台に近い。量産型ガンタンクと比べて、ロケットランチャーやミサイルランチャーなど、実弾装備の点で様々な強化が行われている。

GMS SERIES

ジム系

地球連邦軍の量産型MS、試作機であるRXシリーズから得られたデータをもとに開発されているが、生産性を優先したため、装甲材質や武装の面で劣っている。中距離支援用のジム・キャノンや水中用のアクア・ジムなど、数々のバリエーションを生み出した機体である。ガンダム同様、戦後も改良、開発が続けられ、ジムIIやジム・カスタム、パワード・シムなど高性能な機体が作られている。

RGM-79

ジム



機動戦士ガンダム

連邦軍初の量産型MSで汎用性に優れる。ガンダムをベースに設計され、後に多様なバリエーションを生んだ。低コストのためガンダムより装備は劣るが、グループ行動とボールの支援で多大な戦果を挙げた。

RGM-79(G)

陸戦型ジム(マシンガン)

機動戦士ガンダム
第08MS小队

陸戦型ガンダムと同時期に生産された先行量産機。陸戦用タイプのシムで、東南アジアやオデッサ作戦などに投入された。普通のシムより耐久力がある。通常はSマシンガンとビームサーベルを主力武器とする。

RGM-79(G)

陸戦型ジム(ロケットランチャー)

機動戦士ガンダム
第08MS小队

陸戦型ジムのバリエーション。Sマシンガンに代えてロケットランチャーを主力武器にした。ロケットランチャーによる遠距離攻撃に優れるが、重装備のため移動力が犠牲になっている。

RGM-79L

ジム・ライトアーマー



MSV

バワード・シム用に運動性能を重視して開発されたタイプ。装備と装甲をできるだけ軽量化し、機動能力を最大限に引き出した。その反面、耐久力に不安が残ることになった。熟練したパイロット向けのMS。

RAG-79

アクア・ジム



MSV

連邦軍では希少な水中戦用MS。魚雷を始めとした水中戦用の装備が充実している。ノーマルのジムより耐久性能があるが、ジオン軍の誇る水中用MSよりは劣る。水中で発見されにくいように青色で塗装されている。

RGM-79SC

ジム・スナイパーカスタム



機動戦士ガンダム
第08MS小隊

狙撃を目的として生産されたジムのハリエーションで、遠距離戦を重視した後方支援型のMS。白兵戦用のビーム・サーベルを取り外し、代わりに狙撃用ライフルを装備する。狙撃のためのセンサーも強化された。

RGM-79SP II

ジム・スナイパー II



機動戦士ガンダム0080
ポケットの中の戦争

ジム・スナイパーカスタムの発展型。ジムの総合性能を向上し、狙撃用の照準ハイザーを取り付け、精度の高い狙撃が可能になった。こちらは白兵戦用の装備も所持。スカーレット隊に2機配備された。

RGC-80

ジム・キャノン



MSV
機動戦士Zガンダム

ジムとガンキャノンを組み合わせたようなタイプの量産型MS。生産効率を高めるために部品の60%をジムと共用しているが、その戦闘力は高い。少数が「星一号作戦」に投入されたらしい。

RGC-83

ジム・キャノン II



機動戦士ガンダム0083
スターダストメモリー

ジム・キャノンを改良した中距離支援機型のMS。キースやアデルの専用機。2基のビーム・キャノンを備え、装備は格段に強化された。また、装甲にはチタン・セラミックスを採用し、耐久力にも優れる。

RGM-79D

ジム寒冷地仕様



機動戦士ガンダム0080
ポケットの中の戦争

ジムのハリエーションのひとつ。装備は変わっていないが、ジム・コマンドをベースに寒冷地用に改良されている。連邦軍の北極基地に配備されたが、サイクロプス隊の奇襲を受けて多大な被害を受けた。

RGM-79G

ジム・コマンド地上戦仕様



機動戦士ガンダム0080
ポケットの中の戦争

コロニーでの戦闘を想定した地上戦仕様のジム。連邦軍のスカーレット部隊に3機が配備された。ビーム・ガンは装備から外し、プルバクのマシンガンも主力武器とした。シールドも新型のものを採用している。

RGM-79GS

ジム・コマンド^{宇宙戦仕様}



機動戦士ガンダム0080
ポケットの中の戦争

宇宙空間での戦闘を想定した宇宙戦仕様のジム。ジム・コマンドの標準装備に加えて、宇宙戦用のビーム・ガン装備。攻撃力の面で強化されている。地上戦仕様と違ってこちらはホワイトのカラリング。

RGM-79C

ジム改



機動戦士ガンダム0083
スターダストメモリー

ジム・コマンドをベースに様々な改良を施した機体で、U.C.0083ころの連邦軍に配備されていた。ハニングやカレント中尉が搭乗した砂漠仕様のバリエーションも存在する。実弾兵器のマシンガン装備

RGM-79

パワード・ジム



機動戦士ガンダム0083
スターダストメモリー

オレンジ色の機体が印象的なジムの強化タイプ。特に運動性能のアップに重点が置かれて開発された。シャープ力はジムを凌ぐ。また、ジムとしては唯一ハイパー・バズーカを装備し、攻撃力の面でも優れる

RGM-79N

ジム・カスタム



機動戦士ガンダム0083
スターダストメモリー

ジムのバリエーションの中では最もジムらしくない外観。NT 1の設計を参考にして開発された。装備は他のジムと大差はないが、チタン・セラミックの装甲は非常に厚い。モンシアやパイロットが搭乗した

RGM-79Q

ジム・クワエル



機動戦士ガンダム0083
スターダストメモリー

ジム・カスタムを改良した機体。ティターンズ専用の機体で、コロニーで発生する暴動や反乱軍などの鎮圧を目的に作られた。ボディは青と黒のティターンズカラーで塗装。装備はジム・カスタムと同じ

RGM-79R

ジムⅡ (連邦仕様)



機動戦士Zガンダム

一年戦争で量産されたジムの発展型。性能と装備が向上している。デザインは旧ジムのものを踏襲している。本機はエゥーゴ、ティターンズの両方で使用され、エゥーゴは緑、ティターンズは赤の機体色を採用していた。

RMS-179

ジムⅡ (ティターンズ仕様)



機動戦士Zガンダム

グリプス戦役初期に使用されたジムⅡのティターンズ仕様。連邦軍仕様と区別するために、カラリングが変更してある。もっとも、ティターンズがエリート部隊であるという傲慢な意識の表れともとれるが

MSA-003

ネモ



機動戦士Zガンダム

アナハイム・エレクトロニクスでジムⅡをベースに百式と同時期に生産された。エゥーゴの量産機として使用。次世代のジムとして、他のバリエーションとは一線を画す能力を持っている。

ブルーディスティニー系

EXAMシステムを搭載した機体の総称。EXAMシステムとはジオン軍から亡命したクルスト博士が開発したシステムで、ニュータイプと同等の能力を持つコンピューターのことである。このシステムを搭載した機体は地上用と宇宙用の2機があったが、1号機はシオン軍のEXAM搭載機であるイフリートとの戦闘で大破、続く2号機はジオン軍に強奪されている。奪われた2号機奪還のため、急遽、3号機が建造されている。

RX-79BD-2 ブルーディスティニー2号機



機動戦士ガンダム外伝

大破した1号機の後継となるはずだったEXAMシステム搭載の2号機。RX-79Gの兄弟機でもある。地上用の1号機とは異なり、宇宙でのデータを取集するために宇宙仕様となっている。武装は1号機と同様だ。

RX-79BD-1 ブルーディスティニー1号機



機動戦士ガンダム外伝

ジムの前とガンダムの体を持つ青い機体。一般のパイロットの操縦性能をニュータイプレベルに高めるEXAMシステムを搭載し、運動性能に優れる。ビーム・サーベル以外は実弾兵器を装備する。

RX-79BD-2 ブルーディスティニー2号機 ニムバス専用機



機動戦士ガンダム外伝

イフリート改を失ったニムバスが連邦軍から奪取した2号機。両肩と腹部が赤い色になっている。武装は1号機と同様だが、リミッターの装置がなく、持てる能力を限界まで発揮できる。

RX-79BD-3 ブルーディスティニー3号機



機動戦士ガンダム外伝

EXAMシステムを搭載した試作機の最終形態。奪われた2号機を奪還するため、余剰パーツから生み出された。武装は他のブルーディスティニーと同じだが、宇宙空間で高い機動性能を発揮する。

RX-78GP01 ガンダム試作1号機



機動戦士ガンダム0083 スターダストメモリー

アナハイム・エレクトロニクスが開発し、トリントン基地でテストが予定されていた試作機。コードネームはゼフィランサス。バルカン砲と、ビームライフルを装備する。パーツの換装で宇宙仕様にもなる。

GPシリーズ 試作ガンダム系列

U.C.0081に、地球連邦軍がアナハイム・エレクトロニクスに依頼する形で開発が進められた。この計画で3機のガンダムタイプMSが開発され、GP01とGP02Aが重力下での運用試験のため地球に運ばれている。残るGP03は拠点防衛用として開発されたので、テストはラビアンローズで行われた。これらはU.C.0083の「デラズ紛争」に関与したため、翌年登録を抹消されている。

RX-78GP01Fb ガンダム試作1号機・フルバーニア



機動戦士ガンダム0083 スターダストメモリー

大破したガンダム試作1号機をアナハイムで改良した機体。胸部にバーニアを付けた宇宙仕様で、運動性能が格段に向上した。武装はガンダム試作1号機のもので流用、ガンダム試作2号機との戦いで消失した。

RX-78GP02A

ガンダム試作2号機



機動戦士ガンダム0083
スターダストメモリー

地球に輸送された試作型ガンダムの2号機。核を装備するアトミックバズーカを装備しているのが最大の特徴。核の高熱に耐えるための重装甲が施されている「星の同作戦」進行のためのガトーが奪った

RX-78GP03S

ガンダム試作3号機・ステイメン



機動戦士ガンダム0083
スターダストメモリー

デンドロビウムの中心となるMS。単体ではビームサーベルとフォールディングバズーカを装備し、オーキスの補給にも単独で戦える。背中のテールハイダーはオーキスとのロックオンシステムを兼ねたもの

RX-78GP03

ガンダム試作3号機



機動戦士ガンダム0083
スターダストメモリー

連邦軍初のMAで、その大きさは全MA中でも最大級。ステイメンとアームドバズーカ・オーキスとの合体で、この状態となる。メガヒーム砲など強力な武装を誇り、フィールドにより防御能力を向上させている

RX-78GP04G

ガンダム試作4号機



0083 MSV

アナハイム・エレクトロニクスがデラーズ・フリートへ送った試作機。裏取り引きによりガーベラ・テトラに偽装されてシーマの手に渡った。試作機の中では唯ロングビームライフルを装備。遠距離戦に優れる。

AGX-04

ガーベラテトラ



機動戦士ガンダム0083
スターダストメモリー

シーマが搭乗したガンダム試作4号機。アナハイム・エレクトロニクスが裏取り引きでシーマに譲渡したものである。ゲルググと同等の装備を受け継ぎ、フルハーニアに匹敵するほどの運動性能を持っている

AGX-04

ガーベラテトラ改



0083 MSV

ガンダム試作4号機であるガーベラテトラに改良を施した高性能MS。ビームマシンガンとビームサーベルが主力武器。有能なパイロットが搭乗すれば、戦場で目覚ましい活躍を見せるだろう

「ガンダム開発計画の遺産」

■歴史から消されたガンダム

U.C.0081に開始された「ガンダム開発計画」では、3機のガンダムタイプMSが建造されたという。しかし、連邦軍の制式採用MSの中に、その名を見つけだすことはできない。



▲このプロトタイプは資料がアナハイム・エレクトロニクスに保管されている。これはその一部である。



▲核攻撃を目的としたガンダムタイプも存在したというが、詳細は不明である。

ボール系

地球連邦軍が量産型MSを開発するまでのあいだ、急場しのぎで開発したものが、このボールである。機体のベースとなったものは作業用ボドで、それに120mmキャノンと追加装甲を施しただけであった。当然、パイロットの評判は芳しくなかった。しかし、生産コストの安価さから、連邦軍は大量生産を決定。宇宙での拠点防衛などに用いられた。またシムカ配備されるようになると、支援機として運用され

RB-79K

先行量産型ボール

機動戦士ガンダム
第08MS小隊



連邦軍の宇宙輸送船に搭載されていた作業用ボドを改造した機体。低コストで作れるので、後の量産型ボールの元となった。180mmキャノンしか装備していないため、武装の面で不安が残る。

RB-79

ボール

機動戦士ガンダム



宇宙作業用のボドを改造し、武器を強化した量産型のボール。後方支援機としてソロモンやア・バオア・クーでの戦いで人量投入された。ガンタックの主砲と同じ180mmキャノンを装備している。

Gパーツ系

これらメカニクスはRX-78ガンダムの追加装甲および、航続距離の延長を目的として開発されたものである。ガンダムのAパーツとBパーツ、コア・ファイターとの組み合わせで、運用目的の異なるいくつかの形態をとることができた。武装面でも大口径ビーム砲など、航空機をはるかに凌駕するものが装備されていた。しかし戦場が宇宙へ移行するにつれ、ガンダムの汎用性を損なうということで使用されなくなっていく。

Gファイター

機動戦士ガンダム



「Gパーツ」と呼称されるガンダム用支援パーツのひとつ。2基のビーム砲を備え、戦闘機としての性能も高い。通常時は単体で行動するが、ガンダムの上半身との合体も可能で、様々な戦闘形態をとる。

Gアーマー

機動戦士ガンダム



ガンダムを長距離移動させるために開発されたGパーツの完全形態。各Gパーツとガンダムが合体し、要塞さながらの陣容を誇る。Gファイター部分のビーム砲が主力武器。セイラが操縦した。

Gスカイ

機動戦士ガンダム



Gパーツ後部(Bパーツ)とコア・ファイターが合体、中央部にはガンダムの下半身(Bパーツ)が収納されている。ガンダムの上半身を取り除くとGスカイ・イジーという支援型の戦闘機になる。

Gブル

機動戦士ガンダム



Gパーツ前部(Aパーツ)とコア・ファイターが合体し、ガンダムの上半身(Aパーツ)を収納したタイプ。移動時はキャタピラを使用。Gブルからコア・ファイターを切り離すと、Gブル・イジーとなる。

ガンダムMAモード

機動戦士ガンダム



Gファイターとガンダム上半身が合体したMAタイプ。ガンダムの宇宙での機動性能を格段に向上させたが、サクレロ戦ではそれほど戦果は挙げられなかった。ガンダムはビーム・ライフルの通常装備で戦う。

FXA-05D

Gディフェンサー

機動戦士Zガンダム



ガンダムMk-II用の強化パーツ。単体では戦闘機となる。Mk-IIと合体することでスーパーガンダムになる。またガンダムMk-IIの輸送形態(Gフライヤー)にもなる。カフが搭乗したがヤザンに撃墜された。

車両系

戦前は地上戦の要であったが、MSの登場により徐々に戦場から姿を消していった。しかし、ビッグ・トレーは移動司令部として使用され、大規模な作戦では必ずと言っていいほどの姿を見ることができた。ホバートラックは、バッシュ・ソナーにより敵を発見するというサポート任務のために開発され、地上では各MS小隊ごとに1台のホバートラックを随伴させることになっていた。

61式戦車

機動戦士ガンダム



年戦争以前に制式化された連邦軍の主力戦車。150mm砲2門を装備し、強力な火力を誇ったが、MSの登場で過去の兵器となった。ジムの開発までは連邦地上軍の中核をなす兵器として運用された。

ホバートラック

機動戦士ガンダム 第08MS小隊



MS小隊に随伴する支援用ホバークラウドでオアシスとも呼ばれる。ミノフスキー粒子散布下であっても地中用ソナーを使用して情報収集が可能である。機銃を装備し、ある程度の戦闘能力も有する。

ビッグ・トレー

機動戦士ガンダム



連邦軍の巨大陸上軍艦。情報管理施設や、高速移動能力による移動式司令部としての性能が重視されている。巨体ゆえに投入できる地域が限られてしまうのが欠点といえる。

航空系

車両とならび地球連邦軍の主要戦力である。機体の種類も豊富で、MSが主戦力となってもしばらくは、対航空機戦を主眼に置いた機体が見られる。しかし、MS同士の戦闘が行われるようになると、戦闘機ではなく敵陣地への爆撃や前線などへの物資輸送を目的とした機体が生産、使用されるようになった。輸送機であるミデアは唯一、年戦争を通して各地で使用されていた機体である。

FF-X II

コア・ファイター II

機動戦士ガンダム0083 スターダストメモリー



ガンダム試作1号機のコクピットとメインスラスター部が変形した戦闘機。使用地域を大気圏内に限定したことで長い航続能力を獲得している。両翼下のビームガンにより、対MS戦闘も可能である。

ファンファン

機動戦士ガンダム



機体の左右にローターを持つ独特な形状の攻撃機。ローターが剥き出しでないため、ジャブロー内などの天井がある空間でも使用できる。武装はミサイルのみであるため、戦闘には向いていない。

TINコード

MSV



連邦軍の大気圏内専用戦闘機。上昇能力に優れているため高々度迎撃に用いられ、ガウなどの高空目標に威力を発揮する。だが、用途が狭かったために徐々に戦場から姿を消していった。

フライマンタ

機動戦士ガンダム



対地から対空攻撃までもこなす連邦軍の攻撃機。特に対地攻撃能力に秀でており、一年戦争序盤の地上戦では、連邦軍の数少ない対MS戦力のひとつとして活躍したことは間違いない。

デブロッグ

機動戦士ガンダム



連邦軍の重爆撃機。機動性は低いが、広いペイロードを持つため大量の爆弾を搭載可能である。ミノフスキー粒子散布下では精密爆撃は不可能であるため、絨毯爆撃によりジオン軍を圧倒した。

ドン・エスカルゴ

機動戦士ガンダム



連邦軍の対潜作戦の中核をなした対潜警戒機。その対潜性能により、潜水艦のみならず水陸両用MSまでも発見、撃破した。地上配備だけでなく空母にも搭載されていたという記録もある。

ディッシュュ

機動戦士ガンダム



大気圏内で使用される連邦地上軍の高速連絡機。情報収集処理能力に優れ生存率も高いため、早期警戒機としても活躍した。レビル将軍を無事にベルファストに運んだことでも証明されている。

ミデア

機動戦士ガンダム



地球連邦の輸送機で機体中央部に着脱式コンテナを搭載する。6発のジェットエンジンと5機のローターにより短距離離着陸能力を持ち、あらゆる場所への物資輸送に用いられた。

ミデア改

機動戦士ガンダム0080
ポケットの中の戦争

ミデアの改修型。ローターが廃止されコンテナも固定式になっているため多用途にはなくなっている。これは連邦が地上をほぼ制圧した一年戦争後期に開発されたためと思われる。



宇宙系

戦場の主流がMSとなつてから、宙戦闘機は長期間使用されていた。そのほか、大気圏内外で使用可能であり、中でも「セイバーフィッシュ」は当時ではMSに対抗できる唯一の戦闘機として知られていた。またRXシリーズのコア・ブロックとなるコア・ファイターも戦闘機として使用可能で、一年戦争後期には火力増強と機動性を増すため、ブースターを装備して戦線に投入されている。

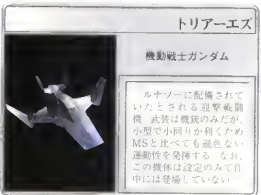


FF-X II-Fb

コア・ファイター II-Fb

機動戦士ガンダム0083
STARDUST MEMORY

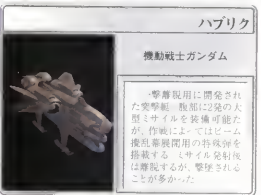
ガンダム試作1号機の宇宙用への機装に伴ってコアファイターⅡも改修されている。フルバーニアンのスラスター・ホットがそのまま搭載されているため、かなりの推進力を持つ。



トリアーエズ

機動戦士ガンダム

ルナツーに配備されていたとされる迎撃戦闘機。武装は機銃のみだが、小型で小回りが利くためMSと比べても遜色ない運動性を発揮する。なお、この機体は設定のみで作中には登場していない。



ハプリク

機動戦士ガンダム

撃墜用に開発された突撃艇。腹部に2発の大型ミサイルを装備可能だが、作戦によってはビーム攪乱幕展開用の特殊弾を搭載する。ミサイル発射後は離脱するが、撃墜されることが多かった。

FF-X7

コア・ファイター

機動戦士ガンダム



V作戦で開発されたRX系MSの脱出システム用戦闘機。機銃やミサイルを搭載し、垂直離着陸能力も持っていることから、ホワイトベース隊では戦闘から偵察任務まで様々な用途に使用された。

FF-X7Bst

コア・ブースター

機動戦士ガンダム



コアファイターにブースターを装備した汎用戦闘機。ブースター部に装備されたメガ粒子砲は、トムなどの重MSも一撃で破壊できる。大気圏内外を問わずに使用できる運用効率の高い機体である。



セイバーフィッシュ

機動戦士ガンダム

エンジンを換装することで大気圏内外の両面で運用できる連邦の多目的戦闘機。多くのスラスターによる大推力と12機のロケット弾発射機による高い攻撃力を両立させている秀作である。

[隠れた傑作機]

■ふたつの役割を持つ高性能機

コア・ファイターはコア・ブロックシステムとしての印象が強いが、戦闘機としても優秀で、ホワイトベース隊でも運用された。



▲「コア・ファイター」は従来の戦闘機を元に開発され、その性能を上回る。

BATTLE SHIP SERIES

艦船系

地球連邦軍の艦船は、大きく分けて「ヘラン」と「戦艦タイプ」とヘガサス級強襲揚陸艦のふたつのタイプがある。前者はルウム戦役以前と以後で兵装が大きく異なり、特にルウム戦役後に製造されたものは、MS搭載能力が付け加されている。そして後者はV作戦によって開発された新造艦で、MSの搭載能力はもとより、単機で敵勢力下に進入、作戦行動がとれるという強襲揚陸艦として運用された。

サラミス

機動戦士ガンダム



連邦宇宙艦隊の主力をなす巡洋艦。メガ粒子砲やミサイルランチャーなどで武装しており攻撃力は高いが、運用の柔軟性に乏しかった。艦体下部に大気圏突入用の小型艇を持っている。

サラミス後期生産型

機動戦士ガンダム



MS搭載能力を付加されたサラミス級巡洋艦の改造型。艦単体での能力は変化していないが、総合作戦能力は向上している。ジャブローで生産され、ブースターを装備して宇宙に上げられた。

サラミス改

機動戦士ガンダム0083
スターダストメモリー

一年戦争後に改造されたサラミス級巡洋艦のハリエーション。MSの運用を無視し、攻撃力の強化に重点が置かれたタイプ。大艦巨砲主義を信奉する反MS派将校の影響が見受けられる。

マゼラン

機動戦士ガンダム



宇宙艦隊の旗艦に用いられることが多い連邦軍の宇宙戦艦。ジオンのグワシンと同等の搭載能力を誇るが、MS搭載能力を持たないという欠点を持つ。同盟艦としてアナウンセが知られる。

マゼラン後期生産型

機動戦士ガンダム



ピンソン計画で建造されたMS搭載能力を持ったマゼラン級戦艦。サラミス同様に搭載能力以外は変化していないが、MSとの共同作戦が可能になったため、有用な戦力となっている。

マゼラン改

機動戦士ガンダム0083
スターダストメモリー

火力と防御力のみを強化したマゼランの改修艦。U.C.0080以後に生産された型だが、MSの搭載ができない時代後れの代物である。このような艦の存在に連邦軍の旧態依然とした体質が見られる。

ヘガサス

機動戦士ガンダム



V作戦においてMSの運用を前提に開発された強襲揚陸艦。MSの搭載はもとより、単体での大気圏突入離陸もこなす。ヘガサス級の「番艦」であるが、就航はホワイトバスの後になった。

ホワイトベース

機動戦士ガンダム



ベガス級強襲揚陸艦の各艦で、連邦で初めてMS運用を目的に建造された。サイド7から、バオ・ア・クー戦まで就航し、様々な伝説を生み出した艦体両側面のメガ粒子砲は後に換装された。

グレイファントム

機動戦士ガンダム0080 ポケットの中の戦争



一年戦争後期に生産されたベガス級強襲揚陸艦の改修型。MS部隊スカーレット隊の母艦として運用され、U.C.0079の12月にはガンダムNTに受領のためサイド6に入港している。

アルピオン

機動戦士ガンダム0083 スターダストメモリー



U.C.0083年に就航したベガス級強襲揚陸艦。ガンダム開発計画で開発された試作型ガンダムの運用のために作られた新たなホワイトベース型の建造に、軍の期待の高さがうかがわれる。

パーミンガム

機動戦士ガンダム0083 スターダストメモリー



連邦宇宙艦隊の旗艦として建造された大型戦艦。連邦最強の戦艦とされたが、コンバットウの観艦式でデラズ・フリートの核攻撃により撃沈。ティターンズのドゴス・ギアの原型ともいわれる。

コロンプス

機動戦士ガンダム



マゼランやサラミスと同時期に制式化された連邦軍の宇宙専用輸送艦。戦闘能力は有していないが広いペイロードを持つため拡張性があり、一年戦争を通して物資の運搬に活躍した。

コロンプス改

機動戦士ガンダム0083 スターダストメモリー



コロンプス級輸送艦の改造型で、機関部の大型化により戦艦なみの推力を得ている。改修も容易であることから、デラズ紛争時にはソーラ・システムIIのコントロール艦として使用された。

U級潜水艦

ギレンの野望



連邦海軍の海中戦力の主力である攻撃型潜水艦。対艦対地攻撃力とMS搭載能力を持ち合わせた画期的な潜水艦だが、ジオの地球侵襲作戦で奪取、改造されユーコン級潜水艦として使用された。

M級潜水艦

ギレンの野望



U級潜水艦をあらゆる点で上回る大型潜水母艦。連邦海軍の中核をなす潜水艦としてキャリフォルニア・ベースで開発されていたが、ジオに接収され、マッド・アングラーとして就航した。

ZAKU SERIES

ザク系

○ン軍が開発した史上初のMS。一年戦争中の連邦、ジオン両軍を通じてもっとも多く生産され、そのバリエーションも多岐に及んでいる。また、単体の兵器としてはほぼ完成しているといわれ、後のMS開発に与えた影響は大きい。

戦後も連邦軍に徴発された機体がテストなどに用いられ、その後継機はU.C.0088まで見ることができる。

MS-05

ザクI (マシンガン)



機動戦士ガンダム

シオン軍初の量産型MS。ルウム戦役で活躍し連邦軍の脅威となった機体。戦争の中期にはもはや旧型機となり、後方支援や輸送機の護衛などを主任務としていた。ザクIIが開発されてからは「旧ザク」と呼称された。

MS-06

ザクI (バズーカ)



機動戦士ガンダム

マシンガンの代わりにザクバズーカを装備したタイプ。攻撃力は増したが、機動力が犠牲になっている。このように状況に応じてウェポンを選択できる汎用性の高さが、MSを発展させるきっかけとなった。

MS-05B

ザクIランバ・ラル専用機

機動戦士ガンダム
ギレンの野望

ランバ・ラル専用にチューンナップしたザク。ボディカラーも青に塗装され、頭部に飾りが付けられている。旧ザクではあるが高視動型を凌ぐ耐久力が特徴。装備はノーマルのザクと変わらない。

MS-05B

ザクI (黒い三連星専用機)



MSV

ガイア、オルテガ、マニユら「黒い三連星」用にチューンナップされた機体。ルウム戦役でレベリ将軍を描えたと機体として名を馳せる。通常のザクと比べて性能は段違い、単なる色違いではない。

MS-06C

ザクII 初期型 (マシンガン)



機動戦士ガンダム

ジオン公国が開戦を決意するきっかけとなった高性能MS。一年戦争中に最も多く生産され、すべてのMSの基本スタイルとなった。汎用性の高さは旧ザク以上。マシンガン以外にも様々な武器を装備できるのが特徴。

MS-06C

ザクII 初期型 (バズーカ)



機動戦士ガンダム

ザクバズーカを装備したタイプ。重装備で運動性能が劣るが、その分攻撃力は高い。ザクバズーカは220mmで開戦当初は核弾頭も装備していた。核兵器を禁止した南極条約以後は通常の弾頭を使用している。

MS-06C

ザクII 初期型 (核バズーカ)



機動戦士ガンダム

ザクの装備のバリエーションのひとつ。南極条約以前の、開戦当初に使用されていたという核装填のザクバズーカを装備。運動性能の高いザクが核武装をしていたのなら、また違った歴史になっていたであろう。

MS-06C

ザクⅡ初期型(シャア専用機)



キレンの野望

赤い彗星と呼ばれるシャアの専用機体。ルウム戦役で5隻の戦艦を沈め、連邦軍にその名を知らしめることになった。ジェネラルの出力が30%向上し、運動性能が高められている。装備はノーマルザクと同じ。

MS-06F

ザクⅡ(マシンガン)



機動戦士ガンダム

初期型から耐核装備を外し、改良を施したタイプ。バランスに優れ、生産性も高い。このタイプがザクの基本となった。マシンガンとヒートホークという標準装備。武器を使わなくてもタクルなどで戦える。

MS-06F

ザクⅡ(バズーカ)



機動戦士ガンダム

ザクⅡの装備を代えたバリエーションのひとつ。マシンガンにバズーカに変えたタイプ。攻撃力は高くなったが、その反動で運動性能は低下した。バズーカは通常弾を装填するものだが、威力は高い。

MS-06F

ザクⅡ(スクイール)



MS-X

拠点防衛用の大型移動砲台「スクイール」で攻撃するタイプ。後方から強力な砲撃でMSを支援する兵器。このスクイールはザクの機動力の向上と火力の増強を図って開発された。しかし、前線での評価は低かったようだ。

MS-06F

ザクⅡ(シン・マツナガ専用機)


 機動戦士ガンダム
キレンの野望

ジオン軍のエースパイロットであるシン・マツナガ用にチューンナップされた機体。頭部と肩の部分が白で塗装されているため、戦場では「白狼」と呼ばれた。連邦軍パイロットにとっては畏怖の対象となった。

MS-06F

ザクⅡ(ジョニー・ライデン専用機)


 機動戦士ガンダム
キレンの野望

ルウム戦役で一躍有名になったジョニー・ライデンの専用機体。シャアと同じ赤いボディカラーだが、ショルダーストライクの部分が黄色になっている。装備はノーマルのザクと変わらないが、運動性能が高い。

MS-06J

ザクⅡ陸戦型(マシンガン)



機動戦士ガンダム

宇宙空間で活躍していたザクⅡを地上戦用に改良した機体。アホジモーターなど地上に不必要な部品は取り除き、武装も一新した。なお砂漠戦用のサウデザートタイプはこの機体からベースになっている。

MS-06J

ザクⅡ陸戦型(バズーカ)



機動戦士ガンダム

陸戦用ザクがバズーカを装備したタイプ。マシンガン装備に比べて運動性能が劣る。ザクⅡとは違いバズーカやマシンガンの他に3連ミサイルランチャーやクワッサーなど地上で有効な武器を装備してある。

MS-06J

ザクⅡ陸戦型「マゼラ・トップ砲」



機動戦士ガンダム

陸戦用ザクがマゼラ・トップ砲を備えたタイプ。マゼラ・トップ砲は戦車であるマゼラ・トップの主砲をMS用に改造したもので、急造品ではあるが高い威力を誇る汎用性の高いザクならではの兵器といえるだろう。

MS-06S

ザクⅡ指揮官用「マシンガン」



機動戦士ガンダム

ザクⅡをベースに指揮官用として改良を加えた機体。ジェネレーター出力が30%アップしており、より俊敏な動きが可能になった。攻撃能力も向上している。しかし、新型のグフには性能の面で劣る。

MS-06S

ザクⅡ指揮官用「バズーカ」



機動戦士ガンダム

指揮官用のザクⅡが武装をマシンガンから、バズーカに変更したタイプ。攻撃力は高いが、その反面、運動性能が低下している。通常のザクと識別するため、頭部に飾り棒が付けられている。

MS-06S

ザクⅡ指揮官用「シャア専用機」



機動戦士ガンダム

ザクⅡと同じボディを赤く塗装したシャア専用の機体。ホワイトベース襲撃の際にも使われ、ガンダムと死闘を繰り広げた。やはりジェネレーターが強化されていて運動性能がアップしている。

MS-06S

ザクⅡ指揮官用「ドズル・ザビ専用機」



MSV

シオン軍の宇宙攻撃軍総司令官であるドズル・ザビの専用機。金色の装飾なボディに目を見張るが、性能も格段に向上している。また大型のヒートホークなどドズル専用の武器も備えている。

MS-06S

ザクⅡ指揮官用「ガルマ・ザビ専用機」



MSV

地球方面軍司令ガルマ・ザビの専用機としてチューンナップが施された機体。パーソナルカラーを採用している以外にも頭部にバルカンを追加装備しているが、実戦で使用された記録はなく、機体用だったようだ。

MS-06D

ザク・デザートタイプ



MSV

アフリカの砂漠戦に投入されたザクⅡ陸戦型のバリエーション。114機が生産された。砂漠で活動するための防砂処理が施されているのが特徴。装備の面でも左腕にミサイルランチャーを備え、強化されている。

MS-06K

ザクキャノン



MSV
機動戦士Zガンダム

「V作戦」のガンキャノンに対抗して作った対空砲撃タイプ。広範囲を攻撃するために全周式モノアイを採用。対空用のザクキャノンの他にも、腰に対MS用のビッグガンも備える。ザクⅡの武器も携行可能。

MS-06M

ザク・マリントイプ


 MSV
機動戦士Zガンダム

水中戦用として改造を加えた実験機。しかし地上用に設計されたザクを水中用に改造しても、それなりの成果しか得られなかった。終戦後は連邦の手に渡りマリンハイザックとして使われることになった。

MS-06E

ザク強行偵察型


 MSV
機動戦士Zガンダム

モノアイを巨大化し偵察能力を高めた機体。ミノフスキー粒子によってレーザーが使用できないので、こうした偵察型MSは作戦遂行に貴重な存在だった。基本的に偵察行動だけなので、武装はない。

MS-06V

ザクタンク


 MSV
機動戦士Zガンダム

当初は完全な作業用として作られたザク。戦闘能力をなくしたザクがこの形式にリサイクルされて、一般作業にあたった。しかし後方支援用として、ザクキャノンや3連装マシンガンを装備したタイプもある。

MS-06R1

高機動型ザク(マシンガン)



MSV

バーニアを強化した高機動型のザク。機体の性能は高いが、その分パイロットの脳も問われることになった。背部、スカート、脚部を重点的に改良してある。装備の面ではザクIIと変わらない。

MS-06R1

高機動型ザク(バズーカ)



MSV

高機動型ザクがバズーカを装備したタイプ。マシンガンを装備したタイプと比べて攻撃力は増したが、機体重量が増加した分、運動性能が低下している。高機動という利点が薄れてしまった。

MS-06R1

高機動型ザク(シン・マツナガ専用機)



MSV

ドズルから信頼されているシン・マツナガの専用機。全体的な性能がチューンナップされている。この白い機体を探りソロモン方面で「白銀」の名を馳せた。両肩をスバイクにした機体も存在したという。

MS-06R1A

高機動型ザク改良型(マシンガン)



MSV

高機動型ザクの改良機。燃料をカートリッジ式にしたことで、迅速な燃料補給が可能になった。それ以外の能力は改良前と比べてそれほど進歩は見られない。武装もマシンガンを中心とした標準的なもの。

MS-06R1A

高機動型ザク改良型(バズーカ)



MSV

高機動型ザクがマシンガンに代えてバズーカを装備したタイプ。やはり他のタイプと同様に攻撃力は増加したが、運動性能が低下している。バズーカを使うなら重い三連星専用機の方が通じている。

MS-06R 1A

高機動型ザク改良型 黒い三連星専用機



MSV

高機動型ザクの運動性能をさらに向上させた機体。ガイアたち黒い三連星専用で、機体は黒と紫のパーソナルカラーで塗装されている。武装も黒い三連星を象徴するザクバズーカが採用されている。

MS-06R-2

高機動型ザク後期型 (マシンガン)



MSV

R-1型を改良し、強化したタイプ。燃料を大幅に増加し、装甲も強化してある。リック・ドムと主力MSの座を競ったが、生産性の悪さから敗北。わずかに機体が生産されなかった。武装は他のザクと同じ。

MS-06R 2

高機動型ザク後期型 バズーカ



MSV

高機動型ザク後期型の武装をザクバズーカに代えたタイプ。やはり肝心の機動力が低下してしまうので、ベストチョイスとは言えない装備だ。しかし攻撃面ではマシンガンの比にはならない威力を発揮する。

MS-06R 2

高機動型ザク後期型 ジョニー・ライデン専用機



MSV

たった4体しか生産されなかった高機動型ザク後期型をジョニー・ライデン用にチューンナップした機体。ザクの最高峰ともいえるこの機体にはジョニー・ライデンのような熟練のパイロットが搭乗した。

MS-06RD4

宇宙用高機動試験型ザク

機動戦士ガンダム
第08MS小隊

リック・ドム用の推進機関の実験のために作られたザク。実験機であるので装備は簡易的なものがあるだけだが、機動性、運動性はかなり高いものであった。連邦軍との交戦に巻き込まれ大破した。

MS-06F-Z

ザクⅡ (後期生産型)

機動戦士ガンダム0083
スターダストメモリー

ザクⅡの量産機を改良し、各能力を向上させた後期生産型。アフリカの司令官ノイエン・ビッターが「アルビオン」襲撃に使用した機体でもある。シオン・バドラーズ軍と連邦軍の両方がこの機体を使用した。

MS-06FZ

ザク改

機動戦士ガンダム0080
ポケットの中の戦争

「統合整備計画」の一環としてザクⅡを改良した機体。ザクⅡと比べて格段に性能は向上しているが、戦闘継続時間が短くなってしまった。新型のマシンガンやグレナードを装備し、ザクⅡの最終型といわれる。

RMS-106

ハイザック(マシンガン)・連邦



機動戦士Zガンダム

ジオン軍の誇ったザクシリーズをベースに連邦軍が改良を加えた機体。一年戦争終了後に量産されている。能力的にはゲルググに近いといわれる。ザクマシンガン改やビーム・サーベルなど装備も一新されている。

RMS-106

ハイザック「ビーム・ライフル」連邦



機動戦士Zガンダム

ハイザックの装備をサブマシンガン改に代えてビーム・ライフルにしたもの。今までのザクはマシンガンやバズーカなど実弾兵器をメインに装備していたが、ハイザックからはより強力なビーム兵器を装備し始めた。

RMS-106

ハイザック「マシンガン」ティターンズ



機動戦士Zガンダム

連邦軍の開発したMSはティターンズでも使われることになった。ティターンズが使用するハイザックは緑色にカラーリングされ、目で識別できるようになっている。これはマシンガンを装備したタイプだ。

RMS-106

ハイザック「ビーム・ライフル」ティターンズ



機動戦士Zガンダム

ティターンズのハイザックの装備をサブマシンガン改に代えてビーム・ライフルにしたもの。ビーム・ライフルは高出力の兵器だが、その重量から若干運動性能が低下する。その他の装備は変わらない。

RMS-106CS

ハイザック・カスタム 連邦



オリジナル

ハイザックの改良機。装甲やシールドを強化、背中のハイクハクも機装され運動性能が向上している。命中精度の高いビーム・ランチャーを装備し、遠距離攻撃が可能になった。後方支援機として活躍する。

RMS-106CS

ハイザック・カスタム「ティターンズ」



機動戦士Zガンダム

ティターンズのソラマとカラが搭乗したハイザックサイド2に組みエッグへの攻撃に使用された。その攻撃性能の高さから、俗に「隠れハイザック」と呼ばれていた。装備は連邦軍版と変わらない。

RMS-108

マラサイ



機動戦士Zガンダム

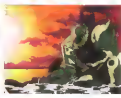
アナハイムエレクトロニクスが開発していたハイザックの後継機。ジェネレーターの出力を強化し、ビーム兵器を強化した。最初はエッグに渡される予定だったが、裏取り引きによってティターンズに渡された。

「一年戦争終結、サクよ何処へ行く」 ■発展するザクタイプMS

一年戦争終結後、地球連邦軍はジオン公国のMSを数多く接収している。その中で最も数が多かったのが「ザク」タイプMSだ。戦争中様々なバリエーションを生み出したザクだけに、連邦軍もその汎用性に注目したのだろう。



▲ 連邦軍に開発された「ある」として、開発したマラサイも評価された。



▲ この「ある」MSの起こす環境問題も深刻になりつつある。

GOLF SERIES

グフ系

MS-01の格闘戦を考へて開発されたMS「ザク」に見られなかった固定兵装が追加され、攻撃力が増強されている。しかし、MS本来の汎用性が損なわれている。それを解消するために「グフ改良型」が開発されたが、制式採用されていない。

ザクと同程度の戦闘継続時間しか有さなかったため、生産台数も少なく、後に開発されるドムに押されるように戦場から姿を消していった。

MS-07A

グフA型 (先行量産型)

機動戦士ガンダム



グフの先行量産タイプ。ヒートロッドや5連装75mm機関砲が間に合わなかったため、ヒートホークなどザクの装備を代用している。そのためグフ本来の白兵戦をこなせないのが欠点と言える。

MS-07B

グフB型 (ノーマル)

機動戦士ガンダム



ザクをベースに白兵戦を想定して開発された陸戦用MS。ランハ・ラルが搭乗したムチ状のヒートロッドは敵を捕捉して電流を流す特殊な武器。左手には5連装75mm機関砲を装備。射撃戦にも対応している。

MS-07B

グフ (ヒート剣)

機動戦士ガンダム



グフの装備にヒート剣を追加し、より接近戦に傾倒したタイプ。ヒート剣はヒートロッドと併用することで戦闘能力が格段に高まる。だがふたつの主力武器を装備することで重量が増し、運動性能は低下している。

MS-07B

グフB型 (マ・クベ専用機)

MSV



マ・クベ専用のグフ。豪華絢爛な塗装から美術品に精通するマ・クベの趣味がうかがえる。この機体で戦ったら、どんな戦地でも目立ってしまうだろう。装備や性能はB型のグフと大差ない。

MS-07B-3

グフ改良型

機動戦士ガンダム
第08MS小隊

B型グフに改良を加えたもの。巨大なガトリング砲を取り付けたシールドが大きな特徴。さらにヒートロッドを延長し、遠距離での攻撃力も高めている。グフ本来の白兵戦能力も衰えていない。

MS-07C

グフ重装型

MSV



グフの弱点であった装甲を強化した重装型タイプ。思い切ってヒートロッドやシールドを外し、両手に5連装マシンガンを着着した。装備の薄い部分は格闘で補う。重装化したため機動性能は低下した。

MS-07H

グフ飛行型

MSV
機動戦士Zガンダム

MS1に飛行能力を付加するための試験機。後の可変型MSのような高機動性は得られなかったか、離陸とホバー移動には成功した。グフにしては珍しくジャイアントバズーカを装備している。

FREEE SERIES

イフリート系

グフからドムまでの過渡期に生産されたMS。射撃と格闘の両方に秀でたMSで、機動力に関してもグフ以上の能力を発揮したといわれている。試験機のためわずか数台が生産されただけとなっている。そのため、配備された部隊についても不明な点が多く、謎の多い機体として知られている。また、EXAMシステムを搭載した改良型もあったが、連邦軍の同じくEXAM搭載機と交戦し大破したとされている。

MS-08TX(EXAM)

イフリート改



機動戦士ガンダム外伝

イフリートの改良型。決定的な違いは一般パイロットでもニュータイプと同等の操縦を可能にするEXAMシステムを搭載していること。ニュータイプ専用に調整されていて、彼が搭乗することで能力を最大限に発揮する。

MS-08TX

イフリート



機動戦士ガンダム
CLOSS DIMENSION 0079

ジオンの侵襲部隊の試作MSで、グフをベースに8機だけ生産された。格闘戦を主眼に開発されており、2本のヒート・サーベルを使用する機体もあった。活動範囲を地上に限定することで、高い運動性能を発揮した。

DOM SERIES

ドム系

熱核エンジンを使用したホバーにより移動するため、ザク、グフとは比較にならないほどの機動力と戦闘行動半径を持つ。また、熱核エンジンの余剰エネルギーを使用したビーム砲の装備も検討されたが、十分なエネルギーが得られず、胸部に装備されているものは目つぶし程度のものでしかなかった。もとは地上用に開発されたMSだが、次期主力MS開発までの引き継ぎ機として宇宙用も開発され、終戦まで使用された。

MS-09

ドム



機動戦士ガンダム

陸戦用のMS。熱核エンジンによるホバー移動が特徴であり、重装MSとしては運動性能が高い。主力兵器のジャイアントバズーカは360mmの大火力兵器。ザクバズーカと同じく他の機体でも使用できる。

MS-09

ドム (黒い三連星専用機)



ガンダム

ガイア、オルテガ、マノシュら「黒い三連星」が操る専用のドム。さらにホバー能力を向上させ、ジュノストリウムアタックという三位一体の強力な戦法を生み出した。装備は通常のドムと同じ。

MS-09

ドム (ランバ・ラル専用機)



ジオンの系譜

ドムをランバ・ラル専用にチューンナップした機体。グフと同じく青い塗装が施されている。装備はドムと変化するが、自兵戦闘が得意なランバ・ラル用に、各能力が調整されていることだろう。

MS-09FTROP

ドム・トロウペン



機動戦士ガンダム0083
スターダストメモリー

ドムを局地戦用に改良、量産した機体。砂漠での行動を考慮し、防砂処理が施され、ホバー移動も強化されている。また、スカート部分にマガジンを収納でき、実弾兵器の武装が充実している。

MS-09G

ドワッジ



機動戦士ガンダムZZ

ドムの改良形態で砂漠地帯でも活動ができる。一年戦争時にアフリカに配備されていた。プロヘラトランクの増設により、ホバー能力が格段に向上している。なお「ガンダムZZ」に登場している。

MS-09H

ドワッジ改



機動戦士ガンダムZZ

ドムの最終生産形態で、熟練パイロット用のカスタム機。両肩に4機のブースターを備えることで高い機動性能を誇る。武装の面ではドワッジとそれほど大差はない。「ガンダムZZ」ではロンメルが搭乗した。

MS-09R

リック・ドム



機動戦士ガンダム

陸戦用のドムのホバー能力を保持する熱核ジェットをロケットに換装し、宇宙戦仕様とした。武装は陸戦用ドムと同じだが、ザクに代わり宇宙空間で戦果を上げる。ゲルググと最後まで次期主力MSの座を競った。

MS-09RS

リック・ドム (キャスバル専用機)



ギレンの野望

リック・ドムを赤く塗装し、キャスバル専用機としたもの。外見だけでなくニュータイプ用にチェーンナップが施されていると思われる主力兵器はジャイアントバズーカではなく、ビーム・カノンになっている。

MS-09R-2

リック・ドムⅡ (ツヴァイ)



機動戦士ガンダム0080
ポケットの中の戦争

リック・ドムの改良機で、一年戦争における最終使用形態。「星の肩作戦」でも使用されている。武装面ではマシンガンやシールド・ファウストが導入されるなど、従来のドムと異なっている。

隠れた傑作機

■砂塵に消えたMS

シオン軍が一年戦争を通じ、数々の優秀なMSを開発したことは周知の事実だ。しかし、戦局の悪化に伴い試作機のための開発に終わったものも多い。



▲この機体のプロトタイプは、ドムタイプの発展型といわれる。

GELGOGG SERIES

ゲルググ系

一年戦争後期に開発された機体。ジオン軍のMSとして初めてビームライフルの装備に成功したMSである。この兵器の搭載により、ギャンとのトライアルに勝利し、制式採用された。機体ポテンシャルとしてはガンダムに匹敵するものであったといわれている。しかし、ジオンの敗色が濃くなっていた当時では満足な戦果を挙げることなく終戦を迎えている。少数ではあるが、高機動型やキャンボン砲装備タイプも存在している。

YMS-14

ゲルググ (初期生産型)



MSV

大戦末期に生産されたMS。ジオン軍初のビーム兵器を携行し、高い攻撃力を発揮した。次期主力MSとなるはずだったが、ジオン軍劣勢の中では活躍の場はなかった。ユニークな武器、ビームナギナタを装備。

MS-14S

ゲルググ (シャア専用機)



機動戦士ガンダム

ゲルググの先行生産型で、シャア専用の機体。他の専用MS同様に機体を赤く塗装している。機動性能が高く、高機動型なみの能力を持つ。武装は暴走機と同じくビーム・ライフルとビーム・ナギナタ。

MS-14S

ゲルググ (アナベル・ガトー専用機)



0083

数多くの武勲を残した「ソロモンの悪夢」と呼ばれたアナベル・ガトーの専用機。耐久力と運動性能が向上している。これはア・バオア・クー戦のときに搭乗していた機体で、孤軍奮闘の末に撃破されたものだった。

MS-14S

ゲルググ (ランバ・ラル専用機)



ジオンの系譜

ランバ・ラル専用の青い機体のゲルググ。ただ育て塗装されているだけではなく、耐久力や通信関係が強化されている。自兵戦の得意なランバ・ラルならば、グフと同等以上に乗りこなすことだろう。

MS-14A

ゲルググ (量産型)



機動戦士ガンダム

試作段階の初期生産型を経て量産化されたゲルググ。ザクやドムに変わる次期主力型のMSとして期待された。ローコスト化により性能は低下したが、高い運動性能は保持している。武装も初期生産型と同じだ。

MS-14B

高機動型ゲルググ



MSV

ハノクバノクを搭載した高機動型のゲルググ。ビームライフルを使えた。撃破後の戦法をとることが容易になり、危険な自兵戦をこなす必要がなくなった。新たな装備としてロケットランチャーが採用されている。

MS-14B

高機動型ゲルググ (ジョニー・ライデン専用機)



MSV

「真紅の緞装」の異名を持つジョニー・ライデンの専用機。ブラスター・ハノク搭載により運動性能が向上している。装備は普通の高機動型ゲルググと同じで、ビーム・ナギナタやロケットランチャーが主力武器。

MS-14B

高機動型ゲルググ シン・マツナガ専用機



ジオンの系譜

シン・マツナガ専用機体で、機体色は白に仕上げられている。これもブースターパックを装備し高い運動性能を実現。これらB型のゲルググは全部で11機が生産されたという記録が残されている。

MS-14B

高機動型ゲルググ(黒) 三連星専用機



ジオンの系譜

ガイアたち「黒い三連星」用にチューンナップが施された機体。ブースターパックの使用によりジェットストリームアタックも実現可能。トム以上の能力を発揮する機体なので、彼らには最適である。

MS-14C

ゲルググキャノン



MSV

ザクキャノンを参考にして開発された、対空砲撃用のゲルググ。実弾兵器を備えるザクキャノンとは違って、こちらはビーム兵器を採用している。装備もかなり充実しており、後方支援用として活躍する。

MS-14F

ゲルググM(マリーネ)



機動戦士ガンダム0083
スターダストメモリー

旧ジオンの主力MSであったゲルググに、改良を加えたMS。ビームライフルではなく実弾系のマシンガン装備している。また肩はザクのものを利用し、肩の部分にはスパイクが取り付けられている。

MS-14Fs

ゲルググM 指揮官機



ジオンの系譜

ゲルググMを指揮官用にチューンナップした機体。装備は変わらないが、量産機に比べて耐久力が向上している。主に、早の肩作戦。進行のために結集したシーマ艦隊で使用された機体である。

MS-14Fs

ゲルググM シーマ・ガラハウ専用機



機動戦士ガンダム0083
スターダストメモリー

シーマ・ガラハウが操る専用機。独特のカラーリングを施している。指揮官用のゲルググMとは違って、実弾系のマシンガンではなく高出力のビームライフルを装備。ガンダムGP01をこの機体で撃退した。

MS-14JG

ゲルググJ(イエーガー)



機動戦士ガンダム0080
ポケットの中の戦争

ゲルググをベースに作られた新型MS。サイクロプス隊がコロニーに潜入するときに使用された。大型のビーム・マシンガンや、腕部のグレネードランチャーなど、従来のゲルググとは違った武器を装備している。

MS-14J

リゲルグ



機動戦士ガンダムZZ

アクシズ製のMS。元はジオン製だがアクシズが改造して使用した。キューベレイのようなバインダーにスターを内蔵することで、高い運動性能を発揮する。ビーム・ライフルやグレネードランチャーが主力武器。

CYAN SERIES ギャン系

ゲルググと同時期に開発され、1ドムに変わって次期主力MSの座を争った。ゲルググが汎用機であるのに対し、ギャンは格闘戦を主眼に開発され、装備もヒーム・ソードとシールドのみであった。このため、ヒーム・ライフルの装備が可能であったゲルググとのトライアルに敗れ、試作機が数機作られただけとなっている。しかし、高い機動性と白兵戦能力を持つギャンは、後のバズン計画において後継機の開発が決定していた。

YMS-15

ギャン



機動戦士ガンダム

接近戦を重視した試作型MSで、マクベ大佐の専用機。次期主力MSとしてゲルググと開発を競いあった。シールドにミサイルを装備し、接近戦に柔軟に対応することができる。遠距離戦に弱いのが欠点だ。

MS-15S

ギャン(シャア専用機)



ジオンの系譜

シャア専用としてチューンナップされた機体。ゲルググを専用MSとしたシャアであるが、ゲームではギャンの専用機も用意されている。装備はノーマルのギャンと同じで、接近戦で強力な威力を発揮する。

MS-15S

ギャン(アナベル・ガトー専用機)



オリジナル

指揮官用のギャンでは珍しくガトー専用としてチューンナップされた機体。ボディカラーもガトーを識別する色になっている。ノーマルのギャンと比べて能力面が向上し、ガトーの力を最大限に引き出す。

MS-15S

ギャン(ランバ・ラル専用機)



オリジナル

ランバ・ラル専用として強化された機体。全身が青色で塗装されている。能力面では耐久力が向上している。装備はノーマルのギャンと同じ。白兵戦の得意なランバ・ラル向けの機体といえる。

MS-15A

ギャン(量産型)



ギレンの野望

ギャンは実際には量産されなかったが、それが量産された場合のゲームオリジナルの機体。量産化のため能力は低下しているが、高い白兵戦能力は受け継がれている。歴史を変える戦果を挙げたと思いたい。

MS-15B

高機動型ギャン



オリジナル

ギャンの改良型。背中にバクハツを装備し、さらに機体各部にアポシモーターを取り付けて運動性能を向上させた。またビーム・サーベルを強化したビーム・クランスを装備。白兵戦用MSとして、高性能なものとなっている。

MS-15B

高機動型ギャンジョニー・ライデン専用機



オリジナル

ジョニー・ライデン用にチューンナップされた機体。ゲームオリジナルではあるが、ジョニー・ライデン専用として赤と黒でカラーリングされている。装備面では他の高機動型ギャンと変わらない。

MS-15B

高機動型ガン(シン・マツナガ専用機)

オリジナル

『白狼』と異名をとるシン・マツナガ用にチューンナップされた機体。機体を識別するために全身が白色で塗装されている。能力的には耐久力に優れた機体。ギャンを量産化できれば開発することができる。

MS-15B

高機動型ガン(黒い三連星専用機)

ジオンの系譜

ガイアたち『黒い三連星』用にチューンナップされた機体。カラーリングはドムと同じく漆黒である。機動力を活かしたジェット・ストリーム・アタックの戦法を最大限に発揮するために、攻撃力と推進力を向上させた。

MS-15C

ギャンキャノン

オリジナル

白狼戦専用であったギャンにキャノン砲を追加装備し、遠距離戦にも対応できるようにしたタイプ。エネルギー兵器ではなく、実弾兵器で戦う武器内蔵型のシールドを外し、装甲を高めてある。

KAMPEER SERIES

ケンプファー系

大戦末期に開発された強襲用MS。機体各所に姿勢制御用のアポニモーターが配置され、大推力ハニアを活かした一撃離脱を得意とした。しかし、推力に対してプロペラント量が少なく、長時間の戦闘行動はできなかった。武装もショットガンやハズーカなどの実弾系がほとんどであった。テスト結果は良好であったが、開発が終了して間もなく一年戦争が終結してしまったために、戦場でその姿を見ることはなかったという。

MS-18E

ケンプファー

機動戦士ガンダム0080
ポケットの中の戦争

サイクロプス隊が使用した強襲用MS。ガンダムNT-1破壊のために配備された機体各部にスラスターを取り付け、重力下でも滑空移動を実現。装備はすべて実弾兵器で、同時に複数の武器を携行可能である。

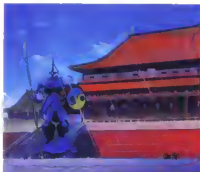
『ギャンが制式採用されていたら…?』

■孤高の剣士に未来はあるのか

トライアルではゲルググに惜しくも敗れたギャンだったが、格闘性能はゲルググよりも上だった。この点を評価されて量産機に選ばれる可能性もなかったわけではない。しかし、その性能を活かすためには格闘に持ち込まなければならず、練度の低いパイロットでは真価を発揮できないおそれもあるだろう。



▲量産機は、この設計コンceptに変更はない。接近戦重視のMSだ。



◀もしもギャンが量産されてジオンが勝利していたら、このような姿が見られたかもしれない。



◀ゲルググには高機動型と格闘型のバリエーションが生まれている。ギャンが量産されれば、1機のバリエーションが誕生しただろう。

AMPHIBIOUS MS SERIES

水陸両用MS系

ジオン軍は地球侵攻に際し、海洋制覇を重視していた。しかし、海を持たないジオンでの水陸両用MSの研究は難航し、本格的に開発に着手したのは地球侵攻作戦が終了してからである。ザク・マリンタイプの開発後、ゴッグやスゴック、アッガイなどの水陸両用MSが開発され、これらのMSはシャブロー攻略時に大量に投入された。また、シャブロー攻略用の水陸両用MSもあった。

MSM-03

ゴッグ



機動戦士ガンダム

居室型水陸両用MS。トランポリンで多くの戦果を残した。地上よりも水中での使用に適している。水中では両腕を収納し、スモーズに移動。メガ粒子砲やガンタムの装甲を破るほどの威力を持つクローが主力武器。

MSM-03C

ハイゴッグ

機動戦士ガンダム0080
ポケットの中の戦争

ゴッグをベースに設計した水陸両用MS。サイクロプス隊が北極基地を襲撃するときに搭乗した。腕部ビーム・カンやハンドミサイルを備え、水中戦闘で強さを発揮。ジェットパック装着で飛行速度を伸ばせる。

MSM-04

アッガイ



機動戦士ガンダム

水陸両用MS。ゴッグよりも陸上での活動を考慮して作られた。諜報や破壊工作を得意とした機体である。両腕にハルカン砲を内蔵、右腕にはクローとロケット弾ランチャーを、装備している。

MSM-07

ズゴック



機動戦士ガンダム

水陸両用MSで、特に地上での格闘戦に優れたタイプ。カメラにはモノアイを採用し、水中から少し頭を出すだけで状況を把握できる。長いクローの内部にはメガ粒子砲が装備され、遠距離戦も十分にこなす。

MSM-07S

ズゴック 指揮官用



ギレンの野望

指揮官用に改良されたオリジナル機体。運動性能と耐久性をアップし、さらに敵艦機能も追加された。なお、スゴックは水流ロケットエンジンとバーニアを使い分けることで、水陸ともに高い運動性能を発揮する。

MSM-07S

ズゴック(シャア専用機)



機動戦士ガンダム

ボディが赤く塗装されたシャア専用ズゴック。連邦軍の基地があるシャブロー潜入に使用され、多大な戦果を挙げた。装備は同型だが耐久力と運動性能が向上し、シャアが搭乗することで最大限の能力を発揮する。

MSM-07E

ズゴックE(エクスヘリメント)

機動戦士ガンダム0080
ポケットの中の戦争

ズゴックを改良した水陸両用MS。ガンダムNT-1奪取作戦でシェンタイナーが操縦した。水中航行時には手足を収納、さらにジェットパックを装備することで高速移動を可能にした。主力武器としてビーム・カンを装備。

MSM-10

ゾック

機動戦士ガンダム



ジオンの誇る最大級の水陸両用MS。前と後ろが同じデザインというユニークな機体。地上ではホバーで移動し、歩くことはできない。重装備でメガ粒子砲を6基も備えているのが特徴で、移動砲台に近い。

MSM-04N

アッグガイ

MSV



アッグガイをベースに作られた水陸両用MS。ジャブロー攻略用として開発された。巨大なカメラアイとクローに代わるヒートロッドが特徴。ヒートロッドは用途に応じてクローに換装することもできる。

MSM-04G

ジュアッグ

MSV



アッグガイと同様にアノガイをベースに作られた砲撃用のMS。両手に巨大なロケットランチャーを装備し、他の水陸両用型と一線を画す。ズゴックらと共にシャブローに投入される予定だった。

EMS-05

アッグ

MSV



ジャブロー攻略用に開発された地中型MS。両手のドリルで地中を掘り進みシャブロー基地に侵入する予定だった。侵攻ルートを切り開くためのMSであるが、ドリルをロケット砲に換装したタイプもある。

MSM-08

ゾゴック

MSV



ズゴックをベースに開発された水陸両用MS。頭部と腹部にワイドカッターを装備した特殊な機体である。完全な白兵戦仕様となっている。この機体もシャブロー攻略用として、開発されたものである。

サイコミュ搭載型系

操縦者の意志によって兵器をコントロールするサイコミュシステムを搭載した機体。有線式と無線式のものがあった。システムの小型化が難しく、ほとんどがMAクラスの機体に搭載されている。また無線式のもを装備した機体はエルメスのみで、10機の無人攻撃端末である「ビット」を装備していたMSクラスで実戦投入された機体はMSN-02ジオングだけであった。

MS-06Z

サイコミュ試験型ザク

MSV



ニュータイプ用のサイコミュを搭載したMSで、3機が試験用に生産された。当機の完成型がジオングになる。しかしシオングの半分の容積しかなく試験結果は良好ではなかった。メガ粒子砲を装備している。

MSN-01

サイコミュ高機動試験型ザク

MSV



サイコミュ試験型ザクの2号機を改造、高速状態でのサイコミュ実験用機体として使われた。脚の代わりに大出力のエンジンを搭載。頭部くらいしかザクの面影はない。有線ビーム砲でオールレンジ攻撃が可能。

MAN-03

プラウ・プロ



機動戦士ガンダム

初めてニュータイプ用に開発されたMA。複数のパイロットが搭乗し、3つのユニットに分離、合体ができるニュータイプが有線のサイコミュを自由自在に操ることによりオールレンジ攻撃が可能になった。

MAN-08

エルメス



機動戦士ガンダム

ニュータイプ専用MAのひとつの到達点。ビッドを遠隔操作で操り、敵の死角から攻撃をする。ほとんどすべての操作をサイコミュによって行うため、パイロットの体には多大な負担がかかった。

MSN-02

ジオング



機動戦士ガンダム

シャアが搭乗したニュータイプ専用MS。脚部に欠いた状態で出撃した。両手は有線式で、遠隔操作によるオールレンジ攻撃が可能。頭部、腹部にメガ粒子砲を装備している。また頭部は単体で使用できた。

MSN-02

ジオング(完成機)



MSV

ジオングに足を装着した完成型。ニュータイプ専用のMS。実戦には投入されなかったが、メガ粒子砲の長業が充実。後継機のMSN-03は、全身アプロクからオールレンジ攻撃が可能だったという。

ジオング・ヘッド



機動戦士ガンダム

コクピットであるジオングの頭部にはスラスターが取り付けられており、切り離しが可能。これは脱出用のユニットであるが、メガ粒子砲が装備されており、頭部のみでも攻撃能力を有している。

APSARAS SERIES

アプサラス系

オンの名門サハリン家の嫡男であるギニアス・サイリンによって研究、開発が行われたMA。1号機から3号機までの3機が存在するが、全て試作機のため形式番号は与えられていない。ジャブロー攻略を目的に開発され、ミノフスキークラフトにより上空に侵入、大口径メガ粒子砲により砲撃を行うのが目的であった。1、2号機のデータをもとに3号機が開発された。

アプサラス

機動戦士ガンダム
第08MS小隊

ジャブロー攻略のために作られたMA。ザクの頭部など、様々なMSのパーツを組み合わせて作られているのが特徴。ミノフスキークラフトで巨体を浮かせて移動する。まだ実験段階なので武装は施されていない。

アプサラスⅡ

機動戦士ガンダム
第08MS小隊

ギニアス・サイリンが開発した試作機の第2段階。改良を加えて各性能をアップさせた。機体前面に巨大なメガ粒子砲を装備し、実戦投入が可能となった。高空から敵陣地に侵入し、メガ粒子砲での砲撃を行う。

アブサラスⅢ

機動戦士ガンダム
第08MS小隊

アブサラスシリーズの最終形態。ジェネレーターにはリック・ドムのパーツを採用。メガ粒子砲を使用するときは、ミノフスキークラフト発生装置を収めている脚部を展開し、姿勢の保持が必要。

MOBILE ARMOR SERIES

MA系

全領域汎用支援火器。一年戦争中期、局地戦が多くなるにつれ、汎用機であるMSでは対応が困難になっていった。そこで、局地戦を想定して開発されたものがMAである。MSの特徴でもあった人型を廃し、戦闘機のようなフォルムを持つ機体がほとんどである。爆発的な機動力と戦艦クラスの火力を誇る。生産コストが高かったことと、実戦への投入時期が大戦末期であったために量産されるにはならなかった。

MAX-03

アッザム

機動戦士ガンダム

MAの原型ともいえる陸戦兵器。4本の足で跳躍移動するが、ミノフスキークラフトにより短時間の飛行も可能。上空から無敵で攻撃するアッザムリーダーや、8基ものメガ粒子砲を装備している。

MA-04X

ザクレロ

機動戦士ガンダム

宇宙戦用に試作開発されたMA。MAとしては初期型のもので、拡散型ビーム砲の搭載には成功したが、運動性能などその他の機能は劣悪。そのためテストは中断、放棄決定がなされていた。

MA-05

ビグロ

機動戦士ガンダム

宇宙戦用に開発されたMA。長い2本の腕が特徴で、クロー部分で敵を圧砕することができる。機体前方には大型メガ粒子砲を装備し、遠距離戦もこなすこの機体は量産され、ハオ・ア・クーに配備された。

MA-06

ヴァル・ヴァロ

機動戦士ガンダム0083
スターダストメモリー

グラブローやビグロが進化したようなMA。特にデザインはビグロに似ている。カニのようなハサミで敵を捕捉し圧砕する。メガ粒子砲の他に、ブラズマ・リーダーという無熱兵器も装備。

MAM-07

グラブロー

機動戦士ガンダム

ジオン軍の誇る水中用MA。6連装水中ミサイルランチャーと対空対艦ミサイルランチャーを装備し、潜水艦と同等の航続距離を持つ。2本のアームで敵を捕捉することも可能。移動時はアームを後方に収める。

MA-08

ビグ・ザム

機動戦士ガンダム

ソロモン防衛戦に投入されたMA。当時は類を見ない巨大なMAで、主砲であるメガ粒子砲と28門もの対空メガ粒子砲を装備。ビーム兵器を防ぐIフィールドの技術も導入された。ドズル・ザビが搭乗して敵った。

MA-08S

ビグ・ザム [ザビ家仕様]



オリジナル

ザビ家の威信をかけガルマが作り上げたMA。通常のビグ・ザムと違い、金色の終取りがなされている。性能的にはほとんど変わらない。しかし、武装面でミサイルが追加され、対空防御能力がアップしている。

ライノサラス



機動戦士ガンダム外伝
コロニーの落ちた地で

ジオンの地上軍がザクのパーツを流用して製作したMA。戦車のような外見をしている。機体重量はかなりのものだが、ホバ推進で移動をするため、機動性能は高い。メガ粒子砲やミサイルを装備している。

PLAN SERIES

ヘズン計画系

局地戦MSを開発する計画で、小惑星・ヘズンで行われていたことからこう呼ばれる。この計画では制式採用されなかった機体や、既存のMS系統に当てはまらないものをひとつのカテゴリーとすることを目的としたギャンの後継機として開発されたガルバルディαやアクトザク、ヘズン・ドワッジなどがそれにあたる。高性能な機体が多く開発されたが、戦局の悪化にともない計画は中止。戦後、連邦軍に接收されることとなった。

MS-10

ヘズン・ドワッジ



MS-X

局地戦専用のMSを開発する「ヘズン計画」によって生産された。ドムをベースに全体的な能力が底上げされている。ドムと同じ装備でホバー走行も引き継がれている。装備は通常のドムと同じものである。

MS-11

アクトザク



MS-X

「ヘズン計画」により誕生した格闘戦用MS。ジオンのMSだが、マグネットコーティングが施されているのが特徴。高性能のMSであるので、戦後は連邦軍の手に渡り、各地で使用されていたようである。

MS-12

ギガン



MS-X

「ヘズン計画」で生産された対空防衛用MS。その外見はMSとはかけ離れたものである。上半身はゴングと形状が似ているが、脚ではなく3輪で移動する。180mm無反動砲や4連機関砲などの対空兵器を装備している。

MS-13

ガッシャ



MS-X

陸戦型MSであるが、水陸両用MSのようなデザインが特徴。両腕にはズゴックのようにコンバトナイールを装備し、白兵戦で敵を叩く。特殊ハンマーガンやミサイルポッドを装備し攻撃力は高い。

MS-17A

ガルバルディα



MS-X

「ヘズン計画」によって生産されたMS。試作段階ではあるが、ゲルググにギャンの攻撃力を加え戦闘力を向上させた。ビーム・ライフルやビーム・サーベルで白兵戦をこなす運動性能の高い高性能のMSである。

RMS-117

ガルバルディβ



機動戦士Zガンダム

旧ジオン軍が開発したガルバルディαを地球連邦軍が研究開発し制式に採用したタイプ。ギレンのようにシールド内部にもミサイルを装備し、攻撃力を強化した主力武器はビームライフルである。

YMS-16M

ザメル

機動戦士ガンダム0083
スターダストメモリー

重装甲と重装備のMSで、移動砲台のような役割を果たす。ドムと同じくホバーで移動し、外見よりも機動性能は高い。630mmカンパニ砲や8連多弾装ミサイルランチャーなどの実弾兵器が充実している。

MS-21C

ドラッツェ

機動戦士ガンダム0083
スターダストメモリー

デラーズ・フリートが開発したMS。新型といってもザクF2型の胴体にガトル戦闘機のブースターを取り付けただけの急造品。廃品を集めたようなMSなので、武装も乏しくそれなりの戦果しか挙げられなかった。

DUAL TYPE MS SERIES 可変MS系

MSの持つ汎用性と、MAの持つ局地戦闘能力を併せ持ったものが可変MAである。地球連邦軍はジオン軍から接収したデータをもとに可変MAを開発。その後、MS形態での運用をメインとした可変MSの開発に成功する。これらはグリプス戦役時に実用化されたムーバブル・フレーム機構によって完成されたもので、同戦役時には多数の可変MS、MAが戦線に投入された。またこれらのMSを第三世代MSと総称する。

NRX-044

アッシマー



機動戦士Zガンダム

高い運動性能を誇る可変型MA。マグネットコーティングの技術により、わずか0.5秒での変形が可能になっている。大気圏の中でも活動できる優れた機体だがMS形態では大型ビーム・ライフルを扱う。

NRX-044

アッシマー (MA形態)



機動戦士Zガンダム

アッシマーのMA形態。変形後は円盤形になり全身翼の形態をとる。全体の形が均一的なので耐弾性能に優れる。地球圏だけでなく、宇宙空間での使用も可能。機体下部に大型ビーム・ライフルを取り付けられる。

ORX-005

ギヤフラン



機動戦士Zガンダム

オークランドのニュータイプ研究所で開発された連邦軍の試作型可変MS。両腕に取り付けられたマルチ可動式バインダーの噴射により機体の姿勢を制御する。シールドにはビーム・ガン内蔵している。

ORX-005

ギャブラン (MA形態)



機動戦士Zガンダム

MA形態では圧倒的な機動力を発揮する。本来は宇宙用に作られたため、多大なエネルギーを消費する大気圏内で長時間飛行することはできない。その性能の高さから強化人間クラスのパイロットを必要とした。

NRX-055

パウンド・ドッグ



機動戦士Zガンダム

連邦軍が開発した可変MSで、強化人間専用機。プロトタイプと1号機の2機が生産された。サイコガンダムと同じくサイコミュを搭載している。MS形態では他に類を見ない異質な外見。メガ拡散粒子砲が主力武器。

NRX-055

パウンド・ドッグ (MA形態)



機動戦士Zガンダム

MA形態では圧倒的な防御力と運動性能を発揮。MA形態では脚部が突出し、巨大なクローアームとして機能する。敵を圧倒することも可能。パウンド・ドッグにはロザミア、ゲーズ、シンドラが搭乗した。

RX-110

ガブスレイ



機動戦士Zガンダム

シロノコが設計し連邦軍が開発した可変MS。攻撃と機動力のバランスが取れていたものの変形機構が複雑で量産には至らなかった。メガ粒子砲やビームサーベルなど装備が充実している。ジェリドラが搭乗した。

RX-110

ガブスレイ (MA形態)



機動戦士Zガンダム

昆虫のようなMA形態では内部の骨組が突出し、クローとして機能する。格納庫で待機するときこの形態で、また上半身だけMS形態になることもでき、その場合はライフルとクローを併用できる。

RX-139

ハンブラビ



機動戦士Zガンダム

連邦軍が開発した可変MS。全身に5つのモノアイを持ち、独特な外見で第三世代MSに分類される。ヤザンが搭乗しZガンダムを苦しめた。ロープ状の電撃武器である海ヘビや、クモの巣など特殊な攻撃を行う。

RX-139

ハンブラビ (MA形態)



機動戦士Zガンダム

MA形態ではエイのような外見になる。他の可変MSと同じく、突出した両腕によるクロー攻撃が可能。そのためMA形態でも戦闘力は高い。変形を簡略化してあるため量産しやすい設計となっている。

[可変MSの系譜]

■第三世代MSの誕生

Z計画の成功により可変MSは誕生した。これらは第三世代MSと呼ばれ、グリプス戦役を象徴するMS群となっている。しかし、MS開発費の高騰などの問題点も多かった。



▲可変MSと異なり、用途や形状などさまざまな機体が開発された。

サイコガンダム系

連邦軍のニュータイプ研究機関であるムサメ研究所で開発されたニュータイプ用MA。名称こそガンダムだが、ジオン軍のジオングが開発コンセプトとなっている。全身にメガ粒子砲を装備し、Iフィールド・ネレーターも搭載していた。また、MA形態時にはミノフスキークラフトにより飛行が可能であった。搭乗者のニュータイプ能力によっては遠隔操縦も可能といわれ、単機でボンコンシティを破壊させた。

MRX-009

サイコ・ガンダム (MS形態)



機動戦士Zガンダム

地球連邦軍ムサメ研究所が開発したニュータイプ用MS。形状こそガンダムだが、旧ジオン軍のジオングを開発コンセプトとしていた。全身に数十門のメガ粒子砲を装備し、MA形態にも変形可能であった。

MRX-009

サイコ・ガンダム (MA形態)



機動戦士Zガンダム

ミノフスキークラフトによる飛行が可能となっている。また、遠隔操縦が可能といわれ、操縦者不在で起動したという記録がある。またグリプス戦役末期には後継機であるサイコガンダム Mk IIが開発された。

PMX系

「プラマス・シロコ」がシェビリス内で開発したMSの総称。彼独自のMS理論によって設計されたこれらの機体は、そのほとんどが重MSであった。しかし、大推力ジェネレーターを搭載しており、巨体にもかかわらず俊敏な機動が可能であった。また、ジ・Oにはバイオセンサーが搭載されており、シロコ自身が操縦することでその性能を限界以上に引き出すことが可能であった。

PMX-000

メッサーラ



機動戦士Zガンダム

木星編りのシロコがシェビリス内で設計、開発した可変型のMS。MS形態ではハニアが肩の部分に配置され、高い運動性能を発揮。さらにビームサーベルを使った白兵戦もこなせる高性能機であった。

PMX-000

メッサーラ (MA形態)



機動戦士Zガンダム

メッサーラの飛行形態。大型のジェネレーターと大出力のハニアにより高い機動力を誇り、2門のメガ粒子砲で敵を攻撃する。ここから瞬時にMS形態に変形でき、状況に応じた戦闘が可能であった。

PMX-003

ジ・O



機動戦士Zガンダム

シロコがシェビリスで製造したMS。ボディの各部分にはスラスターが組み込まれていて、外見から想像もつかない俊敏な行動が可能。腰の部分のハニアの中には隠し腕があり、ビームノードを装備している。

[天才・シロコの造りしMS]

■木星から来たMS

シロコが独自にMS開発を行っていたのは有名な話だ。彼独特のMS理論によって作られたこれらMSは、さながらMSの実験場であったグリプス戦役においても、特異な存在であった。



▲後継者がいなかったため、わずか4機が開発されただけにすぎない

エゥーゴ系

『機動戦士ガンダム』に登場するMSの系列の一つであるエゥーゴ系は、当時では連邦軍（地球連邦）よりも高性能なMSを保有していた。また、ガンダムMk IIの成功により、自式Zガンダムといわれる高性能MSの開発に成功する。特にZガンダムは最初期に開発された可変MSであり、もっとも完成された機体としてグリプス戦役を代表するMSであるとともに、エゥーゴの象徴ともなった。

RMS-099

リック・ディアスクワトロ専用機



機動戦士Zガンダム

赤いカラーのクワトロ専用機。リック・ディアスという名もクワトロが名付けたものだが、初期の機体はクワトロ専用機を除いて黒い塗装であったが、後にクワトロ機と同じくすべて赤く塗装された。

RMS-099

リック・ディアス



機動戦士Zガンダム

エゥーゴがティターンズに對抗するために開発した次世代MS。初めてガンダリウム合金を採用している。武装はクレバズーカやデムピストルなど、グリプス戦争初期ではかなり高性能な機体といえる。

RMS-099

リック・ディアスクワトロ専用機



機動戦士Zガンダム

赤いカラーのクワトロ専用機。リック・ディアスという名もクワトロが名付けたものだが、初期の機体はクワトロ専用機を除いて黒い塗装であったが、後にクワトロ機と同じくすべて赤く塗装された。

MSN-100

自式



機動戦士Zガンダム

金色のボディが特徴の試作型MS。当初はZガンダムの候補として設計されていたが、可変型にするのは困難であったため、非可変型として再設計された。クワトロが大破したリック・ディアスの代わりに搭乗する。

MSN-100

自式（メガバズーカランチャー）



機動戦士Zガンダム

強烈な攻撃力を発揮する、メガバズーカランチャーを装備したタイプ。巨大な武器であるメガバズーカランチャーは、単独で航行することも可能である。発射はかなりの出力を要する武器である。

MSZ-006

Zガンダム



機動戦士Zガンダム

アナハイム・エレクトロニクスが開発した可変型MS。ガンダムMk IIとリック・ディアスを参考にカミーユが設計した。ビームライフルなどの通常兵器の他にもハイパーメガランチャーを装備している。

MSZ-006

Zガンダムウェイブライダー



機動戦士Zガンダム

Zガンダムの飛行形態で、大気圏や宇宙を航行するときに使用される機体下方にシノクウェーブを形成し、その衝撃波で浮力を得て飛行する。ビーム兵器を1万発備え、戦闘能力も高い。

「Z計画の陰の功労者」

■ 1通のレポートがきっかけ

中断していた「Z計画」を再開させたのは、エゥーゴに参加したカミーユ・ビダンが作成したレポートであったといわれる。



▲ MSに関する造詣は深く、至手、Jr MSセ・アトスと多様な才能と趣味の持ち主である。

AXIS SERIES

アクション系

「ペン残党」で最大の勢力を誇るアクシズは、小惑星アクシズ内において独自のMS開発を行っていた。作業MSであるガザA、ガザBを経て開発されたガザCは、史上初の可変MSである。また0083のデラース紛争に際してはMAノイエ・ジールを提供している。その独特なMS群はある意味、PMX系にも似ているといえる。またアクシズ総帥であるハイマン・カンの愛機キュベレは最初のニュータイプ用MSである。

AMX-003

ガザC



機動戦士Zガンダム

アクシズにおいて量産されていたガザA、ガザBをベースに開発された機体。ガザシリーズは作業用MSであったため、ガザCの外見にもその面影が残っている。主力武器はビーム・ガンなどである。

AMX-003

ガザC (MA形態)



機動戦士Zガンダム

MA形態では他の多くの可変型MAと同じく脚部のクローを使て格闘戦をこなす。この突出した脚部は着陸の際にも使用される。なおガゼはハマ・シ・カンが最初に登場したときに乗っていた機体でもある。

AMX-002

ノイエ・ジール

機動戦士ガンダム0083
スターダストメモリー

アクシズが生産した巨大MA。デラズ紛争のときにアクシズ先遣隊よりデラズ・フリートに贈られた。有線クローアームによるオールレンジ攻撃やメガ粒子砲、I7・ワールドを装備している。

AMX-002S

ノイエ・ジールⅡ

SDガンダム G
GENERATION-0

ノイエ・ジールの後継機で、艦隊との戦闘用に開発されたMA。ノイエ・ジールと同じくニュータイプ専用機である。当初はアクスでシャアのために開発されていたというエピソードがある。

AMX-004

キュペレイ



機動戦士Zガンダム

アクシズの技術を結集して作り上げた、サイコミュを搭載したニュータイプ専用MS。ハマーンが搭乗した10基ものファンネルを同時に操ることが可能である。その純白の機体はアクシズの象徴でもあった。

「暗黒の世界で力を蓄えたアクセズ」

■過去の亡霊が新たな勢力となる日

アクシズの帰還は、グリプス戦役中の特筆すべきニュースのひとつである。アクシズがこの戦いを通してティターンズ、エゥーゴに本格的な協力をしなかった背景には、両者の疲弊を狙ったものであるという意見もある。



▲
エロエロ
も 騎
た も 遊
る



▲「クハ」は、軍の「クハ」
「クハ」は、軍の「クハ」である。
「クハ」は、軍の「クハ」である。
MS部隊の象徴である。

FIGHTING VEHICLE SERIES

車両系

。オン軍は地上戦力のほとんどをMSに依存していた。そのため、戦車などの兵器は極端に数が少ない。マゼラ・アタックが唯一の戦闘車両である。この兵器は砲塔部分のマゼラ・トップと本体部分のマゼラ・ベースに分離が可能というユニークな構造をしていた。またダブデ陸戦艇は移動司令部として使用され、4基のダンパーで本体を固定することも可能であった。ギャロップは主に地上での輸送用として使用された。

マゼラ・ベース

機動戦士ガンダム

マゼラ・トップが分離したマゼラ・アタックの車両部。主砲を失っている状態であるため火力は低い。マゼラ・トップが帰還しないことも多いため、ザクタンクのト手身として利用された。

マゼラ・アタック

機動戦士ガンダム

戦車に近いジオン軍の戦闘車両。175mm無反動砲と3連機銃を備え、MS並みの攻撃力を持つ。また、砲塔部のマゼラ・トップを打ち上げて、目標の頭上を攻撃する戦法をとることも可能であった。

マゼラ・トップ

機動戦士ガンダム

マゼラ・アタックの砲塔部で、地上の敵を上方向から攻撃できる。だが、主砲の命中精度の低下や短い補給時間、航空機に簡単に撃墜されてしまうため乗員の生存率が低いなど欠点も多い。

ギャロップ

機動戦士ガンダム

野戦基地能力を持つジオン軍の陸戦艇。カーゴと呼ばれる居住区を連結でき、長期の作戦行動が可能である。ホバーを使用しているため、MSの戦器速度に随伴できる点もその利用価値を高めている。

ダブデ

機動戦士ガンダム

ジオンの巨大陸戦艇。走行方式にキャタピラを採用しており移動速度は遅いが、固定用脚の併用により安定した射撃プラットフォームとなる。オデッサ戦などの大規模な作戦で使用された。

AIR CRAFT SERIES

航空系

宇宙や地上を主戦場と考えていたジオン軍は航空機開発をほとんど行わなかった。しかし地球侵攻に際し、拠点間の迅速な移動や輸送を考えた場合、航空戦力は不可欠であった。開発は急ピッチで行われ、いくつかの航空機が開発された。その中でもガウ攻撃空母とトップはジオン軍を代表する航空機である。また地上でのMSの行動半径と移動力増強のためにドバイが開発された。

ドップ

機動戦士ガンダム

ジオン軍の大気圏内用主力戦闘機。コクピットからの視界が広く、目視戦闘がメインとなるミノクス粒子散布下でも能力は損なわれない。航続距離の短さを補うためガウなどで輸送された。

ドップ (ガルマ専用機)

機動戦士ガンダム

ガルマ専用機として赤茶色に塗装されたドップ。性能は通常型と変わらないようだ。北米のホワイトベース追撃戦で使用され、早機でガンダムに挑んだが右翼を切断されて撤退した。

ドダイ

機動戦士ガンダム

MSを搭乗、高速移動させるために開発された爆撃機。最初はMSの航空運搬が主目的であったが、MSの空中戦という発想が生まれ、以後に開発されるサブ・フライト・システムの原型となった。

ドダイ+ザクⅡ J

機動戦士ガンダム

降戦用ザクを乗せたドダイ。ザクの低い行軍速度をドダイに搭乗することで補っている。ザクの武装によりドダイにない対空攻撃力を持ち、スピードと攻撃力を持ち合わせた兵器となっている。

ドダイ+グフB

機動戦士ガンダム

グフが搭乗したドダイ。高い降戦能力を持つグフがドダイの航空移動力を得た理想的な兵器体系である。ドムの出現により姿を消したが、その発想は後に可変MSとして復活した。

ルグゲン

機動戦士ガンダム

大気圏内で運用されるシオン軍の偵察機。翼上に2基のレドームを持ち、調査目標によってレドームの位置を変化させる。高い推進力を持つため、短距離であれば通常装備のザク機を通過できる。

ファットアングル

機動戦士ガンダム

2基のローターと箱のような胴体を持つジオンの輸送機。ヘリコプターの種類で、垂直離着陸能力と胴体の大部分を占める大型格納庫を持つ輸送機として優れた性能を誇っている。

ガウ

機動戦士ガンダム

空中要塞とも形容される超人型機で、3機のMSを搭載しても飛行能力には支障がない。メガ粒子砲と多くの爆弾を装備しており、単体でも軍事基地などの攻撃力を誇っている。

「サブ・フライト・システム開発秘話」

■MSの長距離移動を目指して

地球降下戦後、シオン軍はMSの行動半径の拡大を考慮したサポートシステムの開発を計画する。その結果、生まれたのが「ドダイ」である。これにより、MSの行動半径が飛躍的に向上することになった。



▲ドダイは、シオン軍が地球から撤退するまでの間、使用された。

SPACE CRAFT SERIES

航空系

機動戦力はMSが主体であるために新型機が開発されることなく、MS開発以前の兵器がそのまま使用されていた。ガトルは宇宙攻撃機として使用され、対艦戦を主体としてミサイルが装備されていた。ジオも艦首にミサイルを装備し、ガトルと共に艦隊戦で主に使用された。大戦も末期になるとこれらの旧式の兵器も再び戦場に投入され、MSと同様、主戦力として活躍していた。

ガトル

機動戦士ガンダム



ふたつのコクピットが特徴的なジオン軍の宇宙戦闘機。運動性が低く、ミサイルの命中率も低い。そのため突撃艇的な運用が多い。コクピットが脱出ホードになっており、パイロットの帰還率は高い。

ジッコ

機動戦士ガンダム



機首に連装ミサイル発射機を装備したジオンの宇宙突撃艇。ミサイルを発射するかヒーム擾乱弾を張るのが定石となっている。2基のエンジンに扶まれた3つの球状ブロックは燃料タンクである。

BATTLE SHIP SERIES

艦船系

軍の艦船は巡洋艦と戦艦、そして空母が存在する。連邦軍の艦船との大きな違いは開発当初からMSの搭載と運用を考えていたことである。ジオン艦隊の中核をなす巡洋艦ムサイは艦首部分が分離、コムサイとして大気圏突入能力を有していた。また数は少ないが、潜水艦も有していた。これは地球侵攻作戦時に連邦軍から奪取したユーコンと、独自に開発したマド・アングラーの2種類が存在する。

ムサイ

機動戦士ガンダム



ジオン宇宙軍の主力である軽巡洋艦。MSの運用を前提に開発された最初の軍艦であり、後に開発されたMS運用艦艇の雛型となっていた。同型艦としてトレン大尉のキャメルが知られる。

ファルメル

機動戦士ガンダム



一年戦争中盤にシャアが使用していた、独特の艦橋のムサイ。ルウム戦役での戦功によりドズル中將から下賜されたといわれている。シャアが亡くなった後から本艦の行方は不明である。

コムサイ

機動戦士ガンダム



ムサイの艦首に搭載されている大気圏突入カプセル。MSを1機搭載可能で大気圏内でも飛行できるため、MSの緊急投入にも使用できる。機首には機関銃が装備されているが、あくまでも自衛用である。

ムサイ後期型

機動戦士ガンダム0083 スターダストメモリー



一年戦争時に生産されたムサイ級軽巡洋艦の改修艦。MS運用能力は変化していないが、武装は増えている。戦力不足のデラズ・フリートが使用した。同型艦としてヘル・ギェントがある。

コムサイ II

機動戦士ガンダム0083
スターダストメモリー

ムサイ後期型に標準装備されているコムサイ。専用ブースターを使用することで大気圏外への離脱が可能である。テラース紛争序盤のガンダム強奪時に投入されたものが確認できる唯一の例である。

ムサイ最終型

機動戦士ガンダム0080
ポケットの中の戦争

一年戦争末期に投入されたムサイの発展型。エンジンの小型化やスリムになった胴体により、軍艦として洗練された形になっている。このタイプのムサイとしてシークワリートが知られている。

コムサイ (ムサイ最終型)

機動戦士ガンダム0080
ポケットの中の戦争

ムサイ最終型専用のコムサイ。戦場が宇宙に移った戦争末期に登場したため、この大気圏突入カプセルが実戦で使用された記録はない。性能的には他のタイプのコムサイと大差ないと推測される。

チベ

機動戦士ガンダム

ジオン共和国時代に制式化された宇宙用電磁浮航。当初MSは搭載できなかったが、一年戦争開戦時には搭載能力を付加されていたようである。赤く塗装されている艦が多いが、緑のものもあった。

ティベ

機動戦士ガンダム0080
ポケットの中の戦争

MSの運用と推力の増大を前提に再設計されたチベへの改修型。一年戦争末期になって就航したため数が少なく、ルビコン作戦ごろに確認されたグラーフ・ユンヘリン以外は、運用例が報告されていない。

ザンジバル

機動戦士ガンダム

ジオン軍が大気圏内外両用に開発した機動巡洋艦。大気圏離脱時には専用ブースターが必要だが、ノンオブションでの大気圏突入能力を持つMA2機を搭載できる広い格納庫を持っている。

ザンジバル改

機動戦士ガンダム0083
スターダストメモリー

一年戦争後期に再設計されたザンジバルの改修型。内蔵式であった一部の武装を外付け式に変更している。テラース紛争時のシーマ艦隊旗艦リリー・マルレーンがこの型のザンジバルである。

グワジン

機動戦士ガンダム

ジオン宇宙艦隊の旗艦として設計された戦艦。就航当時最大級の戦艦で、ザビ家の人間かその直属の部下にしか配備されなかった。同型艦としてグレート・デギンやグワデンが知られる。

グワンザン

機動戦士ガンダム0083
スターダストメモリー

アクシズで開発された、グワジン級戦艦の総合性能向上型。外見は大幅に変わっているが、MS用ハッチの位置や武装の配置にその名残が見える。グリプス戦役時のグワパンの同型艦である。

ハブワ



機動戦士ガンダム

ジオン共和国時代に執航した宇宙用の双胴型補給艦。一年戦争時にはすでに旧式化していたが、一部の補給部隊では使用されていた。ムサイとのドッキング機能を持っていた。

ドロス



機動戦士ガンダム

シオン軍が機転に開発した超大型空母。200機近いMSを搭載可能で、一年戦争最大のMS運用艦であった。ア・バオア・クー戦に投入されたが撃沈されている。同型艦にはロワとミドロがある。

ユーコン



機動戦士ガンダム

地球侵攻作戦で接収した連邦の潜水艦をベースに開発され、主に水陸両用MSの母艦として運用された。戦後も多くのユーコンが連邦の目を逃れて潜伏し、ゲリラ活動を行った。

マッド・アングラー



機動戦士ガンダム

MAも搭載可能なジオン最大の潜水母艦。ユーコンと同様に連邦軍の潜水艦を改造したものである。マッド・アングラー隊の旗艦としてホワイトベース追撃やシャッポール攻略戦に投入された。

HLV

機動戦士ガンダム0083
スターダストメモリー

地球降下用の大型ポッドにブースターを装備し、地球軌道上まで到達可能としたカプセル。一年戦争後もシオンのキンバライド鉱山に隠されていた。北米のシンコーリーでも確認されている。

[緑の下の力持ち・HLV]

■MS輸送の中心として

ジオン軍が地球侵攻作戦において、兵員や物資の輸送に用いたものが「HLV」である。また地球からの撤退にも使用された。



▲多量のHLVが大気圏外から各ポイントへと降下した



▲HLVは、カトー・キリヤと号機を宇宙へと送り届けた

▼物資の搭載量は戦艦にも勝るといわれ、シオンの戦線維持に貢献した。



第 4 章

キ ャ ラ ク タ ー フ ァ イ ル



GIHREN'S GREED
BLOOD OF ZEON



CHARACTER SPEC

地球連邦軍

国家間の戦争の回避を目的として設立された。当初はコロニーの建設など、平和への移民政策を推進していたが、コロニー間に独立の気運が高まると、経済制裁などの手段で隷属を強いるようになる。こうした背景が一年戦争を引き起こす土壌を生み出したのである。



アムロ・レイ

CLASS 一般→曹長

機動戦士ガンダム

成り行きからガンダムのパイロットとなった15歳の少年。爪を噛む癖がある閉鎖性気味のメカマニアだったが、さまざまな戦いとお会いを経て、ニュータイプへと覚醒していく。



アルファ・A・バイト

CLASS 中尉→大尉

機動戦士ガンダム0083
スターダストメモリー

強奪されたガンダム2号機追撃のため、マゼンラオン隊に配属されたパイロット。ハニックスの死後、アルビオンのMS部隊長となったモンシアらのまとめ役である。



ウッディ・マルデン

CLASS 大尉

機動戦士ガンダム

マゼンラオンの修理を担当したシーフの元士官で、マチルダ・アッシュの婚約者であった。アムロに牛き方を論じ、ジャブロー攻防戦で、シャアのズゴックの前に倒れた。



エイパー・シナプス

CLASS 大佐

機動戦士ガンダム0083
スターダストメモリー

マゼンラオン隊長。良識ある人物で、クルーの信望も厚い。ガンダム試作1号機と2号機を、トリントン基地に輸送する任務を受けていた。2号機の強奪後は、同機の奪還任務に就く。



エルラン

CLASS 中將

機動戦士ガンダム

レール海軍の創立。イン軍と内通し、連邦軍の情報を流して、しかしイン軍との接触をアムロに目撃され、スパイ行為が発覚。その後、更迭された。



カイ・シデン

CLASS 一般→軍曹

機動戦士ガンダム

難民としてマゼンラオンに乗り込み、ガンダム試作1号機のパイロットとなる。ヘルファストでスベテラ女ミハルと出会い、彼女の死に直面して大きく成長する。



カレン・ジョシュア

CLASS 曹長

機動戦士ガンダム
第08MS小隊

第08MS小隊所属のMSパイロット。勝ち気な性格で上官に対しても遠慮がないが、MSパイロットとしての腕は一流である。軍医であった人にも立派な過去を持つ。



クリスティーナ・マッケンジー

CLASS 中尉

機動戦士ガンダム0080
ポケットの中の戦争

第06の連邦軍秘密実験施設で、NT-1プログラムの調整を行っていた、「ジョーフィーター」と呼ばれるテストパイロット。ジオン軍の新型ガンダム強奪作戦を阻止する。



グリーン・ワイアット

CLASS 大尉

機動戦士ガンダム0083
スターダストメモリー

親衛隊隊長として、ジオン軍の連邦軍特務機関の裏取引を暴く。ジオン軍に阻止された後、ジオン軍の戦艦に捕らわれ、ジオン軍の海に散る。紅茶を愛する紳士。



コウ・ウラキ

CLASS 少尉→中尉

機動戦士ガンダム0083
スターダストメモリー

ナイメー、上田学校出身の「オースティン・カッター」によって強奪されたガンダム。分機を追い、戦いに身を投じる。この戦いによって、パイロットとして大きく成長する。



ゴップ

CLASS 大尉

機動戦士ガンダム

連邦軍本部に所属する。その身を置き、連邦軍提督。敵に狙われる。ホワイトベース隊を厄介者扱いしている。第13独立部隊。四部隊としての任務を受ける。



サウス・パニング

CLASS 大尉

機動戦士ガンダム0083
スターダストメモリー

「私たちの上官で階級は大尉。メンデル、マイト、アテルと一年戦争を戦い抜き、不死身の第4小隊」という異名をとる。シーマの攻撃により機体が爆発、戦死。



サマナ・フィリス

CLASS 曹長

機動戦士ガンダム外伝

ジオン軍に属するラーク収集部隊、通称「ウルモット隊」のチーフパイロット。同僚のニコやフィリスと共に、EXAMを巡る戦いに身を投じる。操縦技術は未熟。



ジタン・ニッカード

CLASS 大尉

機動戦士ガンダム
第08MS小隊

ジオン大隊の補給中隊隊長を務める老大大尉。酒とキャンブルとトラブルをこよなく愛するが、基地の近くに住むマリアという婦人、世帯主という、意外な一面もある。

**シロー・アマダ****CLASS** 少尉機動戦士ガンダム
第08MS小隊

第08MS小隊長として着任した新米少尉戦いを通じ、部下の信頼を勝ち得ていくアイナ・サハリンとの出会いにより、戦争の意味に疑問を持つようになる

**ジャミトフ・ハイマン****CLASS** 准将機動戦士ガンダム0083
スターダストメモリー

星の屑作戦による連邦軍内部の混乱に乗じてコーウェンを排斥、軍内部の地盤を固める軍部での地位を確立させた彼は、デラーズ紛争終結後、ティターンズを結成する

**ジョン・コーウェン****CLASS** 中尉機動戦士ガンダム0083
スターダストメモリー

連邦軍中尉で、「ガンダム開発計画」の責任者。窮乏した連邦軍の中では珍しく、行動力と良識に富んだ人物だった。しかし、デラーズの反乱ののちに退任へと追い込まれる

**スレグガー・ロウ****CLASS** 中尉

機動戦士ガンダム

補充要員としてホワイトベース隊に配属されたパイロット。ミライとのひとときの恋も実らず、彼女に母の形見の指輪を預けたまま、ビッグ・ザムに特攻をかけて戦死する

**セイラ・マス****CLASS** 一般→軍曹

機動戦士ガンダム

サイオンに住む。サイオン軍の襲撃の際にホワイトベースに避難、そのままクルーとなる。サイオン・ムム・ダイクンの遺児で本名はアルティシア・ムム・ダイクン

**チャック・キース****CLASS** 少尉機動戦士ガンダム0083
スターダストメモリー

コウと同じくナイメーヘン士官学校出身のテストパイロット。コウとニナの仲を心配し、何かと世話を焼く。搭乗機はジムキャノンⅡ。紛争終結後はオークリー基地勤務となった

**チャップ・アデル****CLASS** 少尉機動戦士ガンダム0083
スターダストメモリー

モン・ペ、アデルと共にアルヒオン隊に配属された補充パイロット。3人の中ではもっとも温厚で思慮深い性格。同型機を操るキースを激励することもあった

**ディアンム****CLASS** 中尉

機動戦士ガンダム

連邦軍中尉でソロモン攻略作戦「チンパロ作戦」の指揮を取った。宇宙艦隊の主力を任されていたが、ソーラ・レイの直撃を受けて艦隊ごと消滅した



テリー・サンダースJr.

CLASS 軍曹

機動戦士ガンダム
第08MS小隊

所属した小隊が彼を残して全滅したことか、
「死神サンダース」と呼ばれ、悩み続けていた
シローに助けられ、彼に全幅の信頼を
寄せるようになる



パオロ・カシアス

CLASS 大佐

機動戦士ガンダム

RX-78-2回収の任務を受けてサイド7に
赴いた。ナイトヘースの艦長 シオン軍との
戦闘において負傷し、艦長代行をブライトに
託す。ルナソーでの戦闘中に死亡する



バスク・オム

CLASS 大佐

機動戦士ガンダム0083
スターダストメモリー

「デラース」による「コロニー」砲撃に失敗す
るも、第2射をMSに叩きで発射 デラース紛
争終結後は、ジャミトフとともにティターン
スを結成、宇宙移民の排斥に乗り出す



ハヤト・コバヤシ

CLASS 一般→伍長

機動戦士ガンダム

アムロの幼なじみに、一緒にコロニーに
乗船しMSパイロットとなる。一般大
人であるアムロに対抗意識を燃やす。牛真
面目な反面、落ち込むことも多かった



フィリップ・ヒュース

CLASS 少尉

機動戦士ガンダム外伝

ユウ・サマナエとシン・アサキの回収任務
に就く「モルフォト隊」のMSパイロット。彼
らと共にブルーデスティニー追撃の任に就
く。口は悪いが、操縦の腕は一流である



ブライト・ノア

CLASS 少尉→大尉

機動戦士ガンダム

パオロ艦長の負傷により、ブライトノアの
艦長代行となった士官候補生。当初は傲慢
な言動が多くほかのクルーとの確執もあつた
が、戦いを経て優れた艦長へと成長していく



フラウ・ボウ

CLASS 一般→二等兵

機動戦士ガンダム

サイド7襲撃の際に親を亡くし、コロニー
ベースに通信士として乗艦する。アムロのガ
ールフレンドだったが、彼が戦いに巻き込ま
れていくにつれ、その心は離れていった



ブラン・ブルターク

CLASS 少佐

機動戦士Zガンダム

ティターンズ主導の連邦軍において、それ
に反感を抱きつつもエゥーゴ追撃の任務に就
くMS部隊の指揮官。新型の可変MSアノニマ
ーを操るが、カミーユに撃破される



ベルナルド・モンシア

CLASS 中尉

機動戦士ガンダム0083
スターダストメモリー

ハミングたちと共に一年戦争を戦い抜いた猛者。ガンダム2号機追撃のためにアルビオン隊に補充されたMSパイロット。腕は確かだが協調性に欠け、問題を起こすことも



マクシミリアン・バーガー

CLASS 少尉

機動戦士ガンダム外伝
コロニーの落ちた地で

「ホワイト・インゴ隊」に所属するMSパイロット。パイロットになる前は軍楽科に所属していたという変わり者。そのためか、操縦技術はまだまだ未熟なお調子者である



マスター・P・レイヤー

CLASS 中尉

機動戦士ガンダム外伝
コロニーの落ちた地で

連邦軍の遊撃部隊「ホワイト・インゴ隊」の隊長として、指揮とMS操縦に才能を発揮するパイロット。「アスタロス」を巡り、ジオン軍との戦いにその身を投じていく



マチルダ・アジャン

CLASS 中尉

機動戦士ガンダム

レビルの指示による「ホワイト・ベース隊」の補給を指揮した連邦軍上官。ホワイト・ベースを守るためにその身を散らした。シャフローのウンディー大尉と婚約していた



ミライ・ヤシマ

CLASS 一般→少尉

機動戦士ガンダム

サイト7襲撃によってホワイト・ベースの操舵手を任されることになる。ホワイト・ベースのおふくろさんとも呼ばれ、皆に信頼されていた。名門ヤシマ家の令嬢である



ユウ・カジマ

CLASS 少尉

機動戦士ガンダム外伝

「ホワイト・インゴ隊」のMSパイロット。ミレ・レンの結果から、パイロットとしての資質を見出され、ブルーディスティニーに搭乗することになる



ライラ・ミラ・ライラ

CLASS 大尉

機動戦士Zガンダム

連邦軍の巡洋艦サチラス所属のMS部隊隊長。ジェリドに男の素質を垣間見るも、カミーユに撃墜され戦死。ジェリドに宇宙での戦い方を教えるという約束は、果たせなかった



リード

CLASS 大尉

機動戦士ガンダム

セナリーに所属する連邦軍上官。シャフローの指令により、サラムスでホワイト・ベースの地球降下に随伴するが、その狼狽ぶりはブライトにも叱責されるほどだった



リュウ・ホセイ

CLASS 曹長

機動戦士ガンダム

↓ホワイト、ムスに乗船して、ハイロイド候補生で、クルーたちのまとめ役だったアンハ・ラル隊残党との戦闘時に負傷を押して出撃し、アムロを守って最期を遂げる



レオン・リーフェイ

CLASS 少尉

機動戦士ガンダム外伝
コロニーの落ちた地で

レオン軍の秘密兵器「アスタロク」捜索のため、ホワイトディンゴ隊に配属された連邦軍の諜報員。人と距離を置く性格であったが、戦いを通して、仲間を信頼するようになる。



レビル

CLASS 大將

機動戦士ガンダム

連邦軍を代表する名将。ホワイトベース隊のクルーをニュータイプと見抜くほどの優れた先見性を持っていたが、ジオン軍のコロニーレーザーによって戦死する



ワッケイン

CLASS 中佐

機動戦士ガンダム

ルナソーの司令を務める連邦軍上官。ホワイトベース隊に単独でのジャブロー行きを命令するが、その一方では現状を嘆いていたシャアの攻撃により戦死する。

「ニュータイプ部隊、ホワイトベース隊」

■ただ一隻で激戦を生き延びた伝説の艦

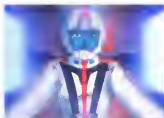
サイド7でジオン軍の襲撃に遭い、ホワイトベースのクルーとなった民間人たちは、数々の戦闘をくぐり抜け、レビル将軍にニュータイプ部隊と認識されるようになる。事実、彼らの戦歴は異常であり、ニュータイプとでも思わなければ説明がつかない部分も多く存在している。

■戦士としてのニュータイプ ～人の革新としてのニュータイプ～

アムロ・レイは、数え切れないほどの戦果を残しており、さらにソーラ・レイの照射を予期したともいわれている。しかし、このことからニュータイプを単に戦闘能力に優れた者とするのは、早計であると言わざるをえない。



▲戦後も満足に受けていない乗員達のホワイトベース隊からジオン軍の猛攻！耐えられたのは兵器の性能だけではないはずだ



▶「戦果を挙げ、また、このようにあるとする見方が多い」

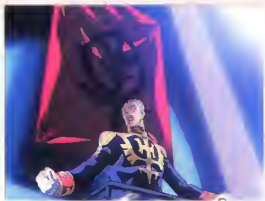
◀アムロ・レイの反応速度は常人を越えていた。これをニュータイプの特徴ということもできる。



CHARACTER SPEC

ジオン公国

『ベースノイトの独立とニュータイプ存在を主張したジオン・ズム・ダイクンの死後、ザビ家による独裁が敷かれるようになる。また「優性人類生存説」という選民思想と政治的背景により、U.C.0079、連邦政府に対し、独立戦争を仕掛けた



アイナ・サハリン

CLASS 一般

機動戦士ガンダム
第08MS小隊

ジオン公国の名門サハリン家の令嬢。1年戦争で新型MSのテスト中に連邦軍と交戦状態となり、シローと出会う。敵同士であったが、次第に心を通すようになる



アカハナ

CLASS

機動戦士ガンダム

「ドアングラ隊」所属のMSパイロット。シャアのシャブロー潜入に同行し、連邦軍のMS量産型を発見。破壊を試みるが、ホワイトベースの子供たちによって阻まれる



アコース

CLASS

機動戦士ガンダム

ランバ・ラル隊に所属するMSパイロット。ゲリラ戦術に長けた名指揮官である。ホワイトベース隊との初戦では、その戦術と腕によってガンダムをも仕倒した



ウィッシュ・ドナヒュー

CLASS 大尉

機動戦士ガンダム外伝
コロニーの落ちた地で

オーストラリア方面で活躍した、コースパイロットで、通称「荒野の迅雷」。その戦闘継続時間は通常の3倍といわれる。ホワイトデインゴ隊と激戦を繰り広げた



オルテガ

CLASS 中尉

機動戦士ガンダム

ガイア、マノンと共に「黒い三連星」として名を馳せるMSパイロット。オデッサ攻防戦におけるガンダムとの戦闘で戦死。悪人面が並ぶ3人の中で一番人の好きそうな顔。



ガイア

CLASS 大尉

機動戦士ガンダム

「黒い三連星」のリーダー格の凄腕MSパイロット。必殺技「ジェットストリームアタック」を用いガンダムに挑むが、オデッサにおいての2度目の戦闘で撃破された



ガデム

CLASS 大尉

機動戦士ガンダム

補給船ハニーの艦長で、MSに補給物資を届ける。本人もMSパイロットであり、歴戦の強者である。旧サクでガンダムに挑みかかるも、撃墜される。



ガブリエル・ラミレス・ガルシア

CLASS 軍曹

機動戦士ガンダム0080
ポケットの中の戦争

特殊部隊「サイクロプス隊」に所属する優秀なMSパイロット。ナイフ遣いで、その腕はかなりのもの。連邦軍基地においてNT-1を爆破しようとするが失敗、爆死する。



ガルマ・ザビ

CLASS 大佐

機動戦士ガンダム

ザビ家の長男で地球攻撃軍司令官。父の策略にはまり、ホワイトベース隊に撃破される。彼の死により、デギン公王とギレンの確執はさらに深まった。



キシリア・ザビ

CLASS 少将

機動戦士ガンダム

突撃機動軍司令官を務めるザビ家の長女。兄ギレンに懐疑心を抱きつつ、シオン公国の片翼を担う。父デギンを謀殺したギレンを暗殺するも、シャアによってその命を絶たれた。



ギニアス・サハリン

CLASS 少将

機動戦士ガンダム
第08MS小队

没落した名家サハリン家の名を上げるため、シャッフル攻略用MAアプサラスの開発に全身全霊を注ぐ技術将校。その目的に固執するあまり、すべてを失っていった。



ギレン・ザビ

CLASS 大尉

機動戦士ガンダム

シオン公国の総帥であり、シオン・ダイクらの思想を優良種による統治という選民思想に置き換え、一年戦争の口火をきった。ア・ハオア・クーでキシリアに射殺された。



ククルス・ドアン

CLASS 一般

機動戦士ガンダム

重力下での格闘戦を得意とするMSパイロット。戦場の非情さに耐えきれず、軍から脱走して無人島で孤児たちと共に暮らしていた。アムロと共にサクと戦う。



クスコ・アル

CLASS 中尉

機動戦士ガンダム
(小説版)

エルメス2号機に搭乗したニュータイプパイロット。恋人にふられたことがトラウマになっており、戦いのさなかにアムロと昔の恋人を重ねて激昂したが、彼に撃墜され戦死。

**クラウレ・ハモン****CLASS** 一般

機動戦士ガンダム

ランハ・ラルの愛人であり、密謀役も務めた女性。人望があり、部隊の兵士たちにも慕われていた。ラルの死後は隊を率いてホワイトベースにケリラ戦を仕掛けた。

**クランプ****CLASS** 中尉

機動戦士ガンダム

ラルの副官として彼に付き従う。ラル隊の古参の兵であり、ケリラ戦術にも長ける。ラルとハモンの関係に理解を小し、細やかな配慮を見せる人物。

**コズン・グラハム****CLASS** 曹長

機動戦士ガンダム

ランハ・ラル隊のMSパイロット。ホワイトベースの捕虜になるか、ランハ・ラルの死に功みに情報を送った。最後はランハ・ラルのハスーカの爆風で戦死する。

**コンスコン****CLASS** 少将

機動戦士ガンダム

12機のガンダムを率いてホワイトベースに攻撃を仕掛けた。ズル配下の艦隊司令官。3分たらずでトムの全滅したのは、彼が無能だからではなく、敵が強すぎたようだ。

**ジーン****CLASS** 伍長

機動戦士ガンダム

ランハ・ラルと共謀して7機のガンダムを偵察したMSパイロット。功がないことをあせり、連邦軍に攻撃を仕掛けるか、アムロの乗るガンダムに撃破される。

**シムス・アル・バハロフ****CLASS** 中尉

機動戦士ガンダム

最新タイプ用MAフラウ・フロウの開発者である技術士官。シャリア・フルと共にブラウ・フロに搭乗し実戦に赴いた。データ収集のためとはいえ、かなりの度胸の持ち主。

**シャア・アズナブル****CLASS** 少佐→大佐

機動戦士ガンダム

「赤い彗星」と称される天才パイロット。最新タイプとして才能を発揮し、シャア・アズナブルの覚悟につれ、その力量は逆転。ランハ・ラルの支えであったララァまでをも失う。

**シャリア・フル****CLASS** 大尉

機動戦士ガンダム

最新タイプの最新タイプ用MAフラウ・フロに搭乗し、不穏な動きを見せるシャリアの監視のためにギレンが送った。フラウ・フロを駆ってアムロのガンダムに戦いを挑むが敗れて戦死。



シュタイナー・ハーディー

CLASS 大尉

機動戦士ガンダム0080
ポケットの中の戦争

「ク」に「大尉」の隊長。NT-1破壊命令
「交」はサイド6に潜入するが、標的を目前に
て戦死する。自らの任務が何であることに
気づきながらも、職務を全うしようとした。



ジョニー・ライデン

CLASS 少佐

MSV

キンリヤ魔トの突撃機動軍に所属するMS
パイロット。その真紅に塗られた機体から
「真紅の稲妻」の異名と呼ばれ、その名に違
わぬ優れた活躍を見せた。



シン・マツナガ

CLASS 大尉

MSV

「ミ」の信頼を得る。……
「日狼」という異名を持つ。……戦には
参加せず、サイド3で終戦を迎えるという説
もある。



スレンダー

CLASS

機動戦士ガンダム

………がガンダムに撃破されるな
………をき延び、シャアに情報を持ち帰
………の後、出港するホリイベースを攻撃
………際、ビームライフルに射抜かれ戦死する。



デニム

CLASS 曹長

機動戦士ガンダム

………、スレンダー………偵察し………
………ア配トのMSパイロット………ンが撃破
されたことに我慢できず、にカンナムに挑みか
かるが、ビームサーベルに貫かれる。



デミトリ

CLASS 少尉

機動戦士ガンダム

MAのテストパイロット。トクワンの部ト
であったが、カンナムに敗れた彼の仇討ちの
ため、テストが中止されていたザクレロで出
撃が、返り討ちにあい戦死した。



トクワン

CLASS 大尉

機動戦士ガンダム

新型MAヒクロバテス………ガン
ダムに挑みかかり、撃破か………まで
追いつめる。………の………を見んに、か
なりの名パイロットだったようだ。



ドズル・ザビ

CLASS 中將

機動戦士ガンダム

………攻撃軍を率いるザビ家の次男。外見通
りの猛将であるが、その顔に似ず家族思いの
面もあった。ソロモン攻防戦においてヒ
グ・サムで出撃、戦死する。



ドレン

CLASS 中尉→大尉

機動戦士ガンダム

シャアの副官としてファルメル艦長の艦長を務めた士官。サイト7の偵察に同行し、V作戦の実態とガンダムを目の当たりにする。シャアの左遷後はキャメル艦隊の司令官に着任。



トワニング

CLASS —

機動戦士ガンダム

キシリアの腹心ともいえる士官。キシリアに絶対の忠誠を誓い、彼女がギレンを暗殺したあとも、眉ひとつ動かさずに兵士たちの混乱を抑え、事態の収拾に努めた。



ニムス・シュターゼン

CLASS 中尉

機動戦士ガンダム外伝

上官を殺害したため、「EXAM」システムへのテストパイロットに左遷された。人間的には問題が多かったが技量は確か。騎士という位を公式に与えられていたといわれる。



ノリス・パッカード

CLASS 大佐

機動戦士ガンダム
第08MS小隊

サハリン家に仕える士官。グフ・カスタム1機で連邦軍MS部隊を撃破するほどの腕前の持ち主。人格者ではあったが、ギニアスの暴走を止めることはできなかった。



バーナード・ワイズマン

CLASS 伍長

機動戦士ガンダム0080
ポケットの中の戦争

サイクロプス隊に補充兵として送られたMSパイロット。隊の全滅後、ザクを操り単身アレックスに戦いを挑む。アレックスを撃破するが、コックピットを貫かれ戦死。



バロム

CLASS 大尉

機動戦士ガンダム

ソロモン救援に向かったキシリア配下の士官。ソロモンからの敗走兵を回収した。権謀術数に長けたマ・クベと比べ、ジョンの行く末を憂いた実直な人物である。



フラナガン・ブーン

CLASS —

機動戦士ガンダム

マ・ド・ボングラール隊の潜水艦艦長。スパイ活動からMAの操縦と、多彩な才能を発揮する。グラブでガンダムを苦しめるも、あと一歩というところで撃破され戦死。



マ・クベ

CLASS 少佐→大佐

機動戦士ガンダム

キシリアの懐刀としてさまざまな局面で配をふるう士官。戦略家としては優秀だが、オデッサ攻防戦では水爆を発射した。テキサスコロニーでガンダムと交戦し、戦死する。



マッシュ

CLASS 中尉

機動戦士ガンダム

「黒い」連星」の一角を担うMSハイコロト
ホワイトベース隊との初戦でオルテガを失
い、仇討ちのためにガンダムに挑むが、ガイ
アとともに撃破された。



マリオン・ウェルチ

CLASS

機動戦士ガンダム外伝

EXAM研究のため、被験体となった少女
ニュートタイプとして高い能力を持っていたが
実験中に命を落とす。それがクルスト博士の
亡命の原因であったとも言われる。



ミハイル・カミンスキー

CLASS 少時

機動戦士ガンダム0080
ポケットの中の戦争

サイクロプス隊に所属するMSは、コクピット内にホトルを持ち込むほどの酒好き。ケンパノールを駆ってアレックス破壊を試みるが、逆に撃破されてしまう。



ラファ・スン

CLASS 中尉

機動戦士ガンダム

シャアに見出された「コタツ」の少女
アムロと出会い、彼と心を通し合わせるが、
シャアを脱して撃破される。彼女の存在が、
後々までアムロとシャアを縛り付ける。



ランバ・ラル

CLASS 大師

機動戦士ガンダム

「青い「星」」異名を取る歴戦の強者 MS
操縦の技量だけでなくゲリラ戦にも秀で、自
兵戦で連邦軍の戦艦を落とした実績を持つ
アムロとの激戦の末、その命を落とした



レイラ (NT-001)

CLASS

オリジナル

ンオン軍が連邦軍のデータを入手し、完成させた初めての強化人間。連邦軍が作り出した強化人間同様、情緒不安定な部分はあるが、高いニュータイプ能力を有している。

「ジオン軍エースパイロット列伝」

■ジオンが誇る人材たち

ジオン軍は、数々のエースパイロットを輩出した。これは前線の兵士の士気高揚にも繋がったといわれる。戦力に圧倒的な差があったとしても、兵士の質が連邦軍を上回っていたことは確かだ。

▶ 青い巨星、ラ
フルは、ケ
ラ戦法のエキス
ートである

▶ 重い三連星
この人は、つねに
チームを組んで戦
った



▲ 真紅の稲妻」……「イ
ン」白狼」シン マツナカ セ
「赤い彗星 シャア アズナ
レ みなパーソナルカラーを
与えられたエースパイロットた
ちである

CHARACTER SPEC

デラース・フリート

ギレン総帥麾下のニュー・デラース率いる
ジオン残党。ア・ハオア・クー陥落直前に戦線
を離脱し、一時はアクシズに身を寄せていた
しかし、ジオン再興の大義を掲げ、「星の肩作
戦」を決行、連邦軍観艦式への核攻撃、地球
へのコロニー落としを行う



アナベル・ガトー

CLASS 大尉→少佐

機動戦士ガンダム0083
スターダストメモリー

年戦争では「バグ」の悪夢と呼ばれ、
連邦軍に恐れられたジオン軍パイロット。そ
の技量は超一流である。「星の肩作戦」の第1
段階としてガンダム2号機を強奪する



エギユ・デラース

CLASS 大佐→中將

機動戦士ガンダム0083
スターダストメモリー

ギレン親衛隊の隊長を務め、年戦争後に
「デラース・フリート」を結成した将校。「星の
肩作戦」を立案し、連邦軍を手玉に取るが、
ママの裏切りによって志半ばで散る



カリウス

CLASS 軍曹

機動戦士ガンダム0083
スターダストメモリー

年戦争時、第302哨戒中隊にガトーと一
緒に戦ったMSパイロット。「星の肩作戦」
でもガトーに随伴し、彼の助けとなった。作
戦終了後はアクシズに逃げる



ケリィ・レズナー

CLASS 一般

機動戦士ガンダム0083
スターダストメモリー

年戦争ではガトーの戦友として共に戦
ったが、片腕を失いフォン・ブラウンでジャン
ク屋を営んでいた。コウと共にMAヴァル・
ペロを修復し、ガンダムに戦いを挑む



シーマ・ガラハウ

CLASS 中佐

機動戦士ガンダム0083
スターダストメモリー

海兵隊を率いる女傑。艦隊指揮とMS操縦
の両面に高い才能を発揮した。連邦軍と内通
し、デラースを捕虜とするが、彼のセリフに
激昂し射殺する



ドライゼ

CLASS

機動戦士ガンダム0083
スターダストメモリー

ガンダム強奪作戦に参加したユー・フンの艦
長。離脱するガトーを回収してキンバライト
鉤山基地へ送る手助けをした。ガトーの意図
を事前に察知した有能な軍人



ノイエン・ビッター

CLASS 少将

機動戦士ガンダム0083
スターダストメモリー

キンハライド鉱山基地でレオン中戦艦をまとめる指揮官。HLVでカトーとガンダム2号機を打ち上げる間、閃となるためにアルビオン隊に攻撃を仕掛け、戦死



ビリィ・グラードル

CLASS 中佐

機動戦士ガンダム0083
スターダストメモリー

カトーの副官を務めるムサシの艦長。艦隊指揮に才能を発揮した、「星の屑作戦」のために出撃するMS隊を信号弾で送り出したカトーを信奉する実直な武人

CHARACTER SPEC

ティターンズ

アース紛争後に結成された地球連邦軍の部隊。本来はシオンの残党狩りなどを主任務としたが、スペースノイドの弾圧なども行っていた。部隊員のほとんどがアースノイドであることから、エリート意識の強い部隊であった



カクリコン・カクーラー

CLASS 中尉

機動戦士Zガンダム

フリートの親友兼ライバルのMSパイロット。策を弄して戦うこともできる有能なパイロットであった。地球にアメリカという念入を殺していたが、再会を前に戦死する



ジェリド・メサ

CLASS 中尉

機動戦士Zガンダム

エリート意識の強いティターンズの中で、とびきりプライドが高いMSパイロット。カミーユの名前にケチを付けたばかりに、彼ら人生は転落の憂き目にあってしまう



ジャマイカン・ダニング

CLASS 少佐

機動戦士Zガンダム

バスクの副官を務める上級艦隊を指揮する立場にもあったが、その傲慢な言動から部下の反感を買うことが多く、ついにはヤザンが恨みを買って彼の謀略により戦死する



ジャミトフ・ハイマン

CLASS 大将

機動戦士Zガンダム

ティターンズのリーダーとして地球圏掌握を目指す将校。彼の目指すものは、人類の衰退による地球の再生だったか、その野望を実現させることなくシロ、フロッグに倒れる



ゼロ・ムラサメ (プロト・ゼロ)

CLASS

オリジナル

ムラサメ研究所が作り出した最初の強化人間。特に強く闘争本能を植え付けられたため、自らの存在意義を戦いにしか見出せないことに矛盾と苛立ちを感じる



バスク・オム

CLASS 大佐

機動戦士Zガンダム

ターンズの戦術指揮官の立場にある。一年戦争時にジオン軍から受けた拷問のせいで、特製の眼鏡を着用しなければならない。選民思想が強く、弾圧を行う



パプテマス・シロッコ

CLASS 大尉

機動戦士Zガンダム

木星帰りのニュータイプで、あらゆる面にも才能を発揮する天才。女性主導の世界統治を説きつつも、自らの権力拡大を画策した野心家。死の瞬間にカミーユの精神を崩壊させた



フォウ・ムラサメ

CLASS 少尉

機動戦士Zガンダム

ムラサメ研究所生まれの4番目の強化人間。存在しないかもしれない自らの記憶を求めて戦いを強要される。カミーユと出会い共感しあうが、それは悲劇の始まりでもあった



マウアー・ファラオ

CLASS 中尉

機動戦士Zガンダム

ティターンズのMSパイロット。シャフリールでジェリドを助け、彼と行動をともにするようになる。彼とのコンビでカミーユを苦しめるが、ジェリドを守って戦死



ヤザン・ゲャブル

CLASS 中尉→大尉

機動戦士Zガンダム

野獣のようなMSパイロット。シャマイカンを陥れて戦死させた張本人。その反面、面倒見がよく、部下の信望は厚かった。グリブス戦役を生き残った希有なパイロット。



レコア・ロンド

CLASS 少尉

機動戦士Zガンダム

シロッコに惹かれてティターンズに移籍した、元エウゴのMSパイロット。グリブス戦役最終局面において、もとの同僚であったエマ・シーンと相打ちとなり戦死する。



ロザミア・バダム

CLASS 少尉→中尉

機動戦士Zガンダム

ティターンズの強化人間。一度カミーユに敗れ、再登場したときには「カミーユの妹」という記憶を刷り込まれていた。幼児期の記憶のフラッシュバックに苦しめられていた

CHARACTER SPEC

エウーゴ

フレックス・フォーラ准将が結成した反地球連邦組織 スペースノイドに支持され、アナハイム・エレクトロニクスの協力により武装化を進めた ガンダム Mk II 強奪を境にティターンズとの戦闘が激化 この戦いはのちに「グリブス戦役」と呼ばれる



アボリー

CLASS 中尉

機動戦士Zガンダム

クワトロと共にエウーゴに入った元シオン軍のMSパイロット。面倒見がよくパイロットたちの中心的な存在だった。MSの操縦にも長けた優れた人物であった。



アムロ・レイ

CLASS 大尉

機動戦士Zガンダム

一年戦争後、連邦軍の監視下にあったが、フラウ親子の訪問をきっかけに戦場に戻る。当初はブラントに悩んでいたが、周囲の後押しもありカラバの中心として活躍する。



エマ・シーン

CLASS 中尉

機動戦士Zガンダム

ハスクたちの非道を目の当たりにして、ティターンズからエウーゴに移籍したMSパイロット。女性としてはキツイ言動が目立ち、カミーユなどを叱責することもあった。



カミーユ・ビダン

CLASS 一般

機動戦士Zガンダム

クワトロたちのグリーン・ノア潜入に直面し、ティターンズへの遺恨からガンダム Mk-II を奪いエウーゴに参加したニュータイプの少年。優しそうな外見に似合わず気性が荒い。



クワトロ・バジーナ

CLASS 大尉

機動戦士Zガンダム

フレックスの片腕と「こエ」ゴ設立に力を貸した人物。後にダカールの連邦評議会で自らがシャアであることを明かし、ブレックス亡き後のエウーゴの指導者となる。



ハヤト・コバヤシ

CLASS 一般

機動戦士Zガンダム

エウーゴの支援組織「カラバ」のメンバー。アウドムラの艦長。地球に降下したカミーユらのバックアップをしていた。ハマーン率いるネオ・ジオンとの紛争で戦死する。



ファ・ユイリイ

CLASS 一般

機動戦士Ζガンダム

カミーユの幼なじみ。このころは、元々ガンダム Mk II 強奪事件の後、両親がティターンズに逮捕され、逃げたところをエゥーゴに救われる。



ブライト・ノア

CLASS 中佐→大佐

機動戦士ガンダム

年戦争後、閑職に追いやられるが、ティターンズの横暴を目撃し、ティターンズに参加する。移籍後は、ティターンズの艦長の座を引き継いだ。



ブレックス・フォーラ

CLASS 准尉

機動戦士Ζガンダム

連邦軍准尉であると同時に、ティターンズの政略者。ティターンズの政策に反発して軍事行動を起こすか、忠告で暗殺される。クワトロがシャアであることを見抜いていた。



ヘンケン・ベッケナー

CLASS 大佐

機動戦士Ζガンダム

ティターンズにおいてノライトと双璧を成す優秀な艦長。しばしば想いを寄せるが、それを伝えることができない不器用な性格。メールシトロム作戦において戦死する。



ロベルト

CLASS 中尉

機動戦士Ζガンダム

クワトロの幼なじみ。このころは、元々ガンダム Mk II 強奪事件の後、両親がティターンズに逮捕され、逃げたところをエゥーゴに救われる。

[クワトロ・バシーナとシャア・アズナブル]

■私人のシャア、公人のキャスバル

シャアが偽名を使って連邦軍に潜入したのは、自身の名前があまりにも有名になってしまったからではないだろうか。

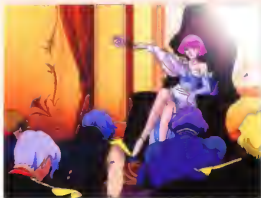


▲シャアは、クワトロ・バシーナという偽名を使って連邦軍に潜入する。このとき、彼はまだ「シャア・アズナブル」として知られていない。

CHARACTER SPEC

アクシズ

グリフス戦役時に地球圏へ帰還し、ジオン残党、ティターンズとエゥーゴの間を立ち回りながら、戦力を温存、戦局を混乱させる。グリフス戦役終結後、ネオ・ジオン を名乗り、地球圏の制圧に乗り出した。指導者はサビ家の後継者であるミネハ・ザビだが、実権は摂政であるハマーン・カーンが握っていた。



キャラ・スーン

CLASS

機動戦士ガンダムZZ

失敗続きのハマーンの監視役として送られた士官。MSに乗ると気分が高揚するという性格の持ち主。一時はアーガマの捕虜となり、家政婦？をしていた。



グレミー・トト

CLASS

機動戦士ガンダムZZ

ザビ家の前を引こも噂される若き士官。ニュータイプ部隊を擁するなど、次第に頭角を現す。後にハマーンに対して反乱を起こし、ネオ・ジオン崩壊の引き金となった。



デザート・ロンメル

CLASS 中佐

機動戦士ガンダムZZ

ネオジオン軍中佐。一年戦争後も投降せず、8年間の間アフリカのダカルに部隊を潜伏させていた。砂漠戦を得意としたことから、この名前がついたと思われる。



ハマーン・カーン

CLASS

機動戦士Zガンダム

アクシズに逃げ込んだジオン軍残党の指導者的存在。ニュータイプとしても優れた能力を持つ。グリフス戦役での地球圏の混乱を遂手に取って、一気に地球圏を支配した。



マッシュマー・ゼロ

CLASS

機動戦士ガンダムZZ

ハマーンに心酔する若き騎士。彼女にリベリオンを誘惑して肌身離さず付きまとい、MSの操縦に関しても一流の腕を持つ。さらに強化人間となった。



ユーリ・ハスラー

CLASS

機動戦士ガンダム0083
スターダストメモリー

デラーズの反乱に際して、ノイエ・シールをカトーの元にした艦隊司令「星の肩作戦」後は、敗残兵を回収してアクシズに戻った。デラーズとも旧知の仲だった。



ラカン・ダカラン

CLASS 大尉

機動戦士ガンダムZZ

一年戦争を引き抜いた、ア・バ・ワ・イロト
パイロットとして優秀なだけでなく、政治的
手腕も高く、グレミーとの取り引きで地球の
統治権を条件にハマーンに反旗を翻した



正統の旗の下に ～キシリア・正統ジオンのパイロットたち

キシリア・ザビ率いる正統ジオンは、強力なニュータイプ部隊を擁する。はやくからニュータイプに目を付けていたキシリアならではの陣容といえるだろう。また、彼女が謀報戦を得意とすることから、特殊部隊出身のパイロットも数多く正統ジオンに参加している。

▼キシリアに恩を受けた、赤い髪。も正統ジオンに参加。



▲ススコ アルも他のノ・カン機関のスタッフとして正統ジオンへ。



新しきカリスマに集う戦士 ～ガルマ・新生ジオンのパイロットたち

新生ジオンを興したガルマ・ザビは、子飼いの部下を有してはいない。しかし、ガルマの下に参加したドズル・ザビ配下の歴戦のパイロットたちが、ガルマの心強い味方となった。実質的には、新生ジオンの実戦指揮は兄ドズルが引き受けることになるだろう。

▼実戦経験豊富なコンラルの参加は、若いパイロットの士気を押し上げる。



▲ドズル・ザビ マナナもドズルとともに新生ジオンへ参加。



真なるジオンの精神を胸に ～シャア・ネオ・ジオンのパイロットたち

ネオ・ジオンにはジオン軍時代のシャアの部下だった士官が多く参加した。また、キャスバル自身がニュータイプであることから、ジオン公国軍が有していたニュータイプはすべて参加している。ジオンの精神を継ぐキャスバルの大きな力になることは間違いない。

▼シャア・アムロにキャスバルに付き従ったのは、当然のこと。



▲シャアの部下として、旗を挙げたリボリーも、ネオ・ジオンに参加。

【用語集】

U.C.0079~U.C.0093

ア

【フィールド】

厳密にはメガ粒子の方向に作用する力場のことを指すが、一般的にはビーム兵器を偏向させて効果を減退させる装置をこう呼ぶ。メガ粒子偏光器とも呼ばれる大きなエネルギーを必要とするので、大型のジェネレーターを積んだMSやMAにのみ搭載される。

【アクシズ】

ハマーン・カーン率いるネオ・ジオンが本拠地とする小惑星基地。本来はジオン公国が資源採掘のために建造したもので、火星と木星の間にあるアステロイドベルトに位置する。グリプス戦役時の地球圏の混乱に乗じて地球圏に帰還し、情勢を静観した。戦役後、ネオ・ジオンの設立を宣言し、各コロニーの掌握に乗り出した。

【アースノイド】

広義的には地球に住む人々のことを指す。しかし一般的には、地球に住むことを当然のことと考えて宇宙のことを顧みない、地球連邦政府の高官たちを指す呼び方ともいわれる。

【アナハイム・エレクトロニクス】

地球に本社を置く地球圏最大のMSメーカー。一年戦争後、ザクを開発したジオニック社を吸収し、MS開発のノウハウを得る。U.C.0081、10月にスタートした「ガンダム開発計画」を連邦軍から依頼される。その後も、エウゴの「Z計画」に協力しながらティターンズにMSを供与するなど、中立を守りながら経営を進めた。

【一年戦争】

U.C.0079、1月3日に起こった「ジオン独立戦争」。サイド3は「ジオン公国」を名乗り、地球連邦に対して宣戦を布告。開戦当初は優勢であったジオン公国であったが、戦局の長期化に伴い、戦線は硬直。そして、11月7日の「オデッサ作戦」でのジオン軍の敗北を機に形勢は完全に逆転する。その後、連邦軍の反撃が開始され、12月31日のア・バオア・クー陥落により、連邦軍の勝利に終わった。

【宇宙世紀(U.C.)】

90億以上に増え、さらなる上昇が予測される地球人口と地球環境の保護のため、宇宙移民が開始された年を元年とする人類共通の年号。

【エウゴ】

地球連邦軍宇宙軍内部の反地球連邦派が結成した組織。一部の政治家や資本家の支持を受け、宇宙艦隊を編成、MS部隊も保有していた。ティターンズとの抗争の結果、正規軍として認められたが、この抗争は連邦軍の弱体化を招き、第一次ネオ・ジオン戦争を引き起こすこととなった。

【EXAMシステム】

ジオンのフラナガン機関に所属するクルスト・モーゼス博士が開発したMS/HIOS（オペレーション・システム）ニュータイプ戦闘能力をOSに付加することが目的だったが、他のニュータイプを感知すると暴走するという欠陥を抱えていた。博士が連邦軍に亡命した後は、連邦軍で研究が続けられた。

カ

【ガンダリウムⅦ（ガンマ）】

アクシズで開発された新合金。従来のMSを使用されてきたチタン合金よりも耐熱性、剛性に優れ、さらに放射線遮断効果も高いというMSの装甲材にはうってつけの素材であった。クワトロ・バジーナの手によって地球圏に持ち込まれて以来、MS用装甲材の主流となっていた。

【強化人間】

人工的にニュータイプ能力を植え付けられた人間。薬物や催眠によって、身体的能力や感覚、知覚能力の強化が行われた。一年戦争後、連邦軍によって研究が進められた。この時期にはオーガスタ研究所やムラサメ研究所などのニュータイプ研究施設が相次いで設立された。

【コントリズム】

ジオン共和国の建国者ジオン・ズム・ダイクンが提唱したことから「ジオニズム」とも呼ばれる。地球を神聖なものとし、全人類の宇宙移民とスペースコロニーの独立・自立を唱えた。ジオン公国はこの思想を選民思想にすり替え、国民に植え付けた。

サ

【サイコミュ】

サイコ・コミュニケーターの略称。ニュータイプの感応波をコンピュータ言語に変換するシステムである。これにより、パイロットの意志をダイレクトに機体の操縦に反映させることが可能となった。これを兵器レベルで利用したものが、ビットやファンネルといった遠隔操作兵器である。

【ジオン公国】

もとはコントリズムを唱えるジオン・ズム・ダイクンが興した共和国であった。しかし、ダイクンの死後、その後継者となったデキン・ソド・ザビ

により公国制が敷かれ「ジオン公国」となった。ジオン公国は共和国が行っていた和平政策を破棄し、武力闘争を訴えた。また、コントリズムを曲解し、国民に選民思想を植え付けた。こうした思想が一年戦争を引き起こす原因となった。戦後、再び共和国制が敷かれた。

【スペースコロニー】

ラグランジュポイントに建設された巨大な円筒形の人工宇宙島。その全長は約30kmにも及ぶ。円筒部分（シリンダー）を回転させることによって遠心力を生み出し擬似重力とする。ミラーによって太陽光を反射して光を得る開放型と、太陽光を利用せず人工の光のみを使用する密閉型の2種類に分かれる。コロニー1基を1パンチとして30〜40パンチでひとつのサイドと呼ばれる。

【スペースノイド】

宇宙移民者のことを指す。しかし、広範な意味では宇宙に関連した職業に就いている人のことという。コロニーで生まれた者はスペースノイド独特の思想を持つともいわれた。

タ

【地球連邦】

コロニーなどを含む全地球圏を統べる機関。もとは国家間の武力衝突を回避するために設立された。しかし、後に

地球至上主義を唱え、スペースノイドの弾圧に乗り出す。こうした圧制はスペースノイドの反発を生み、反連邦政府活動が活発となる。一年戦争後、第2のジオン公国の出現を恐れ、スペースノイドのさらなる弾圧を行う。彼らのスペースノイドに対する差別意識が、一年戦争以降に起こる戦乱の土壌を生み出したといえる。

【ティターンズ】

デラーズ紛争後、地球連邦軍ジャミトフ・ハイマンによって設立された。ジオン軍残党狩りを名目としていたが、裏ではスペースノイドに対する弾圧も行った。その後、地球連邦軍の全権を掌握するに至るが、ダカール演説以後、急速にその力を失いグリプス2での戦いにより壊滅した。

【デラーズ・フリート】

ジオン公国軍大佐エギーユ・デラーズが組織したジオン公国軍残党の艦隊。ジオン軍残党としては、アクシズと並ぶ規模を持っていた。一時はアクシズに身を寄せていたが、艦隊を率い、暗礁宙域に「英の園」を建設、ここを拠点として反連邦活動を行った。U.C.0083、連邦のガンダム開発計画の完成とともに「星の屑作戦」を実行する。これは「デラーズ紛争」とも呼ばれ、一年戦争後最大の事件となった。

— ナ —

【南極条約】

U.C.0079、1月31日、南極で締結された戦時条約。ルウム戦役での敗北とレビル將軍の捕虜という事態を招いた連邦軍に対し、ジオン公国軍は停戦条約の締結を提案する。これは事実上の降伏条約であった。しかし締結直前に連邦軍特殊部隊による救出作戦が成功、レビル將軍は帰還を果たす。このニュースを聞いた連邦軍は徹底交戦を決定、条約を『BC兵器および核兵器の使用禁止、中立地帯への不可侵』などの国際法の再確認にとどめた。

【ニュータイプ】

ジオン・ズム・ダイクンが唱えた人類の革新「宇宙という新たな環境に住むようになった人間は認識力を拡大させ、より完全なコミュニケーションが取れる」とされた。しかし、ジオン、連邦両軍ではハイロットとしての特性の高いものとして認識されていた。

— ハ —

【V作戦】

地球連邦軍の新兵器開発計画。U.C.0079、4月に開始され、新型モビルスーツとその母艦の開発を要としていた。サイド7においてその最終段階を迎えるが、計画をジオン軍が察知、ザク2機の攻撃を受けた。しかし、民間人アムロ・レイがRX-78-2ガンダムを起動、史上初のMS戦を行った。

— マ —

【マグネット・コーティング】

連邦軍のモスク・ハン博士によって完成した技術。MSの駆動系を電磁気で包むことによって機体の反応を速くするというものである。

【ミノフスキー粒子】

ミノフスキー博士が発見した物質。静止重量がほとんどゼロの正または負に帯電した素粒子。その静電引力と粒子間に働く相互作用により、立方格子状に結晶化、特殊なフィールドを形成する。長距離電波による通信や誘導を阻害する作用を持ち、MSによる有視界戦闘が主流となる要因となった。また、メガ粒子砲やIフィールドもミノフスキー粒子を利用して完成された技術である。

【ムーバブル・フレーム】

駆動用の骨組みを装甲板で包むMS技術。これによって軽量化と機動性の向上が図られた。装甲板と内部骨格を別にしたことで、メンテナンスが容易になったことも利点のひとつ。また、可変MSの実現にもこの技術が貢献している。

【木星船団】

木星から核融合の燃料となる「ヘリウム3」を採掘して地球圏に輸送することを目的としたエネルギー輸送船団。ジオン公国のシャリア・ブルや

ティターンズのハブテマス・シロッコは、この木星船団の出身である。

【モビルアーマー(MA)】

MSの戦闘力強化を目指して人型を廃した機動兵器。MSを大幅に上回る機動力と火力を持つが、汎用性に欠けるため、局地戦用の兵器となった。一年戦争後期に、いくつかの機体が実験的に配備された。

【モビルスーツ(MS)】

戦術汎用宇宙兵器。あらゆる環境下での運用を目的として開発された人型兵器。ミノフスキー粒子下での運用を目的としてU.C.0070ころからジオン公国が開発を進めた。その汎用性の高さから戦闘以外にも様々な用途に使用された。

— ラ —

【ルウム戦役】

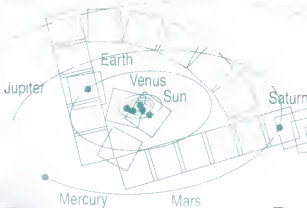
サイド5（ルウム）近海で行われた史上最大の艦隊戦。1週間戦争時に行ったコロニー落としを再度、実行するためサイド5に向かったジオン艦隊は、連邦軍の抵抗にあい計画を変更。ジオン艦艇の3倍近い戦力を持って戦いに臨んだ連邦艦隊は、新兵器モビルスーツの前に全艦艇の半数以上を失った。またレビル將軍も脱出途中でジオン軍に捕らえられてしまった。

機動戦士ガンダム ギレンの野望

ジオンの系譜

一年戦争戦略研究

2000年6月30日初版第1刷発行



STAFF

構成	(株)ササキ商店出版部 坂口徳仁
本文	(株)ササキ商店出版部 坂口徳仁
	杉山和繁
カバーデザイン	ヒロ久保寺
本文デザイン	株式会社アートプレスト
DTPオペレーション	株式会社アートプレスト
担当編集	大塚訓章

©創通エージェンシー・サンライズ

©BANDAI 2000

発行人	高橋恭
編集人	池山一二
発行所	株式会社ディー・ツー出版
	〒164-0012 東京都中野区本町3-28-19
	電話 03-3370-3061 (営業)
	03-3370-2361 (編集)
	FAX 03-3370-2419
印刷	株式会社報宣印刷

落丁、乱丁本はお取り替えます。定価はカバーに表示してあります。
本書の一部あるいは全部を無断で複製・転載・上梓・放送することは、
法律で定められた場合を除き、著作権及び出版社の権利の侵害になります。
その場合は予め小社あてに許諾をお求め下さい。

機動戦士ガンダム
ギレンの野望～ジオンの系譜



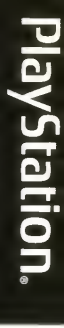
一年戦争戦略研究

MOBILE SUIT GUNDAM GIHREN'S GREED BLOOD OF ZEON





“PS”マークおよび“PlayStation”は株式会社ソニー・コンピュータエンタテインメントの商標です。
©創通エージェンシー・サンライズ
©BANDAI 2000



機動戦士ガンダム
キレシンの野望
シンオンの系譜

全職全職
略略



機動戦士ガンダム
ギレンの野望～ジオンの系譜



一年戦争戦略研究

MOBILE SUIT GUNDAM GIREN'S GREED BLOOD OF ZEDN



何処で、何が、起こったのか!?

人類の半数を死に追いやり、後世に禍根を残しつつ終結した、
史上類を見ないほどの苛烈な戦い。それが「一年戦争」である。

本書は、『機動戦士ガンダム ギレンの野望～ジオンの系譜』を通じて、
この戦いの発端から終結までの軌跡を徹底的に検証するものである。

ISBN4-88749-054-2

C0376 ¥1300E

定価:本体1,300円(税別)

株式会社ティーツー出版

©T2 PUBLISHING CO.,LTD.

Printed in Japan



9784887490543



1920376013000



Chapter 1 「一年戦争」徹底検証

U.C.0079年1月~12月、戦時下における両軍の戦術と戦略について徹底検証する

Chapter 2 地球圏に関する考察

ジャブロー、サイド3、オデッサ、グラナダなど、78の地域と戦場を解説する

Chapter 3 MSプロファイル

全284種のMS、MA、戦艦などについて、系統別に分類し、詳細に分析する

Chapter 4 戦士達と戦いの記録

「一年戦争」を戦った、総勢123名の将校、兵士に関する機密情報を掲載する

機動戦士ガンダム シリーズの歴史

機動戦士ガンダム
シリーズの歴史
ギレンの野望とジオンの系譜

全職全職
戦略研究

機密情報
満載！



機動戦士ガンダム
ギレンの野望〜ジオンの系譜



一年戦争戦略研究

MOBILE SUIT GUNDAM GIREN'S GREED BLOOD OF ZEON



ISBN4-88749-054-2

C0376 ¥1300E

定価：本体1,300円(税別)

株式会社ティーツー出版

©T2 PUBLISHING CO.,LTD.

Printed in Japan



9784887490543



1920376013000



"PS"マークおよび "PlayStation" は株式会社ソニー・コンピュータエンタテインメントの商標です。

©創通エージェンシー・サンライズ

©BANDAI 2000

高达の歴史

機動戦士ガンダム
ギレンの野望
ジオンの系譜

全
戦
全
戦
略
研
究

